



AVENTAGE

AV レシーバー

RX-A3080

RX-A2080

取扱説明書

musicCast

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機は、ご家庭で映像や音声を楽しむための製品です。
- 本説明書では、本機をお使いになる方のための設置や操作方法を説明しています。
- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「スタートアップガイド」が付属しています。はじめに「スタートアップガイド」をご覧ください。
本書および「スタートアップガイド」は以下のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。

<http://download.yamaha.com/jp/>

目次

商標	5
付属品を確認する	7

本機の特長 8

本機でできること	8
便利なアプリケーション	12
AV CONTROLLER	12
AV SETUP GUIDE	12
MusicCast CONTROLLER	12
各部の名称	13
前面	13
前面ディスプレイ（インジケーター）	15
背面	16
リモコン	18

準備する 19

使用までの基本的な流れ	19
1 スピーカーを接続する	20
スピーカーシステム（基本編）	21
スピーカーシステム（応用編）	29
2 テレビや再生機器を接続する	40
入出力端子とケーブル	40
テレビを接続する	41
ビデオ機器を接続する（BD/DVD プレーヤーなど）	43
オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど）	44
本体前面の端子に接続する	45

3 FM/AM アンテナを接続する	46
4 ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする	47
ネットワークケーブルを接続する	47
無線アンテナを準備する	47
5 その他の機器を接続する	48
トリガー機能対応の機器を接続する	48
6 電源コードを接続する	48
7 スピーカー設定を行う	49
8 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）	50
測定前の準備	50
1 か所で測定する（シングル測定）	53
複数の視聴位置で測定する（マルチ測定）	55
測定結果を確認する	58
最後に保存した YPAO 補正值に戻す	58
エラーメッセージ	59
警告メッセージ	60
9 無線ネットワーク機器に接続する	61
接続方法を選ぶ	61
無線ネットワークに接続する	61
10 MusicCast ネットワークに接続する	67
MusicCast CONTROLLER	67

再生する 68

再生の基本操作	68
HDMI 出力端子を切り替える	68

入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）.....	69
シーンに好みの設定を登録する	69
好みのサウンドを選ぶ	70
場面に最適なサラウンド効果で再生する（SURROUND:AI）	71
立体的な音場を楽しむ（シネマ DSP HD ³ ）.....	71
音場効果をかけずに再生する	74
原音に忠実な音質で再生する（ピュアダイレクト）	75
圧縮音源をダイナミック再生する（ミュージックエンハンサー）.....	75
FM/AM ラジオを聴く	76
周波数を指定して選局する	76
お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット）	76
Bluetooth で音楽を聴く	79
Bluetooth 機器の曲を本機で再生する.....	79
USB 機器の曲を再生する	80
USB 機器を接続する	80
USB 機器の曲を選ぶ	80
メディアサーバー（パソコン/NAS）の曲を再生する.....	83
メディアの共有設定を行う	83
パソコン（サーバー）の曲を選ぶ	84
インターネットラジオを聴く	86
インターネットラジオ局を選ぶ	86
お気に入りのインターネットラジオ局を登録する（お気に入り）.....	88
radiko.jp でラジオを聴く	89
ラジオ局を選ぶ.....	89
Spotify サービスの曲を聴く	90
Spotify の曲を再生する	90
Deezer サービスの曲を聴く	91
Deezer の曲を再生する.....	91
AirPlay で iTunes/iPod の曲を聴く	92
iTunes/iPod の曲を再生する	92

複数の部屋で映像 / 音楽を楽しむ（マルチゾーン）.....	94
マルチゾーン設置例.....	94
別の部屋の機器を接続する	95
ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 を操作する	98
すべての部屋で同じ音楽を聴く（パーティーモード）	99
お気に入りのコンテンツを登録する（ショートカット）.....	100
コンテンツを登録する.....	100
登録したコンテンツを呼び出す	100
現在の状態を確認する	101
前面ディスプレイの表示を切り替える	101
テレビ画面でステータス情報を確認する	102
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）.....	103
オプションメニューでできること	104

設定する 110

各種機能の設定（設定メニュー）.....	110
設定メニューでできること	111
スピーカー設定	116
音声設定	121
シーン設定	127
ビデオ /HDMI 設定	129
ネットワーク設定	132
Bluetooth 設定	135
マルチゾーン設定	136
システム設定	138
アドバンスト設定を変更する （アドバンストセットアップメニュー）.....	144
アドバンストセットアップメニューの基本操作.....	144
アドバンストセットアップメニューでできること	144
スピーカーインピーダンス設定の変更（SPEAKER IMP.）.....	144
リモコン信号の受信設定（REMOTE SENSOR）	145

リモコン ID の変更 (REMOTE ID)	145
ビデオ信号方式の変更 (TV FORMAT)	145
HDMI 映像出力の制限解除 (MONITOR CHECK)	145
HDMI 4K 信号のフォーマット設定 (4K MODE)	146
DTS フォーマットの通知設定 (DTS MODE)	146
設定の保存 / 復元 (BACKUP/RESTORE)	146
設定の初期化 (INITIALIZE)	147
ファームウェアの更新 (FIRM. UPDATE)	147
ファームウェアバージョンの確認 (VERSION)	147
ファームウェアの更新について	148
ネットワーク経由でファームウェアを更新する	148

付録 149

こんな場合の解決方法	149
------------------	-----

故障かな？と思ったら	150
------------------	-----

電源 / システム / リモコン	150
音声	151
映像	153
FM/AM ラジオ	154
Bluetooth	155
USB/ ネットワーク	156

前面ディスプレイのエラー表示	158
----------------------	-----

用語 / 技術解説	159
-----------------	-----

音声に関する用語	159
HDMI/ 映像に関する用語	160
ネットワークに関する用語	161
ヤマハテクノロジー	161

本機が対応している機器 / ファイル形式	162
----------------------------	-----

対応機器	162
対応ファイル形式	162
映像信号の流れ	163

マルチゾーン出力	164
----------------	-----

HDMI について	164
------------------------	------------

HDMI コントロール	164
オーディオリターンチャンネル (ARC)	166
本機が対応している HDMI 信号	166

主な仕様	167
-------------------	------------

商標



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Surround、Dolby Vision、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS, Inc. のライセンスに基づき製造しています。DTS とそのシンボルマーク、および DTS とそのシンボルマークの組み合わせ、DTS:X、DTS:X ロゴは米国及びその他の国々における DTS Inc. の登録商標または商標です。© DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。



Works with Apple バッジを表記したアクセサリは、バッジが表す技術に適合するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定されたアクセサリであることを示します。

Apple、iPad、iPad Air、iPad Pro、iPhone、iTunes は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。日本国内において、iPhone 商標はアイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

App Store は Apple Inc. のサービスマークです。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。



本機はネットワーク接続に対応しています。



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。



「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。



Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国々における登録商標です。

Internet Explorer、Windows Media Audio、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国々における登録商標、または商標です。



Android および Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。

ブルーレイは Blu-ray Disc Association の商標です。



Wi-Fi CERTIFIED ロゴおよび Wi-Fi Protected Setup ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

Wi-Fi、Wi-Fi CERTIFIED、Wi-Fi Protected Setup および WPA2 は Wi-Fi Alliance の登録商標または商標です。



「ラジコ」、「radiko」および radiko ロゴは株式会社 radiko の登録商標です。



Spotify および Spotify ロゴは Spotify Group の登録商標です。Spotify のソフトウェアは、以下に記載のサードパーティソフトウェアを利用しています。
www.spotify.com/connect/third-party-licenses



Deezer および Deezer ロゴはフランスおよびその他の国に登録済みの Deezer S.A. の登録商標です。



MusicCast はヤマハ株式会社の商標または登録商標です。



ヤマハエコラベルは、優れた環境性能を備えた製品として、ヤマハグループが認定するマークです。



「サイレントシネマ™ SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

Google Noto Fonts

本製品は以下のフォントを使用しています。

Noto Sans Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/#sans-lgc>)

© June 2015, Google Noto Sans CJK Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/help/cjk/>)

© June 2015, Google

これらのフォントソフトウェアは、SIL Open Font License 1.1のもとライセンスされています。ライセンスに関しては、<http://scripts.sil.org/OFL> のFAQをご覧ください。

GPL/LGPL について

本製品は、GPL/LGPL ライセンスが適用されたオープンソースソフトウェアのコードを一部に使用しています。お客様は GPL/LGPL ライセンスの条件に従い、これらのソフトウェアのソースコードを入手、改変、再配布する権利があります。

GPL/LGPL ライセンスの適用を受けるソフトウェアの概要、ソースコードの入手、GPL/LGPL ライセンスの内容につきましては、以下の弊社ウェブサイトをご覧ください。

<http://download.yamaha.com/sourcecodes/musiccast/>

ライセンス情報

本製品が使用するサードパーティソフトウェアについては、次で確認できます。

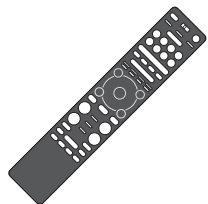
[http://\(本製品のIPアドレス\)/licenses.html](http://(本製品のIPアドレス)/licenses.html)

* 本製品の IP アドレスは MusicCast CONTROLLER で確認できます。

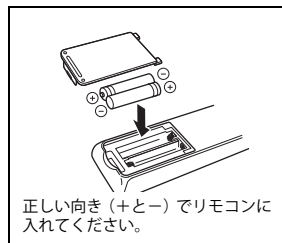
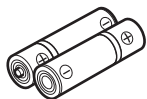
付属品を確認する

すべて揃っていることをお確かめください。

□ リモコン



□ 単 4 乾電池 (2 本)



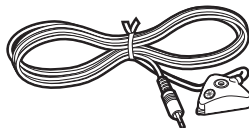
□ AM アンテナ



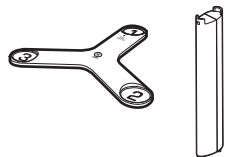
□ FM アンテナ



□ YPAO 用マイク



□ マイクベース
ポール



□ 電源コード

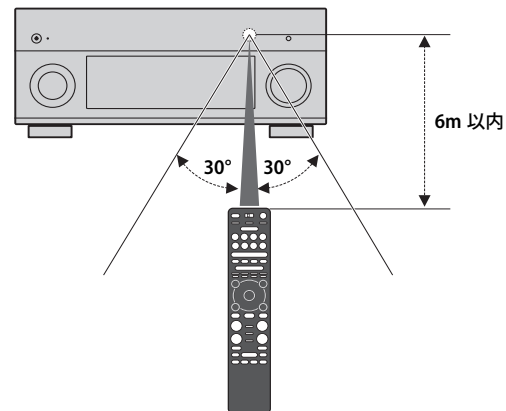


□ 取扱説明書 (本書)
□ スタートアップガイド

YPAO の角度 / 高さ測定時に使います。

リモコンの操作範囲

• 本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



• 本書は RX-A3080 のイラスト (本体、リモコン、画面表示) を例に説明しています。

- 製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書は付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本書は iPod touch、iPhone および iPad を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod touch、iPhone および iPad を意味します。
- 本書で使用されている記号



使用時の注意点や機能の制約が記載されています。



知っておくと便利な補足情報が記載されています。

本機の特長

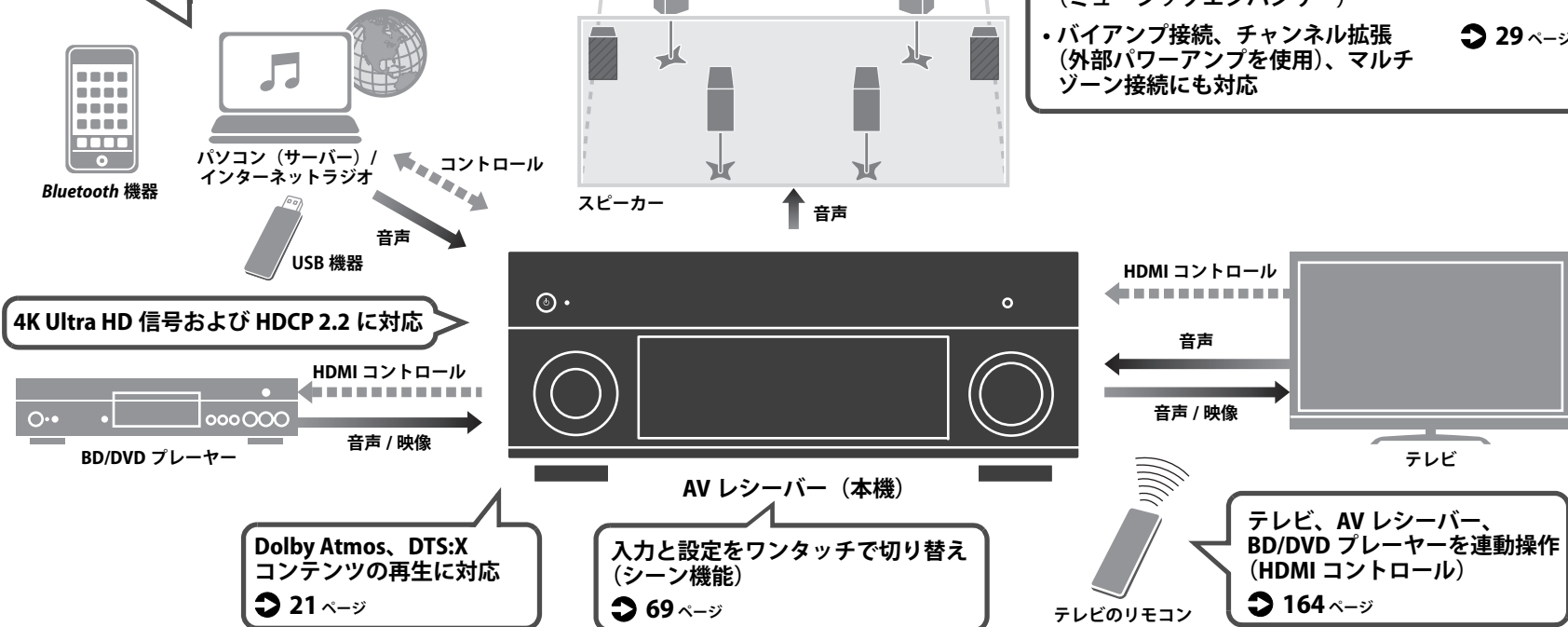
本機でできること

対応コンテンツが豊富

- Bluetooth 79 ページ
- USB 80 ページ
- パソコン（サーバー） 83 ページ
- インターネットラジオ 86 ページ
- radiko.jp 89 ページ
- Spotify 90 ページ
- Deezer 91 ページ
- AirPlay（iTunes/iPod） 92 ページ

2～9チャンネル（+リアプレゼンス）のスピーカーシステム、サブウーファー2台の接続に対応、さまざまなスタイルでお好みの音響空間を満喫

- 部屋に合わせてスピーカー設定をかんたん自動調整（YPAO） 50 ページ
- ステレオ音声やマルチチャンネル音声を映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場で再現（シネマ DSP） 71 ページ
- 圧縮オーディオもダイナミックに再生（ミュージックエンハンサー） 75 ページ
- バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプを使用）、マルチゾーン接続にも対応 29 ページ



便利な機能が満載！

□ さまざまな外部機器を接続（40 ページ）

本機には、複数の HDMI 端子に加えて各種の入力 / 出力端子が装備されているので、BD/DVD プレーヤーなどのビデオ機器、CD プレーヤーなどのオーディオ機器、ゲーム機やビデオカメラなどさまざまな外部機器を接続できます。

□ HDMI ケーブル1本でテレビ音声もサラウンド再生（オーディオリターンチャンネル：ARC）（40 ページ）

ARC 対応のテレビをお使いの場合は、HDMI ケーブル1本でテレビへの映像出力、テレビからの音声入力、HDMI コントロール信号の伝送がすべて可能です。



□ 無線ネットワーク接続に対応（61 ページ）

本機は Wi-Fi 機能に対応しているので、ケーブルなしで無線ルーター（アクセスポイント）に接続できます。



□ 進化したシネマ DSP エンターテインメント系プログラム（72 ページ）

フロント側の音場を左右独立で処理することにより、定位感と移動感が向上しています。
ボーカル、楽器、ナレーションなどがよりクリアに聴こえ、効果音がよりダイナミックに表現されます。

□ コンテンツのシーンに最適化されたサラウンド効果を創出（SURROUND:AI）（71 ページ）

DSP の内部にシーンを分析する AI を搭載し、コンテンツの場面に応じた最適なサラウンド効果を創り出す機能です。この AI は、「セリフ」「BGM」「環境音」「効果音」などの音の要素に注目してシーンを瞬時に分析し、サラウンド効果をリアルタイムに最適化します。これにより従来の音場効果を越えた表現力で、圧倒的な臨場感を創り出します。

□ 前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生（73 ページ）

部屋の後方に設置スペースがない場合など、サラウンドスピーカーを前方に設置して、マルチチャンネル再生を楽しめます（バーチャルシネマフロント）。

□ MusicCast でホームオーディオネットワーク（67 ページ）

MusicCast 機能を使うと、ご家庭の複数の部屋に設置したオーディオ機器で音楽を共有し、同時に再生することができます。また、専用のモバイル機器アプリ「MusicCast CONTROLLER」を使って各機器を操作することも可能です。

こんな場合はどうするの！？

映像は HDMI、音声は HDMI 以外で出力する再生機器を接続したい ...

オプションメニューの「音声入力選択」で、使用する音声入力端子の種類を入力ごとに選べます（107 ページ）。

テレビの映像とスピーカーの音声はずれている ...

設定メニューまたはオプションメニューの「リップシンク」で、映像と音声の出力タイミングを調整できます（121 ページ）。

テレビのスピーカーから音声を出力したい ...

設定メニューの「HDMI 音声出力」で、本機に入力された音声の出力先を設定できます（131 ページ）。

低音にもっと迫力がほしい ...

オプションメニューの「エクストラベース」を「オン」にすることで、より豊かな低音を楽しめます（107 ページ）。

ファームウェアを更新したい ...

設定メニューの「ファームウェアアップデート」で、本機のファームウェアを更新できます（143 ページ）。本機がインターネットに接続されている場合は、ファームウェアの更新が可能になるとテレビ画面にメッセージが表示されます（148 ページ）。

ほかにも本機をカスタマイズする設定がたくさんあります。詳しくは以下のページをご覧ください。

- ・シーン機能の設定（127 ページ）
- ・音場プログラムやサラウンドデコーダーの設定（122 ページ）
- ・各種機能の設定（111 ページ）
- ・アドバンスドセットアップ（144 ページ）

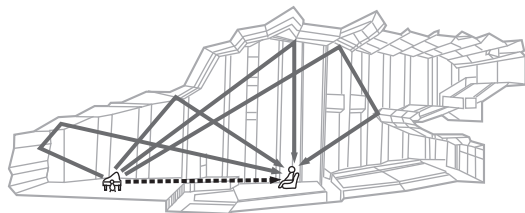
空間を表現するシネマ DSP

コンサートホールで体験した感動、映画の中にあるような迫力、この体感を自宅のリビングでも再現したい。ヤマハはこういったお客様の要望にこたえるべく、30年にわたってその追求を続けています。ヤマハ AV レシーバーはその成果の結晶です。

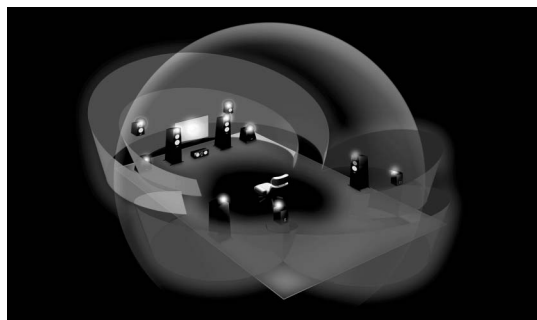
音場とは？

人は声や楽器の音など直接聞こえる音（直接音）だけでなく、建物の壁や天井によって生じる響き（反射音や残響音）も含めて音を感じています。反射音や残響音の性質は、建物の形状や広さ、材質などさまざまな条件により異なり、これらの音がすべて合わさって、人はその場にいることを聴覚で感じることができます。このように、「ある空間が持つ特有の音の響き」のことを「音場」と言います。

コンサートホールの音場イメージ



本機が創り出す音場イメージ



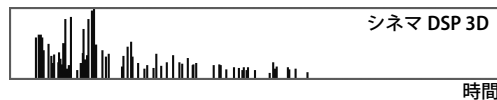
シネマ DSP

ヤマハは、世界中のコンサートホールやライブハウスなどの音場を実際に測定し、膨大なデータを蓄積しています。そのデータを応用し、音場の創生を可能にしたのが「シネマ DSP」です。本機にはシネマ DSP を採用したさまざまな音場プログラムが搭載されています。映画、音楽、ゲームなど、再生ソースの内容に応じて音場プログラムを選択することで、その作品の音響効果を最大限に引き出すことができます。（たとえば、映画用の音場プログラムでは、その場面にいるような臨場感をもたらします。）

シネマ DSP HD³

音場データに含まれる膨大な反射音の情報を最大限駆使して、ヤマハ最高峰の3次元音場再生を実現したのが「シネマ DSP HD³（HD キュービック）」です。通常のシネマ DSP 3D と比べ2倍以上の反射音再現能力と、高い周波数再生能力を実現、ごく自然で迫力のある立体空間を提供します。

反射音再現能力（音場プログラム「ミュンヘン」選択時）

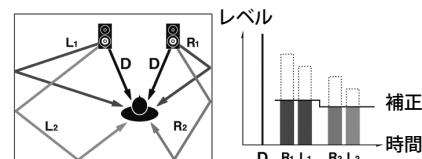


YPAO

YPAO は、最適な音声とサラウンド環境を提供するためのヤマハ独自の自動補正システムです。マイク測定を行うことで、各種スピーカー設定や音場効果を自動的に調整し、高品位なコンテンツ再生をするのに理想的な視聴環境を創り出します。

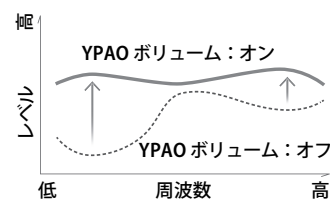
YPAO-R.S.C.

一般家庭では壁や天井からの反射音により、低音域がぼやける、音像がにじむなどの音質劣化が生じます。「YPAO-R.S.C.」はこういった不要な反射音のみを軽減し、理想的な音響環境を提供する技術です。



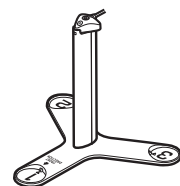
YPAO ボリューム

YPAO ボリュームを使用すると、音量に連動して低音域/高音域のバランスが自動的に調節されます。これにより小音量でも自然な音質バランスを楽しめます。



YPAO 3D 測定

視聴位置から見たフロントスピーカー、サラウンドスピーカー、プレゼンススピーカーの方向（角度）、プレゼンススピーカーの高さを測定し、より効果的なシネマ DSP の3D音場が得られるように音場処理を補正します。

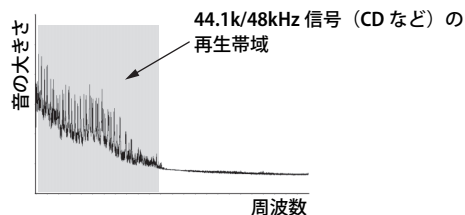


圧巻の音声 / 映像クオリティー

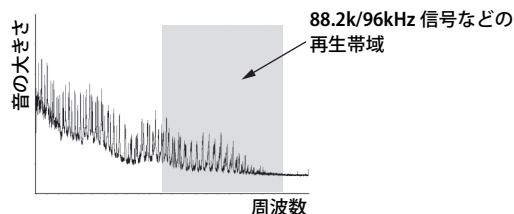
ハイレゾリューション・ ミュージックエンハンサー

CD (2 チャンネル PCM) や FLAC など、44.1k/48kHz 2ch ロスレスコンテンツに対し、96kHz/24bit までのハイビット・ハイサンプリング拡張を実現、オリジナルのコンテンツが持つ音楽性をさらに高めて再生します (107 ページ)。

処理前



処理後



高画質ビデオ処理

低画質なデジタル映像から BD (ブルーレイディスク) の映像まで、あらゆるコンテンツを高画質に再生します (129 ページ)。

- ・ モーション / エッジ適応型 I/P 変換
 - ・ マルチケイデンス検出 (3:2 プルダウンを含む)
 - ・ 入力ごとに最大 6 パターンの画質登録 (プリセット)
- 細部強調やエッジ強調などの微調整も可能です。

多彩なニーズにこたえる拡張性

バイアンプ接続・外部パワーアンプ 拡張に対応

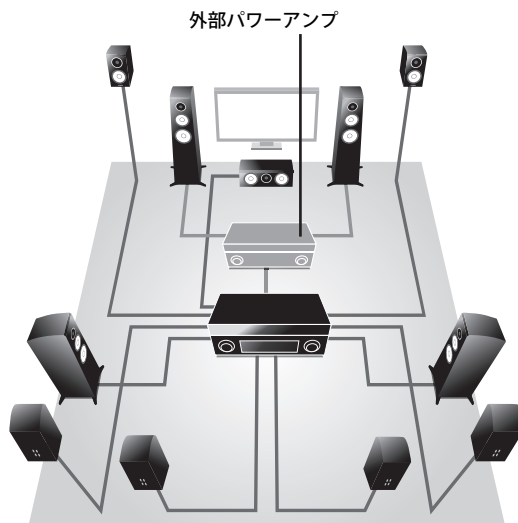
バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを接続してさらに音質を高めたり、外部パワーアンプ (ハイファイアンプなど) と組み合わせてシステムを拡張したりすることができます。

詳しくは、「構成パターン一覧」(30 ページ) をご覧ください。

ヤマハ最高峰の 11.2 チャンネルシステム (RX-A3080 のみ)

外部パワーアンプを接続することで、シネマ DSP の最高峰 11.2 チャンネル 3 次元音場をお楽しみいただけます。

(例)

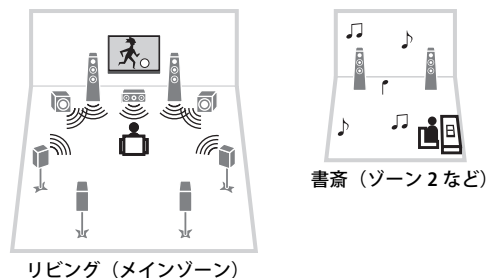


マルチゾーン機能

マルチゾーン機能 (94 ページ) を使うと、本機を設置した部屋 (メインゾーン) と別の部屋 (ゾーン 2 など) で、それぞれ入力を選んで再生できます。(以下は使用方法の一例です。)

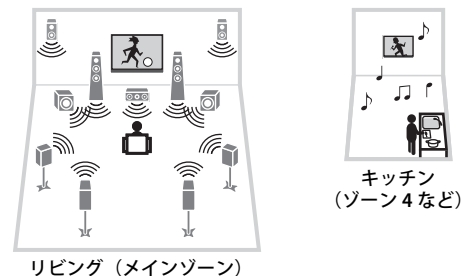
別の部屋のスピーカーで音楽を楽しむ

リビングでマルチチャンネル再生を楽しみながら、別の部屋のスピーカーで音楽を聴くことができます。



別の部屋のテレビで映像を楽しむ (HDMI 接続)

リビングでマルチチャンネル再生を楽しみながら、HDMI で入力された映像 / 音楽を別の部屋のテレビで楽しむことができます。



便利なアプリケーション

AV CONTROLLER



「AV CONTROLLER」は、お持ちのスマートフォンやタブレットを使って、Wi-Fi 経由でヤマハ製ネットワーク機器を操作するためのアプリケーションです。電源操作（入 / 切）や音量調節などの基本操作をはじめ、入力ソースの切替えや曲の再生操作など、さまざまな操作に対応しています。

主な機能

- 電源操作（入 / 切）、音量調節
- 入力、シーン、音場プログラムの選択
- サウンド設定
- 再生操作（一部の入力では曲の選択も可能）



- 詳しくは、App Store または Google Play で「AV CONTROLLER」を検索してください。

AV SETUP GUIDE



「AV SETUP GUIDE」は AV レシーバーと再生機器のケーブル接続や、AV レシーバーの設定を簡単に行うためのアプリケーションです。スピーカー、テレビ、再生機器の接続やスピーカーシステムの設定などをガイドにしたがって進めることができます。

主な機能

- 接続ガイド（スピーカー、テレビ、再生機器の接続）
- 設定ガイド（YPAO 測定、イラストによる各種設定サポート）
- 取扱説明書の閲覧



- 詳しくは、App Store または Google Play で「AV SETUP GUIDE」を検索してください。

MusicCast CONTROLLER



「MusicCast CONTROLLER」は、別々の部屋に設置した複数の MusicCast 対応機器をネットワークでリンクする機能「MusicCast」に対応した機器を操作し、音楽を再生するアプリケーションです。スマートフォンなどのモバイル機器をリモコン代わりにして、MusicCast 対応機器の選曲や設定が簡単にできます。

主な機能

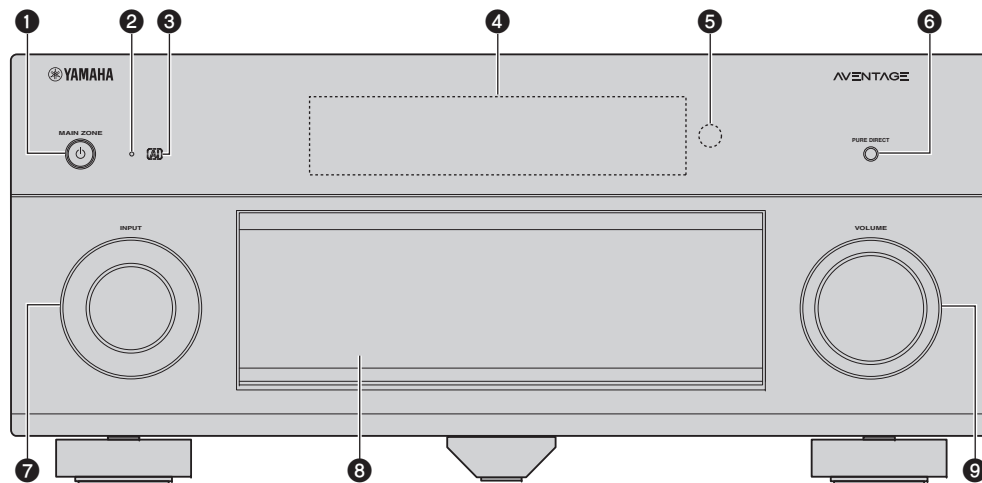
- さまざまなコンテンツの選曲（選局） / 再生
 - モバイル機器の音楽を再生
 - インターネットラジオの放送局を選ぶ
 - メディアサーバー（パソコン / NAS）の音楽を再生
 - USB 機器の音楽を再生
- 本機の操作 / 設定
 - 入力ソース選択、音量調節、ミュート
 - 各種音声処理



- 詳しくは App Store または Google Play で「MusicCast CONTROLLER」を検索してください。

各部の名称

前面



① MAIN ZONE 〇 (メインゾーン電源) キー

電源を入 / 切 (スタンバイ) します。

② スタンバイ表示

本機がスタンバイ時、以下のいずれかの状態で点灯します。

- HDMI コントロールが有効 (131 ページ)
- スタンバイスルーが有効 (132 ページ)
- ネットワークスタンバイが有効 (133 ページ)
- Bluetooth スタンバイが有効 (135 ページ)

③ SURROUND:AI インジケーター

SURROUND:AI が有効になっているときに点灯します (71 ページ)。

④ 前面ディスプレイ

各種情報が表示されます (15 ページ)。

⑤ リモコン信号受光部

リモコンの信号を受信します (7 ページ)。

⑥ PURE DIRECT (ピュアダイレクト) キー

ピュアダイレクトを有効 / 無効にします (75 ページ)。

⑦ INPUT (インプット) つまみ

入力を切り替えます。

⑧ 前面カバー

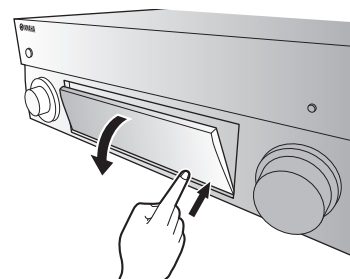
キーや端子を保護します (14 ページ)。

⑨ VOLUME (ボリューム) つまみ

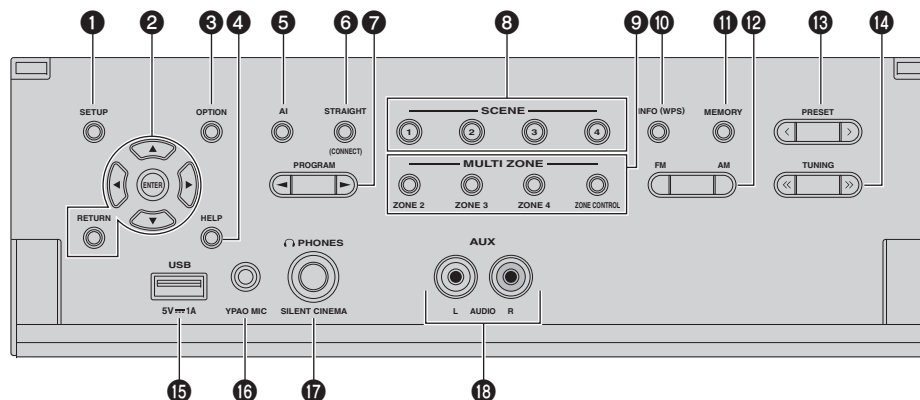
音量を調節します。

前面カバーを開閉する

- カバー内部のキーや端子を使うときは、カバーの下側をそって押してカバーを開いてください。使わないときは閉じてください。(指をはさまないようご注意ください。)



■ 前面カバー内部



① SETUP (セットアップ) キー

テレビ画面に設定メニューを表示します。

② メニュー操作キー

カーソルキー

メニューや設定値を選びます。

ENTER キー

選択項目を決定します。

RETURN キー

メニュー操作中に、1 つ前の表示に戻します。

③ OPTION (オプション) キー

オプションメニューを表示します (103 ページ)。

④ HELP (ヘルプ) キー

設定メニューで、カーソルがある項目の解説をテレビ画面に表示します。メニュー画面に「？」アイコンが表示されているときに有効です。

⑤ AI (SURROUND:AI) キー

SURROUND:AI モードをオン/オフします (71 ページ)。

⑥ STRAIGHT (CONNECT) (ストレート [コネクト]) キー

ストレートデコードを有効/無効にします (74 ページ)。

5 秒間押し続けると、MusicCast ネットワーク接続の設定ができます (67 ページ)。

⑦ PROGRAM (プログラム) キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます (70 ページ)。

⑧ SCENE (シーン) キー

入力 (ラジオ局やコンテンツを含む)、音場プログラム、HDMI 出力端子など、登録した内容をワンタッチで選びます。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。 (69 ページ)

⑨ MULTI ZONE (マルチゾーン) キー

ZONE2 ~ 4 キー

該当ゾーンへの出力を有効/無効にします (99 ページ)。

ZONE CONTROL キー

マルチゾーン出力が有効なときに、前面のキーやつまみで操作するゾーンを切り替えます (99 ページ)。

⑩ INFO (WPS) (インフォ [WPS]) キー

前面ディスプレイの表示を切り替えます (101 ページ)。
3 秒間押し続けると、無線ルーターの WPS ボタンを使って無線ネットワーク接続の設定ができます (63 ページ)。

⑪ MEMORY (メモリー) キー

FM/AM ラジオ局をプリセット (登録) します (76 ページ)。
USB 機器の曲、ネットワークコンテンツ、Bluetooth 入力をショートカットに登録します (100 ページ)。

⑫ FM/AM キー

FM/AM を切り替えます (76 ページ)。

⑬ PRESET (プリセット) キー

プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます (77 ページ)。
ショートカットに登録した USB 機器の曲、ネットワークコンテンツ、Bluetooth 入力を選びます (100 ページ)。

⑭ TUNING (チューニング) キー

ラジオ周波数を切り替えます (76 ページ)。

⑮ USB 端子

USB 機器 (80 ページ) を接続します。

⑯ YPAO MIC (YPAO マイク) 端子

付属の YPAO 用マイクを接続します (50 ページ)。

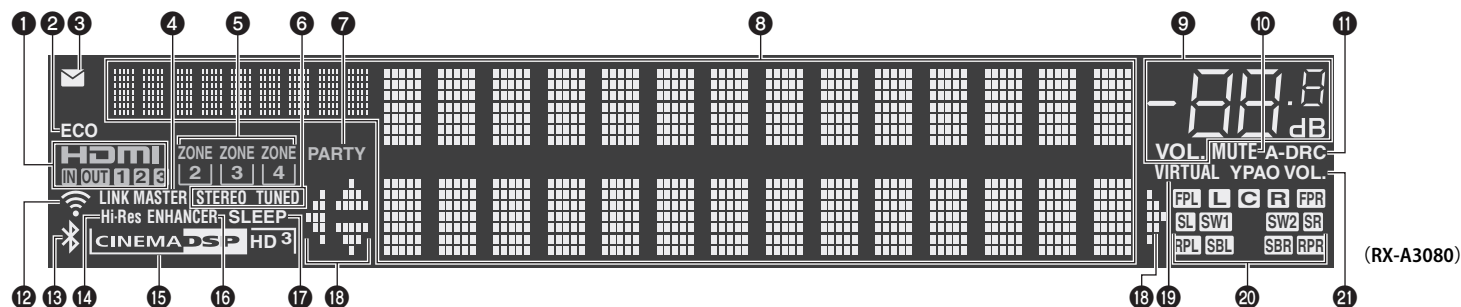
⑰ PHONES (フォーンズ) 端子

ヘッドホン接続します。

⑱ AUX (AUX) 端子

CD プレーヤーなどの機器を接続します (45 ページ)。

前面ディスプレイ（インジケーター）



① HDMI

HDMI 信号入力 / 出力時に点灯します。

IN（イン）

HDMI 信号入力時に点灯します。

OUT1/OUT2/OUT3（アウト 1 / アウト 2 / アウト 3）

HDMI 信号を出力中の HDMI OUT 端子を表示します。

② ECO

エコモード（142 ページ）が有効なときに点灯します。

③ ファームウェア更新表示

ファームウェアの更新（148 ページ）があるときに点灯します。

④ LINK MASTER（リンクマスター）

MusicCast ネットワークの親機として動作しているときに点灯します。

⑤ ゾーン表示

ゾーン2、ゾーン3、またはゾーン4が有効なときに点灯します。

⑥ STEREO（ステレオ）

ステレオ放送受信時に点灯します。

TUNED（チューンド）

FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

⑦ PARTY（パーティー）

パーティーモード中（99 ページ）に点灯します。

⑧ 情報ディスプレイ

選択中の入力や音場プログラムなど、ステータス情報が表示されます。

INFO キーで表示する情報を選べます（101 ページ）。

⑨ 音量表示

音量を表示します。

⑩ MUTE（ミュート）

消音中に点滅します。

⑪ A-DRC（アダプティブ DRC）

アダプティブ DRC（105 ページ）が機能しているときに点灯します。

⑫ 無線 LAN 表示

無線接続時に点灯します（61 ページ）。



・ 本機を MusicCast ネットワークに登録すると点灯する場合があります（67 ページ）。

⑬ Bluetooth（ブルートゥース）表示

Bluetooth機器と接続されているときに点灯します（79 ページ）。

⑭ Hi-Res（ハイレゾ）

ミュージックエンハンサーのハイレゾモード（107 ページ）が機能しているときに点灯します。

⑮ シネマ DSP 表示

シネマ DSP（71 ページ）が機能しているときに「CINEMA DSP HD」が点灯します。シネマ DSP HD³での動作時は「CINEMA DSP HD³」が点灯します。

⑯ ENHANCER（エンハンサー）

ミュージックエンハンサー（75 ページ）が機能しているときに点灯します。

⑰ SLEEP（スリープ）

スリープタイマー設定時に点灯します。

⑱ カーソル表示

操作可能なリモコンのカーソルキーを表示します。

⑲ VIRTUAL（バーチャル）

バーチャルプレゼンスピーカー（VPS）やバーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）（71 ページ）、またはバーチャルサラウンド処理（73 ページ）が機能しているときに点灯します。

⑳ スピーカー表示

音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

L フロントスピーカー（左）

R フロントスピーカー（右）

C センタースピーカー

SL サラウンドスピーカー（左）

SR サラウンドスピーカー（右）

SBL サラウンドバックスピーカー（左）

SBR サラウンドバックスピーカー（右）

SB サラウンドバックスピーカー

FPL フロントプレゼンスピーカー（左）

FPR フロントプレゼンスピーカー（右）

RPL リアプレゼンスピーカー（左）

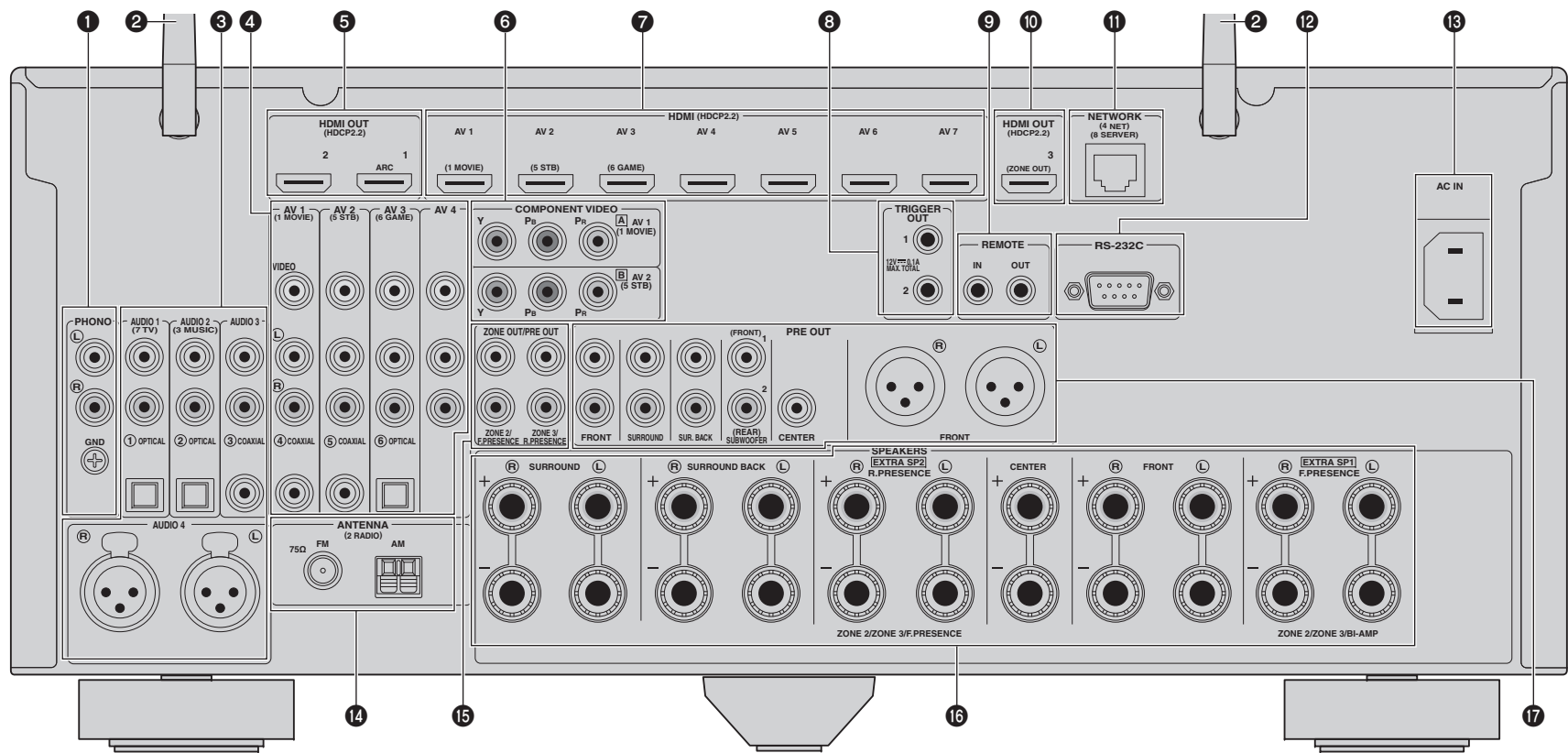
RPR リアプレゼンスピーカー（右）

SW1 サブウーファー（1）

SW2 サブウーファー（2）

㉑ YPAO VOL.（YPAO ボリューム）

YPAO ボリューム（105 ページ）が有効なときに点灯します。



(RX-A3080)



- 実際の製品では、誤接続を防ぐため映像 / 音声出力端子の周辺が白色で塗られています。

① PHONO（フォノ）端子

レコードプレーヤーを接続します（44 ページ）。

② 無線アンテナ

無線を使って本機を無線ネットワーク機器に接続します（61 ページ）。Bluetooth 接続にも使用します（79 ページ）。

③ AUDIO1 ～ 3（オーディオ 1 ～ 3）端子

音声出力を持つ再生機器を接続し、音声を入力します（44 ページ）。

AUDIO4 端子（XLR）（RX-A3080 のみ）

音声出力を持つ再生機器を接続し、音声を入力します（44 ページ）。

④ AV1 ～ 4 端子

映像 / 音声出力を持つ再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（43 ページ）。

⑤ HDMI OUT1 ～ 2（HDMI アウト 1 ～ 2）端子

HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します（41 ページ）。ARC 使用時は、HDMI OUT1 端子でテレビ音声の入力も可能です。

⑥ COMPONENT VIDEO（コンポーネントビデオ）端子（AV1 ～ 2）

コンポーネントビデオ出力対応の再生機器を接続し、映像を入力します（43 ページ）。

⑦ HDMI 端子（AV1 ～ 7）

HDMI 出力対応の再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（43 ページ）。

⑧ TRIGGER OUT1 ～ 2（トリガーアウト 1 ～ 2）端子

トリガー機能対応の機器を接続します（48 ページ）。

⑨ REMOTE IN/OUT（リモートイン / アウト）端子

赤外線受信機 / 送信機を接続して、別の部屋から本機や外部機器を操作することができます（97 ページ）。

⑩ HDMI OUT 3（ZONE OUT）（HDMI アウト 3 [ゾーンアウト]）端子

ゾーン 2 またはゾーン 4 に設置した HDMI 対応機器（テレビなど）を本機に接続して、映像 / 音声を再生します（96 ページ）。

⑪ NETWORK（ネットワーク）端子

ネットワークケーブルを使って本機をネットワークに接続します（47 ページ）。

⑫ RS-232C 端子

サービス用の端子です。通常は使用しません。

⑬ AC IN（AC イン）端子

電源コードを接続します（48 ページ）。

⑭ ANTENNA（アンテナ）端子

FM アンテナと AM アンテナを接続します（46 ページ）。

⑮ ZONE OUT/PRE OUT（ゾーンアウト / プリアウト）端子（RX-A3080）

別の部屋（ゾーン 2 / ゾーン 3）に設置した外部アンプに音声を出力します（95 ページ）。または、外部パワーアンプ（フロントプレゼンス / リアプレゼンス用）を接続します（38 ページ）。

ZONE OUT（ゾーンアウト）端子（RX-A2080）

別の部屋（ゾーン 2 / ゾーン 3）に設置した外部アンプに音声を出力します（95 ページ）。

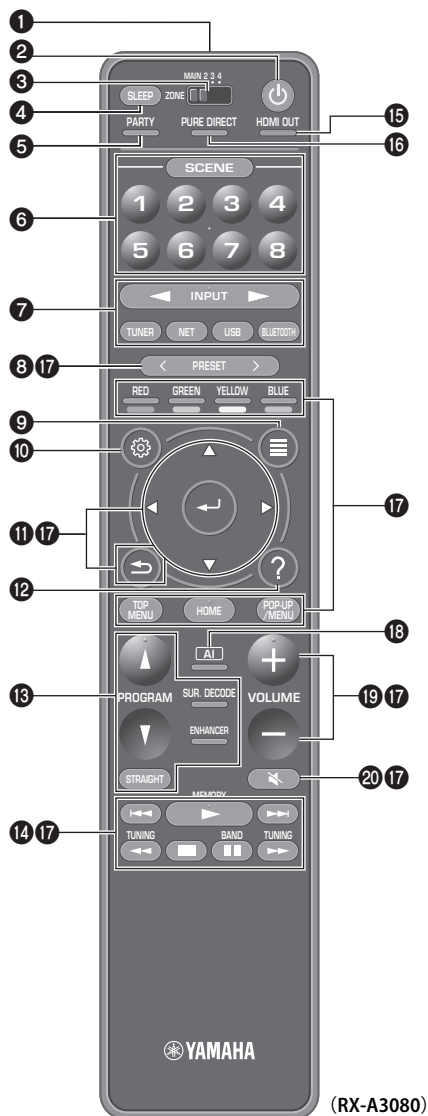
⑯ SPEAKERS（スピーカー）端子

スピーカーを接続します（27 ページ）。

⑰ PRE OUT（プリアウト）端子、PRE OUT（XLR）端子（RX-A3080）

アンプ内蔵のサブウーファー（28 ページ）や、外部パワーアンプを接続します（38 ページ）。

リモコン



(RX-A3080)

① リモコン信号送信部

赤外線を送信します。

② 〇 (レシーバー電源) キー

本機の電源を入/切 (スタンバイ) します。

③ MAIN/ZONE スイッチ

リモコンで操作するゾーンを切り替えます (98 ページ)。

④ SLEEP (スリープ) キー

繰り返し押してスリープタイマーの時間 (120 分、90 分、60 分、30 分、切) を設定します。スリープタイマー設定中は前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると本機がスタンバイになります。

⑤ PARTY (パーティー) キー

パーティーモードを入/切します (99 ページ)。

⑥ SCENE (シーン) キー

シーン機能で設定した複数の項目をワンタッチで切り替えます (69 ページ)。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

⑦ 入力選択キー

再生する入力を選びます。



・ NET キーを繰り返し押して、ネットワークソースを切り替えます。

⑧ PRESET (プリセット) キー

プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます (77 ページ)。ショートカットに登録した Bluetooth 機器や USB 機器の曲、ネットワークコンテンツを選びます (100 ページ)。

⑨ OPTION (オプション) キー

オプションメニューを表示します (103 ページ)。

⑩ SETUP (セットアップ) キー

設定メニューを表示します (111 ページ)。

⑪ ENTER/Cursor (エンター / カーソル)、RETURN (リターン) キー

メニュー操作を行います。

⑫ HELP (ヘルプ) キー

設定メニューで、カーソルがある項目の解説をテレビ画面に表示します。メニュー画面に「？」アイコンが表示されているときに有効です。

⑬ サウンド選択キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーなどを選びます (70 ページ)。

⑭ 再生操作キー

外部機器の再生操作を行います。

⑮ HDMI OUT (HDMI アウト) キー

信号を出力する HDMI 出力端子を切り替えます (68 ページ)。

⑯ PURE DIRECT (ピュアダイレクト) キー

ピュアダイレクトを有効 / 無効にします (75 ページ)。

⑰ 外部機器操作キー

HDMI コントロールに対応している AV 機器の再生操作を行います。また、USB 機器やメディアサーバー (パソコン / NAS) および音楽ストリーミングサービスなどの再生操作を行います。



・ HDMI コントロールに対応している AV 機器が対象です。ただし、すべての HDMI コントロール対応機器の動作を保証するものではありません。

⑱ AI (SURROUND:AI) キー

SURROUND:AI モードをオン / オフします (71 ページ)。

⑲ VOLUME (ボリューム) キー

音量を調節します。

⑳ MUTE (ミュート) キー

消音します。

準備する

使用までの基本的な流れ

1 スピーカーを接続する (20 ページ)

スピーカーシステム (基本編) (21 ページ)

スピーカーの配置を決定し、本機に接続します。

スピーカーシステム (応用編) (29 ページ)

バイアンプ接続、チャンネル拡張 (外部パワーアンプ接続)、マルチゾーン接続を使ったスピーカーシステムを構築します。

2 テレビや再生機器を接続する (40 ページ)

テレビ、ビデオ機器 (BD/DVD プレーヤーなど)、オーディオ機器 (CD プレーヤーなど) を本機に接続します。

3 FM/AM アンテナを接続する (46 ページ)

付属の FM アンテナと AM アンテナを本機に接続します。

4 ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする (47 ページ)

ネットワークケーブルを使って、本機をルーター (アクセスポイント) に接続します。無線接続を使用する場合は、無線アンテナを使用します。

5 その他の機器を接続する (48 ページ)

トリガー機能対応の機器を本機に接続します。

6 電源コードを接続する (48 ページ)

すべての接続が完了したら、付属の電源コードを本機に接続します。

7 スピーカー設定を行う (49 ページ)

使用するスピーカーシステムに応じて、YPAO を実行する前に必要なスピーカー設定を行います。

8 スピーカー設定を自動で調整する (YPAO) (50 ページ)

音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO)。

9 無線ネットワーク機器に接続する (61 ページ)

無線接続を使って、本機を無線ルーター (アクセスポイント) やモバイル機器に接続します。

10 MusicCast ネットワークに接続する (67 ページ)

本機を MusicCast ネットワークに接続します。

これで使用前に必要な接続および設定は完了です。映画、音楽、ラジオなど、本機での再生を存分にお楽しみください！

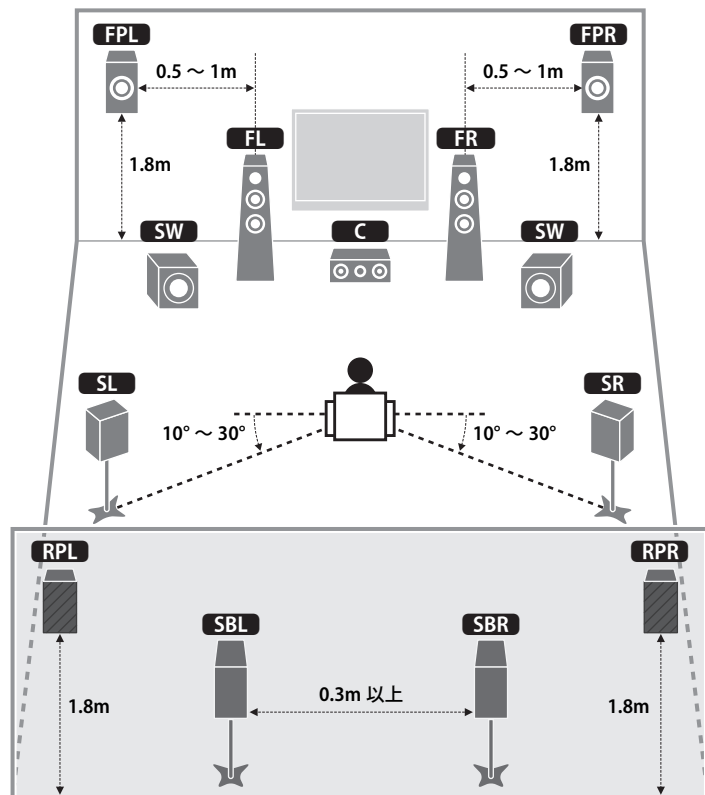
1 スピーカーを接続する

本機は 9 チャンネルのアンプを内蔵しています。ご使用になる環境や楽しみ方に合わせて、2 ～ 11 本のスピーカーと最大 2 台のサブウーファーを接続できます。さらに、バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）、マルチゾーン接続を使った応用的なスピーカーシステムにも対応しています（29 ページ）。

注意

- 初期状態では、本機のスピーカーインピーダンスは 8Ω に設定されています。いずれかのチャンネルに 6Ω のスピーカーを接続する場合は、スピーカーインピーダンスを「6ΩMIN」に設定してください。この場合、フロントスピーカーは 4Ω のスピーカーも使用できます。詳しくは「スピーカーインピーダンスを設定する」（26 ページ）をご覧ください。

理想的なスピーカー配置



各スピーカーの役割

スピーカーの種類	機能
フロント（左 / 右） FL FR	フロント左 / 右チャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。
センター C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
サラウンド（左 / 右） SL SR	サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。サラウンドバック左 / 右を使用しない場合は、サラウンドバックチャンネルの音声も出力します。
サラウンドバック（左 / 右） SBL SBR	サラウンドバック左 / 右チャンネルの音声を出力します。
フロントプレゼンス（左 / 右） FPL FPR	シネマ DSP の効果音や、Dolby Atmos および DTS:X コンテンツの上方チャンネルの音声を出力します。
リアプレゼンス（左 / 右） RPL RPR	シネマ DSP の効果音や、Dolby Atmos および DTS:X コンテンツの上方チャンネルの音声を出力します。
サブウーファー SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。 サブウーファーのチャンネル数は「0.1」と表します。本機には最大 2 台のサブウーファーを接続できます。サブウーファーを 2 台使用する場合は、お好みで部屋の前後または左右に設置します。



- 「理想的なスピーカー配置」（左図）を参考にスピーカーを配置してください。図に正確に合わせる必要はありません。YPAO を実行することで、配置に合わせてスピーカー設定（距離など）を補正できます。
- フロントプレゼンススピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使って前方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し（VPS）、立体的な視聴空間を実現します。ただし、音場効果を十分に得るにはフロントプレゼンススピーカーの使用をおすすめします（リアプレゼンススピーカーも使用するとより効果的です）。
- リアプレゼンススピーカーが接続されていない場合でも、フロントプレゼンススピーカーが接続されていれば、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使って後方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し（VPS）、自然で立体的な視聴空間を実現します。

スピーカーシステム（基本編）

■ スピーカーを配置する

使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーファーを部屋に配置します。本書では例として、代表的な配置方法を説明します。

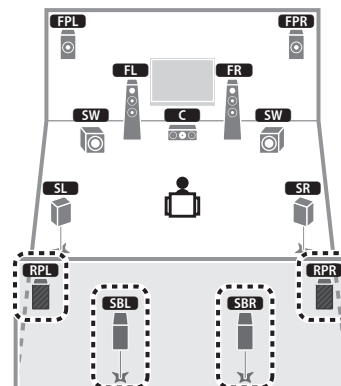


- Dolby Atmos コンテンツを再生する場合は、★マークが付いているスピーカーシステムの使用をおすすめします。なお、7.1 システム（サラウンドバック使用時）でも Dolby Atmos コンテンツの再生が可能です。
- DTS:X コンテンツを再生する場合は、★マークが付いているスピーカーシステムの使用をおすすめします。
- （チャンネル数の表記について）例えば、「5.1.2」は従来の 5.1 チャンネルに加え、上方のスピーカー用チャンネルが 2 チャンネル分存在することを表します。プレゼンススピーカーの配置方法について詳しくは、「プレゼンススピーカーの配置」（25 ページ）をご覧ください。

□ 7.2.2/5.2.4 システム [★]

（サラウンドバックおよびリアプレゼンス使用時）

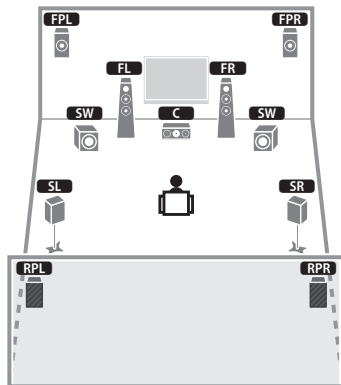
本機の性能をフルに活用できるシステムです。ごく自然で立体的な視聴空間であらゆるコンテンツをお楽しみいただけます。



- サラウンドバックスピーカーとリアプレゼンススピーカーから同時に音声を出力することはできません。入力信号や選択した音場プログラム（71 ページ）により、音声を出力するスピーカーが自動的に切り替わります。
- プレゼンススピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーイネーブルドスピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合は、電源コードを接続後、設定メニューの「配置（フロントプレゼンス / リアプレゼンス）」を環境にあわせて設定してください（49 ページ）。
- （RX-A3080 のみ）
外部パワーアンプ（30 ページ）を使用することで、最大 11 チャンネル[★7.2.4]での再生が可能になります。

□ 5.2.4 システム [★] (リアプレゼンス使用時)

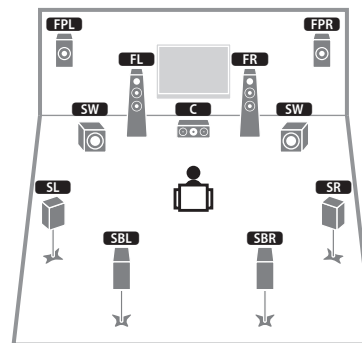
フロントプレゼンススピーカーとリアプレゼンススピーカーを使って、ごく自然で立体的な視聴空間を実現します。またサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出し (VSBS)、後方奥行き感ある視聴空間を実現します。5.1 チャンネルのコンテンツだけでなく、7.1 チャンネルのコンテンツをも楽しむのに適したシステムです。



- プレゼンススピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーイネーブルドスピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合は、電源コードを接続後、設定メニューの「配置 (フロントプレゼンス / リアプレゼンス)」を環境にあわせて設定してください (49 ページ)。

□ 7.2.2 システム [★] (サラウンドバック使用時)

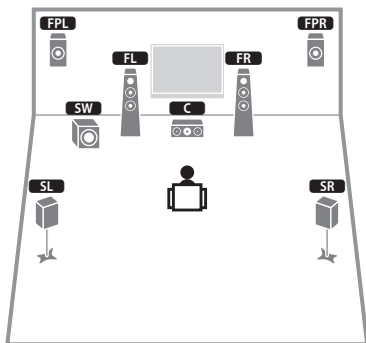
フロントプレゼンススピーカーを使って、自然で立体的な視聴空間を実現します。また、サラウンドバックスピーカーを使った拡張サラウンドもお楽しみいただけます。



- プレゼンススピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーイネーブルドスピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合は、電源コードを接続後、設定メニューの「配置 (フロントプレゼンス)」を環境にあわせて設定してください (49 ページ)。
- フロント、センター、サラウンドスピーカーを使って後方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し (VPS)、ごく自然で立体的な視聴空間を実現します。

□ 5.1.2 システム [★] (フロントプレゼンス使用時)

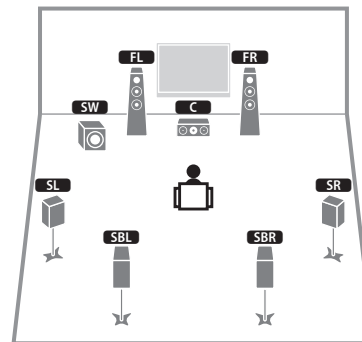
フロントプレゼンススピーカーを使って、自然で立体的な視聴空間を実現します。またサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出し (VSBS)、後方奥行き感ある視聴空間を実現します。5.1 チャンネルのコンテンツだけでなく、7.1 チャンネルのコンテンツをも楽しむのに適したシステムです。



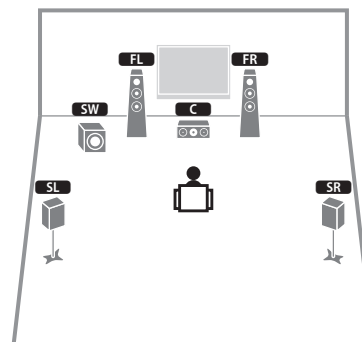
- プレゼンススピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーイネーブルドスピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合は、電源コードを接続後、設定メニューの「配置 (フロントプレゼンス)」を環境にあわせて設定してください (49 ページ)。
- フロント、センター、サラウンドスピーカーを使って後方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し (VPS)、ごく自然で立体的な視聴空間を実現します。

□ 7.1 システム (サラウンドバック使用時)

フロント、センター、サラウンドスピーカーを使って前方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し (VPS)、立体的な視聴空間を実現します。また、サラウンドバックスピーカーを使った拡張サラウンドもお楽しみいただけます。



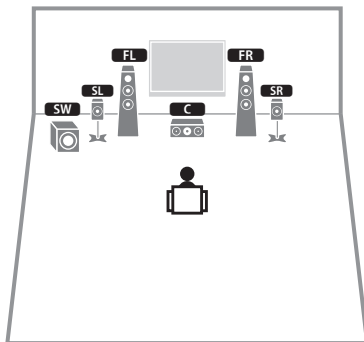
□ 5.1 システム



- センタースピーカーがない 4.1 システムでも、サラウンド再生を楽しめます。

□ 5.1 システム（フロント 5.1 チャンネル）（サラウンド使用時）

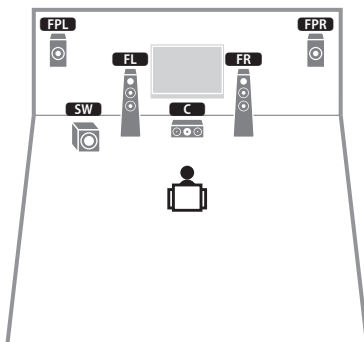
部屋の後方にスピーカーを配置できない場合におすすめのスピーカーシステムです。



- このシステムを使用する場合は、電源コードを接続後、設定メニューの「配置（サラウンド）」（49 ページ）を「前方」に設定してください。

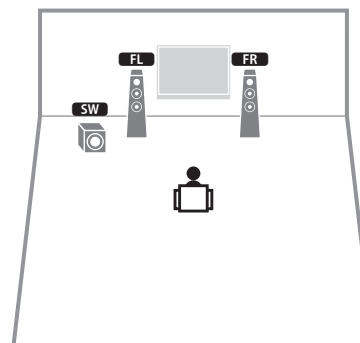
□ 5.1 システム（フロント 5.1 チャンネル） （フロントプレゼンス使用時）

部屋の後方にスピーカーを配置できない場合におすすめのスピーカーシステムです。



- プレゼンススピーカーを天井に配置する場合や、ドルビーイネーブルドスピーカーをプレゼンススピーカーとして使用する場合は、電源コードを接続後、設定メニューの「配置（フロントプレゼンス）」を環境にあわせて設定してください（49 ページ）。

□ 2.1 システム



- センタースピーカーを使用した 3.1 システムも可能です。

□ プレゼンスピーカーの配置

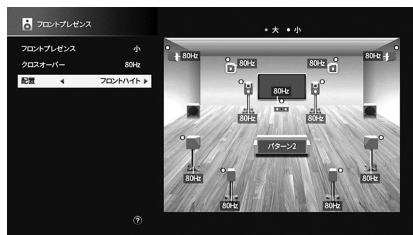
プレゼンスピーカーの配置方法は3種類あります（フロントハイト/リアハイト、オーバーヘッド、ドルビーイネーブルド SP）。視聴環境に合わせていずれかをお選びください（118 ページ）。



- どの配置方法でも Dolby Atmos、DTS:X およびシネマ DSP HD³ をお楽しみいただけます。
- フロントプレゼンスピーカーとリアプレゼンスピーカーの配置方法は個別に設定できます。

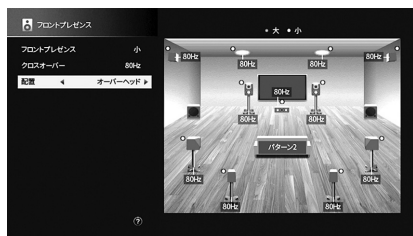
フロントハイト/リアハイト

部屋の前方/後方の壁にプレゼンスピーカーを設置します。上下左右の空間のつながり感と広がり感を効果的に再現します。



オーバーヘッド

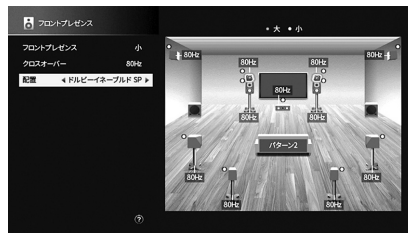
視聴位置上部の天井にプレゼンスピーカーを設置します。上部からのリアルな効果音や前後のつながりを効果的に再現します。



- 天井の取り付け位置については「スピーカーを天井に設置する際のご注意」（26 ページ）をご覧ください。

ドルビーイネーブルド SP

ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）をプレゼンスピーカーとして使用します。天井の反射を利用し、床置きスピーカーのみで上方スピーカーを再現できます。

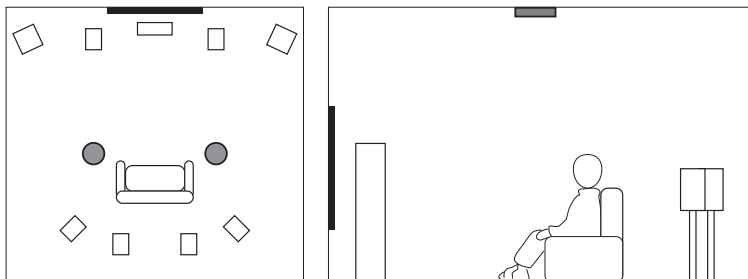


- ドルビーイネーブルドスピーカーはフロント、サラウンド、サラウンドバックスピーカーいずれかの上部またはすぐそばに配置してください。1 本のスピーカーにドルビーイネーブルドスピーカーが組み込まれている場合もあります。詳しくは、ドルビーイネーブルドスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

スピーカーを天井に設置する場合の注意

プレゼンスピーカーを天井に取り付ける場合は、以下の図を参考に取り付けてください。

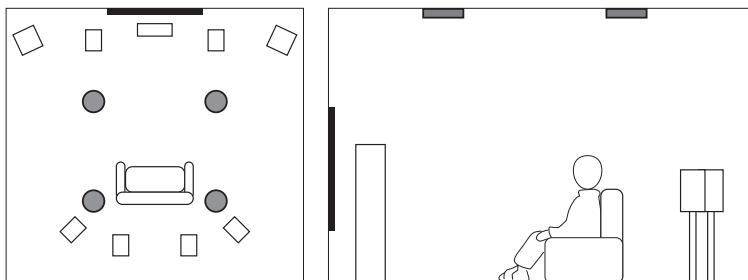
プレゼンスピーカー 2 本の場合



取り付け位置

視聴位置の上部、または視聴位置とフロントスピーカーの間の天井

プレゼンスピーカー 4 本の場合



取り付け位置

フロントプレゼンスピーカー：視聴位置とフロントスピーカーの間の天井

リアプレゼンスピーカー：視聴位置とサラウンドスピーカー（またはサラウンドバックスピーカー）の間の天井

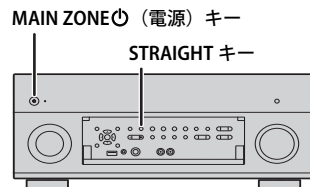
注意

- 必ず天井への取り付けに対応したスピーカーを使用し落下防止措置を講じてください。取り付けはご購入店または専門業者に依頼してください。

■ スピーカーインピーダンスを設定する

初期状態では、本機のスピーカーインピーダンスは 8Ω に設定されています。いずれかのチャンネルに 6Ω のスピーカーを接続する場合は、スピーカーインピーダンスを「 $6\Omega\text{MIN}$ 」に設定してください。この場合、フロントスピーカーは 4Ω のスピーカーも使用できます。

- 1 スピーカーを接続する前に、本機の電源コードをコンセントに接続する（48 ページ）。
- 2 前面の STRAIGHT キーを押しながら MAIN ZONE (電源) キーを押す。



- 3 前面ディスプレイに「SPEAKER IMP.」と表示されていることを確認する。



- 4 STRAIGHT キーで「 $6\Omega\text{MIN}$ 」を選ぶ。
- 5 MAIN ZONE (電源) キーで電源をスタンバイにしてから、電源コードをコンセントから外す。

これでスピーカーを接続する準備は完了です。

■ スピーカーを接続する

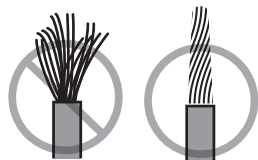
部屋に配置したスピーカーを本機に接続します。

スピーカーケーブル接続時の注意

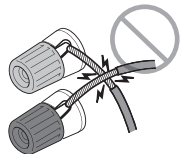
スピーカーケーブルを加工するときは、本機から離れた場所で行ってください。スピーカーケーブルの芯線が機内部に入ると、ショートなどにより本機が故障する原因となります。

また、スピーカーケーブルの接続方法を誤ると、ケーブルのショートなどにより、本機やスピーカーが故障する原因となりますので、十分にご注意ください。

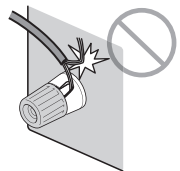
- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、サブウーファースの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線をしっかりとねじってください。



- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触しないようご注意ください。



- スピーカーケーブルの芯線が本機の金属部（リアパネル、ネジ部など）に触れないようご注意ください。



スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示されます。その場合は、電源を切ってからスピーカーケーブルがショートしていないかご確認ください。

接続するスピーカー

スピーカーの種類	スピーカーシステム (チャンネル数)			
	7.2.2/5.2.4	7.1/5.1.2	5.1	2.1
フロント (左 / 右) FL FR	●	●	●	●
センター C	●	●	●	
サラウンド (左 / 右) SL SR	●	●	○*5	
サラウンドバック (左 / 右) SBL SBR	○*1	○*3		
フロントプレゼンス (左 / 右) FPL FPR	●	○*4	○*6	
リアプレゼンス (左 / 右) RPL RPR	○*2			
サブウーファー SW	●	●	●	●

11本のスピーカーを使う場合は、サラウンドバックスピーカーとリアプレゼンススピーカーを両方とも接続できます。この場合、入力信号や選択したシネマ DSP により、音声を出力するスピーカーが自動的に切り替わります。

9本のスピーカーを使う場合は、そのうち2本をサラウンドバックスピーカー (*1) またはリアプレゼンススピーカー (*2) として使用します。

7本のスピーカーを使う場合は、そのうち2本をサラウンドバックスピーカー (*3) またはフロントプレゼンススピーカー (*4) として使用します。

5本のスピーカーを使う場合は、そのうち2本をサラウンドスピーカー (*5) またはフロントプレゼンススピーカー (*6) として使用します。



- 本機には最大2台のサブウーファーを接続できます。サブウーファーを2台接続する場合は、電源コードを接続後、設定メニューの「配置 (サブウーファー)」(119 ページ) を設定してください。
- これらのスピーカーシステムを使用する場合は、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」(116 ページ) を「Basic」(初期値) に設定してください。
- スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプ (ハイファイアンプなど) を使う場合は、「外部パワーアンプを接続する」(38 ページ) をご覧ください。

必要なケーブル (市販品)

- スピーカーケーブル (スピーカーの本数分)

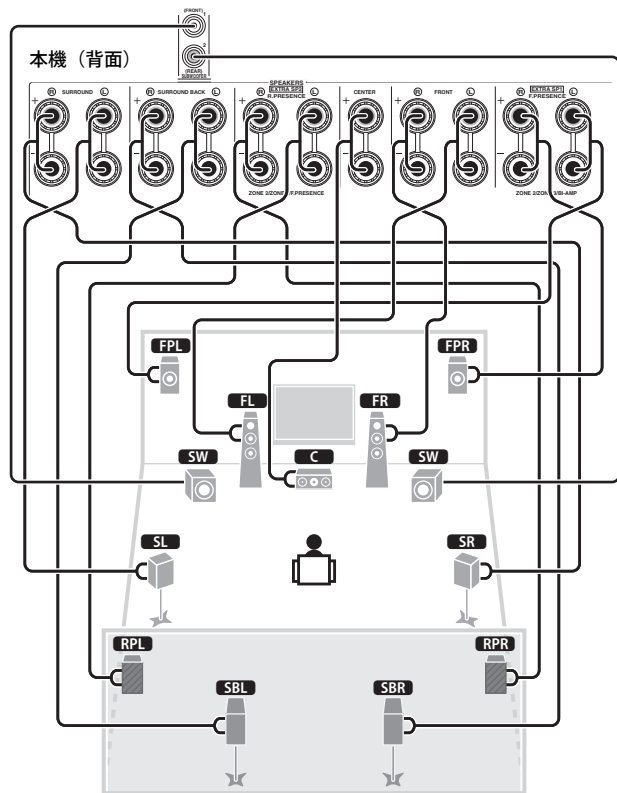


- モノラルピンケーブル (サブウーファー2台接続時は2本)



接続図

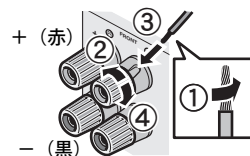
下図を参考に、スピーカーを本機に接続してください。



□ スピーカーケーブルを接続する

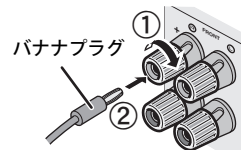
通常スピーカーケーブルは2芯（+と-）で1本になっています。片方で本機とスピーカーの-（マイナス）端子どうし、もう一方で+（プラス）端子どうしを接続してください。色で区別されている場合、黒を-（マイナス）側、もう一方を+（プラス）側と決めておく間違わずに接続できます。

- ① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を10mmほどはがし、芯線をしっかりとよじる。
- ② スピーカー端子をゆるめる。
- ③ 端子側面（右上または左下）のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
- ④ 端子を締め付ける。



バナナプラグを使用する場合

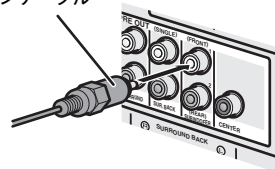
- ① スピーカー端子を締め付ける。
- ② 端子にバナナプラグを差し込む。



□ サブウーファー（アンプ内蔵）を接続する

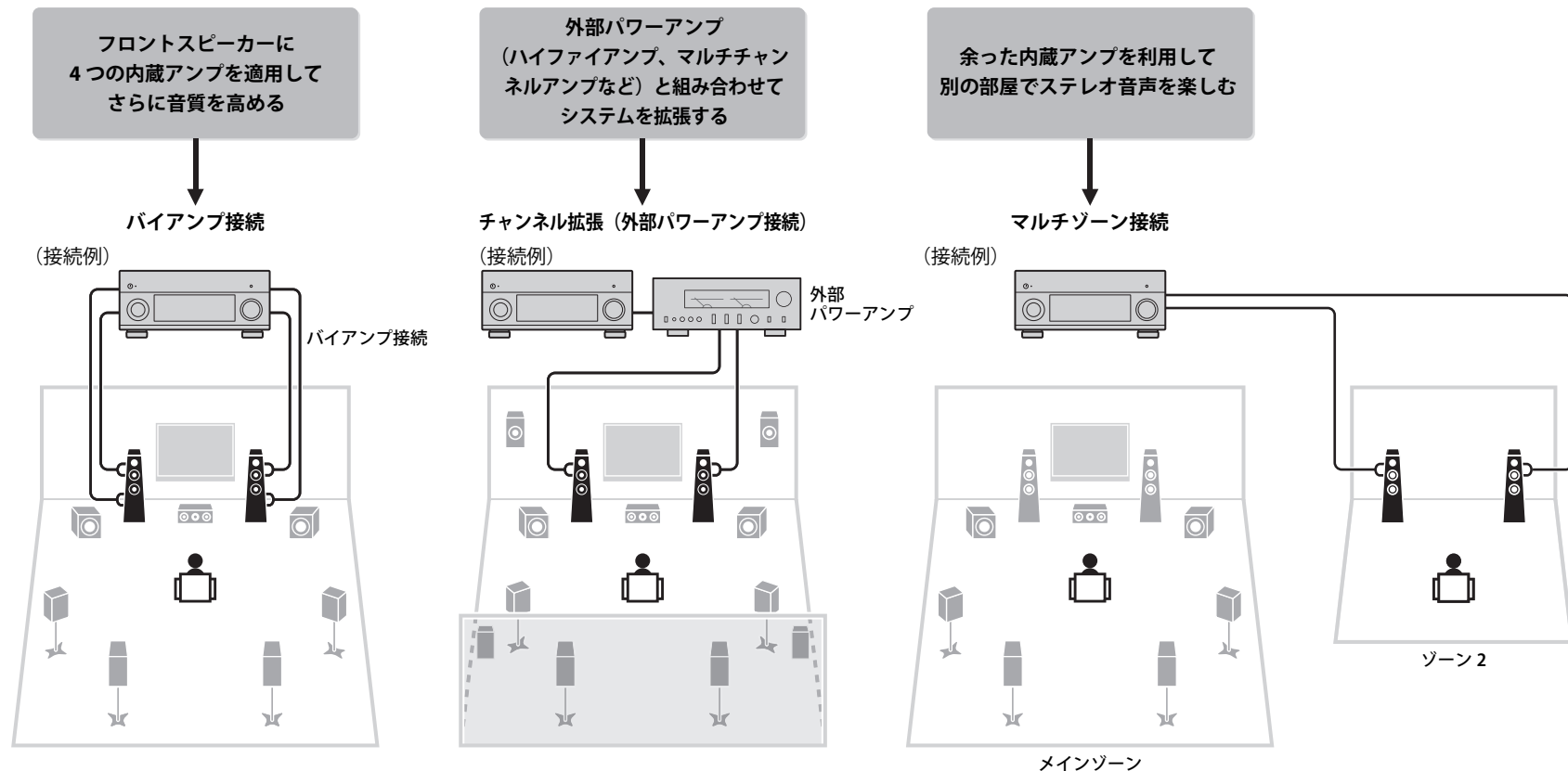
サブウーファースの接続には、モノラルピンケーブルを使います。

モノラル
ピンケーブル



スピーカーシステム（応用編）

本機は、「スピーカーシステム（基本編）」（21 ページ）で紹介したシステム以外に、以下のシステムにも対応しています。



■ 構成パターン一覧

(RX-A3080)

メインゾーン				マルチ ゾーン	パワーアンプ 割り当て (116 ページ)	ページ
最大 チャネル 数	バイ アンプ 接続	サラウンドバック / プレゼンス	チャンネル拡張 (外部パワーアンプ 接続)			
7		サラウンドバック		+1 部屋	7.2 +1Zone	31
9		サラウンドバック フロントプレゼンス		+1 部屋	7.2.2 +1Zone	31
7		サラウンドバック		+2 部屋	7.2 +2Zone	32
11		サラウンドバック フロントプレゼンス	リアプレゼンス		7.2.4 [ext.RP]	32
11		サラウンドバック フロントプレゼンス リアプレゼンス	フロント		7.2.4 [ext.Front]	33
11		サラウンドバック	フロントプレゼンス リアプレゼンス		7.2.4 [ext.FP+RP]	33
9		サラウンドバック フロントプレゼンス	フロント	+1 部屋	7.2.2 [ext.Front] +1Zone	34
7		サラウンドバック	フロント	+2 部屋	7.2 [ext.Front] +2Zone	34
7	○	サラウンドバック			7.2 Bi-Amp	35
7	○	フロントプレゼンス			5.2.2 Bi-Amp	35
7	○	サラウンドバック		+1 部屋	7.2 Bi-Amp +1Zone	36
11	○	サラウンドバック	フロントプレゼンス リアプレゼンス		7.2.4 Bi-Amp [ext.FP+RP]	36
9	○	フロントプレゼンス	リアプレゼンス		5.2.4 Bi-Amp [ext.RP]	37

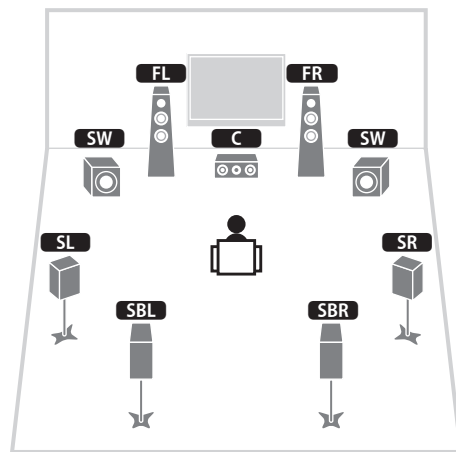
(RX-A2080)

メインゾーン				マルチ ゾーン	パワーアンプ 割り当て (116 ページ)	ページ
最大 チャネル 数	バイ アンプ 接続	サラウンドバック / プレゼンス	チャンネル拡張 (外部パワーアンプ 接続)			
7		サラウンドバック		+1 部屋	7.2 +1Zone	31
9		サラウンドバック フロントプレゼンス		+1 部屋	7.2.2 +1Zone	31
7		サラウンドバック		+2 部屋	7.2 +2Zone	32
9		サラウンドバック フロントプレゼンス	フロント	+1 部屋	7.2.2 [ext.Front] +1Zone	34
7		サラウンドバック	フロント	+2 部屋	7.2 [ext.Front] +2Zone	34
7	○	サラウンドバック			7.2 Bi-Amp	35
7	○	フロントプレゼンス			5.2.2 Bi-Amp	35
7	○	サラウンドバック		+1 部屋	7.2 Bi-Amp +1Zone	36

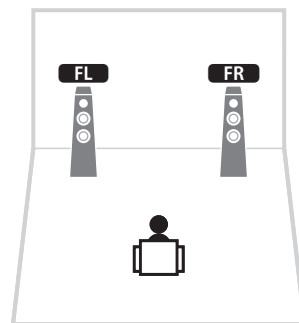


- これらのシステムを適用するには、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で正しい設定を選んでください (116 ページ)。
- マルチゾーン接続を適用する場合、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」(116 ページ) で EXTRA SP1 ~ 2 端子に割り当てるゾーン (ゾーン 2 またはゾーン 3) を選択できます。この章の接続方法は、初期値から変更されていないことを前提に説明しています。

□ 7.2+1Zone

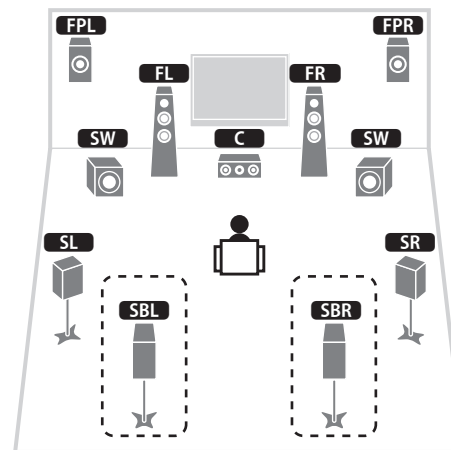


メインゾーン

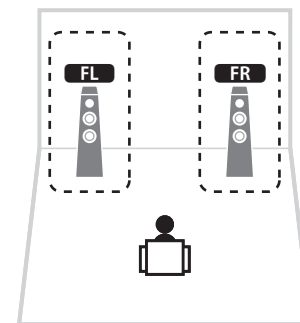


ゾーン 2

□ 7.2.2+1Zone



メインゾーン



ゾーン 2

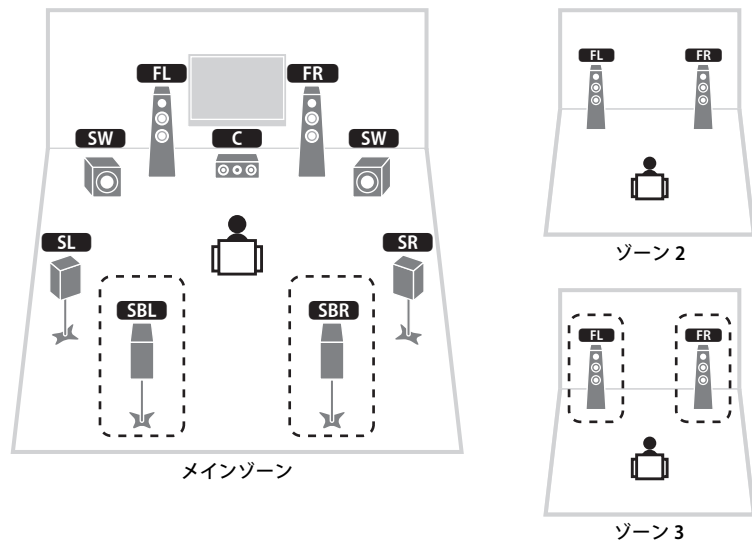
スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	(使用しない)
RPL RPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ～ 2
ゾーン 2 スピーカー	EXTRA SP1

スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	EXTRA SP1
RPL RPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ～ 2
ゾーン 2 スピーカー	EXTRA SP2



- ・ゾーン 2 出力が有効なとき (98 ページ) は、メインゾーンのサラウンドバックスピーカーから音が出ません。

□ 7.2 +2Zzone

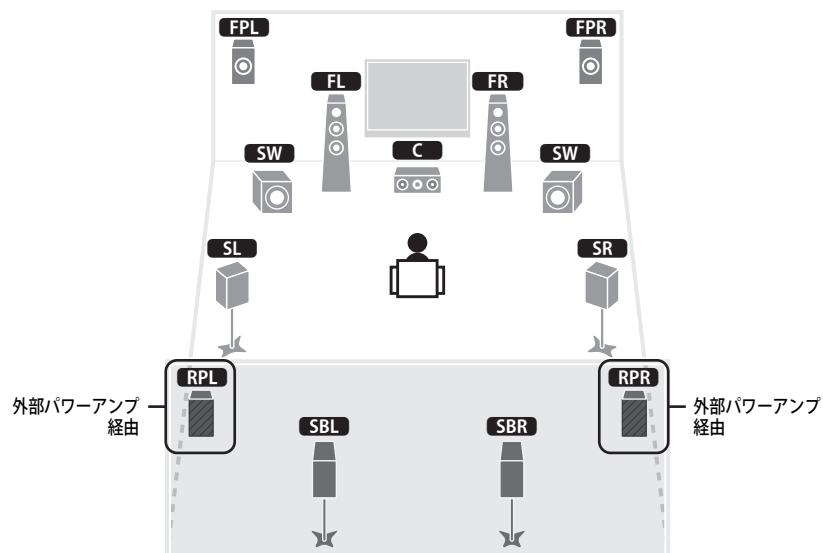


スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	(使用しない)
RPL RPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2
ゾーン2 スピーカー	EXTRA SP1
ゾーン3 スピーカー	EXTRA SP2



- ・ゾーン3 出力が有効なとき（98 ページ）は、メインゾーンのサラウンドバックスピーカーから音が出ません。

□ 7.2.4 [ext.RP] (RX-A3080 のみ)

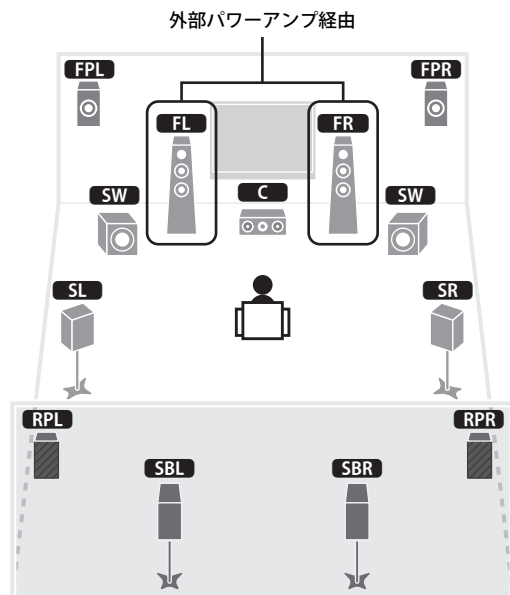


スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	EXTRA SP1
RPL RPR	R.PRESENCE (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2



- ・このシステムを適用する場合、ZONE OUT/PRE OUT 端子にゾーン3 の外部アンプ（95 ページ）を接続できません。

□ 7.2.4 [ext.Front] (RX-A3080 のみ)

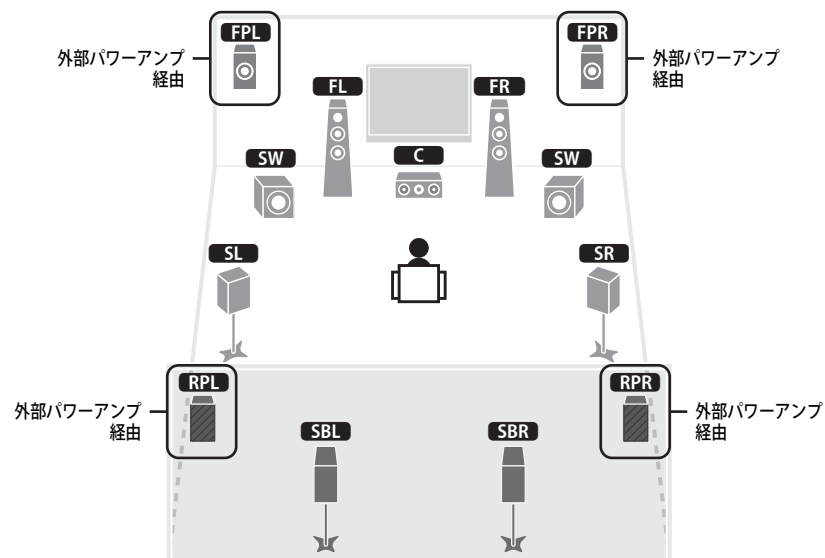


スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	EXTRA SP1
RPL RPR	EXTRA SP2
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2



- このシステムを適用する場合、ZONE OUT/PRE OUT 端子にゾーン 3 の外部アンプ (95 ページ) を接続できません。

□ 7.2.4 [ext.FP+RP] (RX-A3080 のみ)

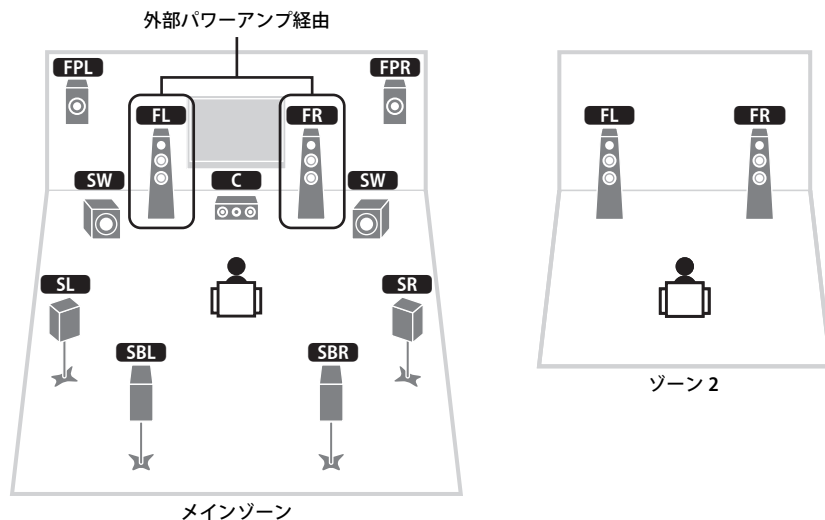


スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	F.PRESENCE (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
RPL RPR	R.PRESENCE (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2

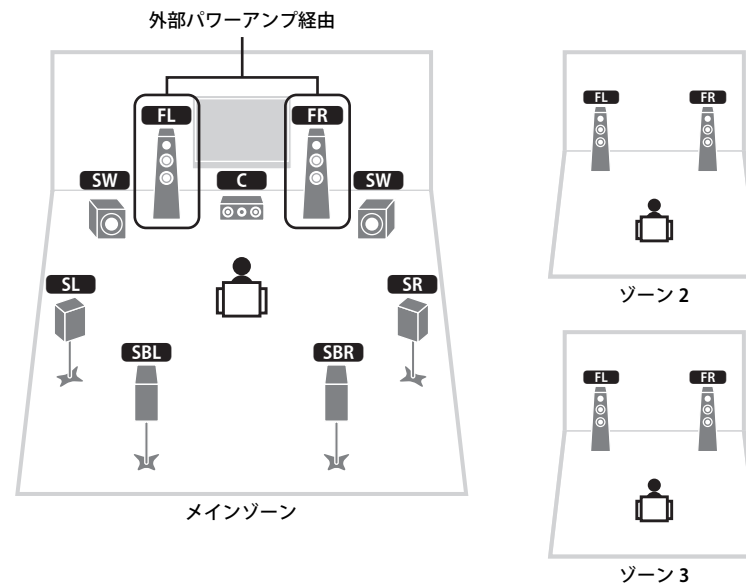


- このシステムを適用する場合、ZONE OUT/PRE OUT 端子にゾーン 2 およびゾーン 3 の外部アンプ (95 ページ) を接続できません。

□ 7.2.2 [ext.Front] +1Zone



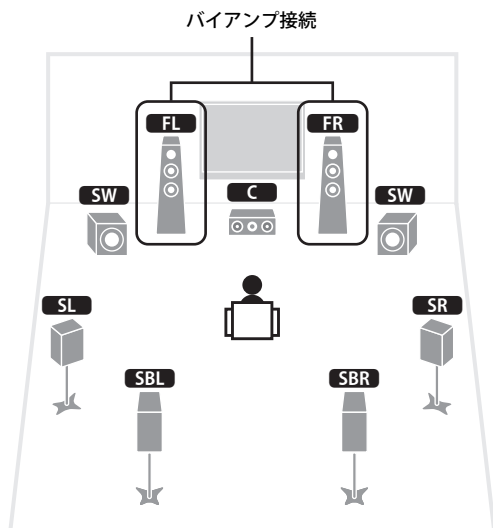
□ 7.2 [ext.Front] +2Zone



スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	EXTRA SP1
RPL RPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2
ゾーン 2 スピーカー	EXTRA SP2

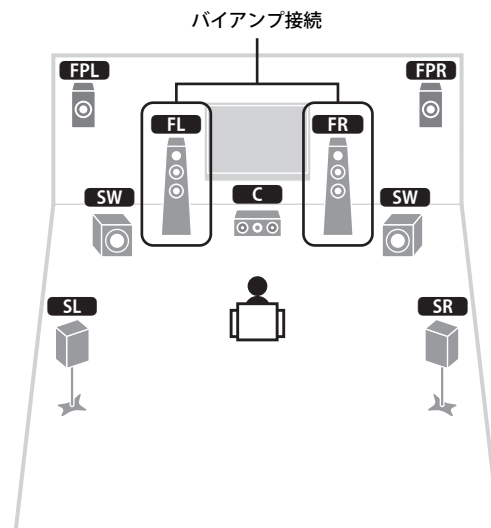
スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	(使用しない)
RPL RPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2
ゾーン 2 スピーカー	EXTRA SP1
ゾーン 3 スピーカー	EXTRA SP2

7.2 Bi-Amp



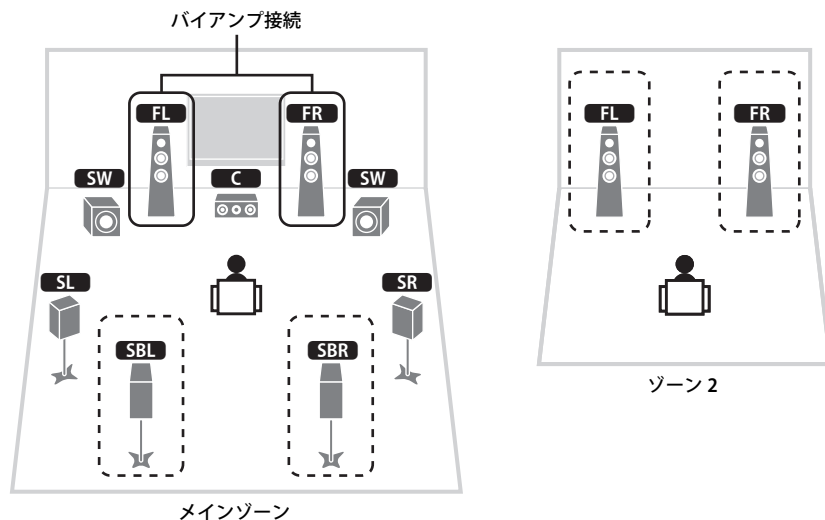
スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT および EXTRA SP1 (バイアンプ接続)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	(使用しない)
RPL RPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2

5.2.2 Bi-Amp

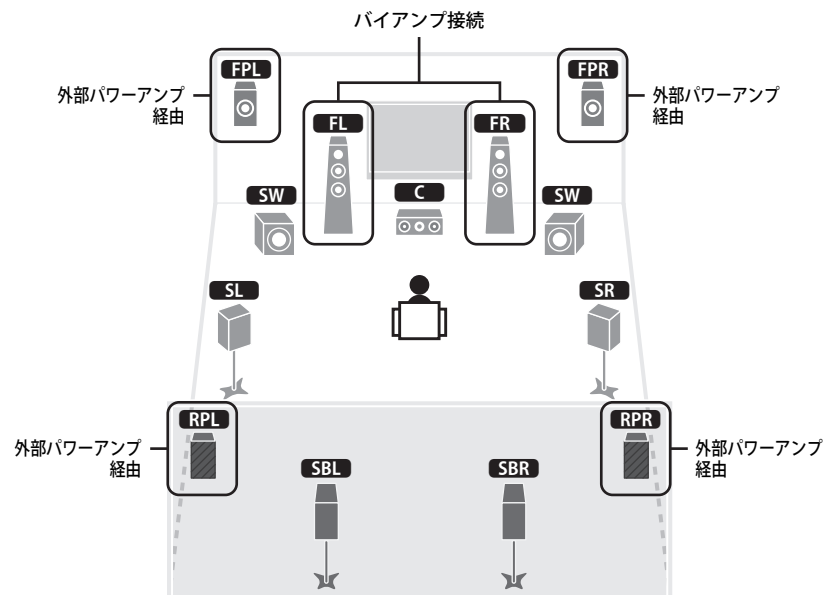


スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT および EXTRA SP1 (バイアンプ接続)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	(使用しない)
FPL FPR	EXTRA SP2
RPL RPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2

7.2 Bi-Amp + 1Zone



7.2.4 Bi-Amp [ext.FP+RP] (RX-A3080 のみ)



スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT および EXTRA SP1 (バイアンプ接続)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	(使用しない)
RPL RPR	(使用しない)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2
ゾーン 2 スピーカー	EXTRA SP2



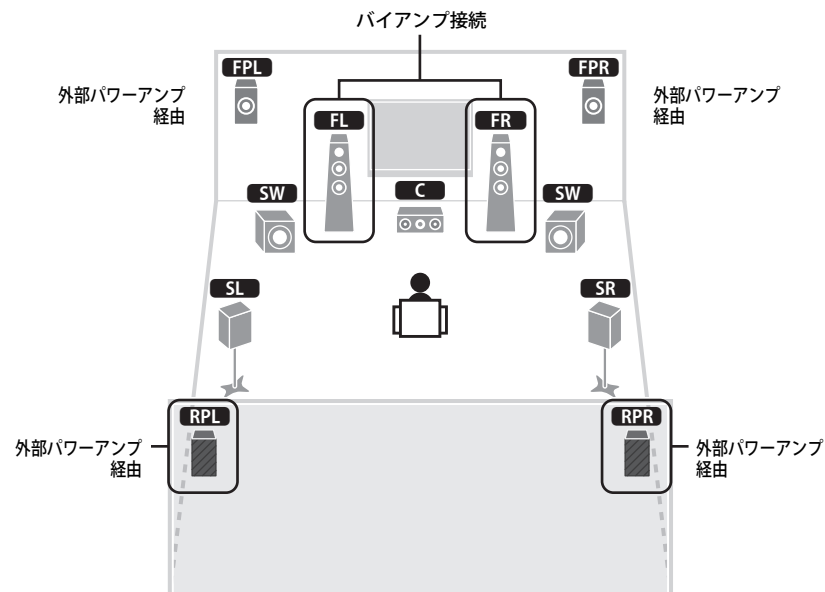
- ・ゾーン2出力が有効なとき(98ページ)は、メインゾーンのサラウンドバックスピーカーから音が出ません。

スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT および EXTRA SP1 (バイアンプ接続)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	SURROUND BACK
FPL FPR	F.PRESENCE (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
RPL RPR	R.PRESENCE (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2



- ・このシステムを適用する場合、ZONE OUT/PRE OUT 端子にゾーン 2 およびゾーン 3 の外部アンプ (95 ページ) を接続できません。

□ 5.2.4 Bi-Amp [ext.RP] (RX-A3080 のみ)



スピーカー	接続先の端子
FL FR	FRONT および EXTRA SP1 (バイアンプ接続)
C	CENTER
SL SR	SURROUND
SBL SBR	(使用しない)
FPL FPR	EXTRA SP2
RPL RPR	R.PRESENCE (PRE OUT) (外部パワーアンプ経由)
SW	SUBWOOFER 1 ~ 2



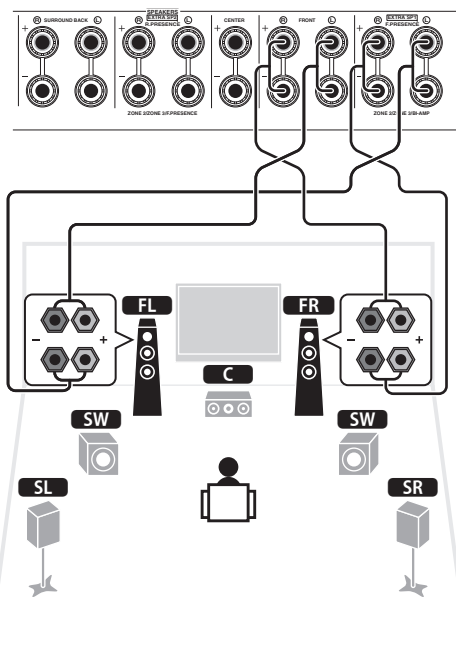
- このシステムを使用する場合、ZONE OUT/PRE OUT 端子にゾーン 3 の外部アンプ (95 ページ) を接続できません。

■ バイアンプ接続対応のフロントスピーカーを接続する

バイアンプ接続に対応したフロントスピーカーを使う場合は、スピーカーを FRONT 端子および EXTRA SP1 端子に接続します。

バイアンプ機能を有効にするには、電源コードを接続後、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で正しい設定を選んでください (49 ページ)。

本機 (背面)



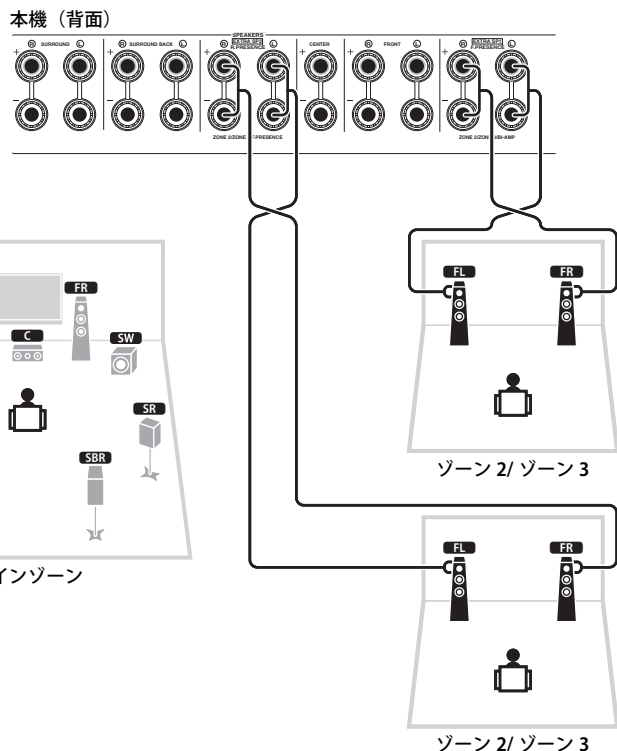
- FRONT 端子と EXTRA SP1 端子からは同じ信号が出力されます。

注意

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具 (またはケーブル) を取り外してください。バイアンプ接続をしない場合は、必ず金具 (またはケーブル) を取り付け付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ ゾーン 2/ ゾーン 3 スピーカーを接続する

ゾーン2/ゾーン3スピーカーを使う場合は、スピーカーをEXTRA SP1～2端子に接続します。EXTRA SP1～2端子をゾーン 2/ ゾーン 3 スピーカーに割り当てるには、電源コードを接続後、設定メニューの「パワーアンプ割り当て」で正しい設定を選んでください(49 ページ)。



- 設定メニューの「パワーアンプ割り当て」(116 ページ) で EXTRA SP1～2端子に割り当てるゾーン(ゾーン 2またはゾーン 3)を選択できます。
- 外部アンプを使ってゾーン 2/ ゾーン 3 スピーカーを接続することもできます(95 ページ)。

■ 外部パワーアンプを接続する

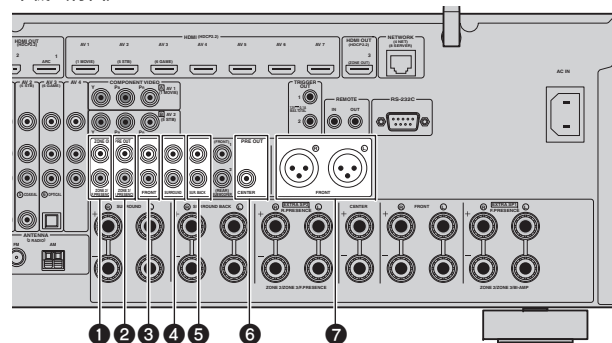
スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプを使う場合は、外部パワーアンプの入力端子を本機の PRE OUT 端子に接続します。

PRE OUT 端子からは、各 SPEAKERS 端子と同じ音声が出力されます。

注意

- 大音量や異音の発生を防ぐため、以下の点を必ず守ってください。
 - 外部パワーアンプを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、外部パワーアンプの電源を切ってください。
 - PRE OUT 端子を使う場合は、該当するチャンネルのスピーカーを SPEAKERS 端子に接続しないでください。
 - 音量調整バイパス機能に対応していないプリメインアンプを使う場合は、プリメインアンプの音量を十分に上げて、固定してください。この場合、プリメインアンプに本機以外の機器を接続しないでください。

本機 (背面)



① F.PRESENCE 端子 (RX-A3080 のみ) /ZONE2 端子

「パワーアンプ割り当て」(116 ページ) の設定により、フロントプレゼンス左 / 右チャンネルの音声、またはゾーン 2 の音声を出力します。

② R.PRESENCE 端子 (RX-A3080 のみ) /ZONE3 端子

「パワーアンプ割り当て」(116 ページ) の設定により、リアプレゼンス左 / 右チャンネルの音声、またはゾーン 3 の音声を出力します。

③ FRONT 端子

フロント左 / 右チャンネルの音声を出力します。

④ SURROUND 端子

サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。

5 SUR.BACK 端子

サラウンドバック左 / 右チャンネルの音声を出力します。

6 CENTER 端子

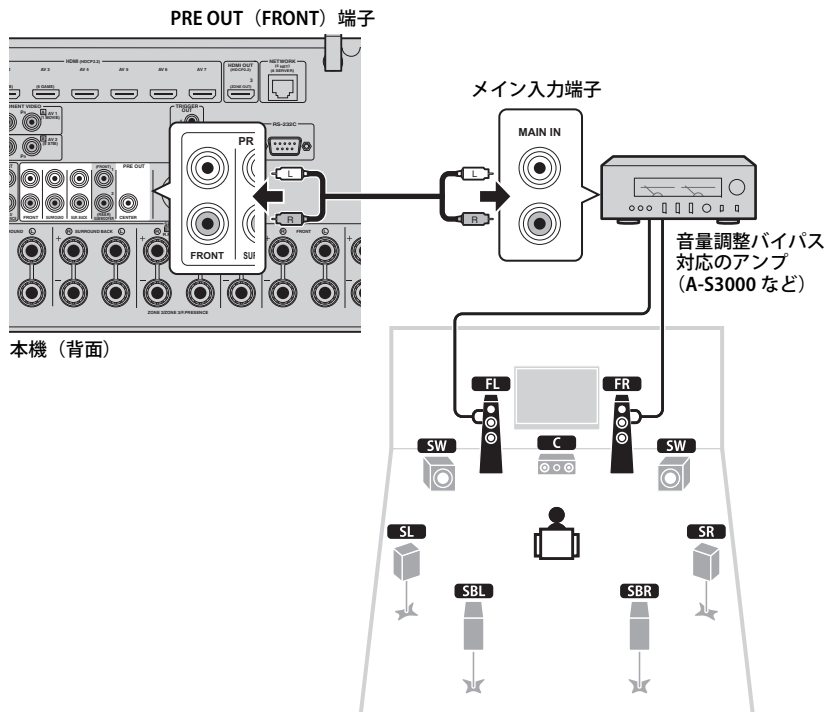
センターチャンネルの音声を出力します。

7 FRONT (XLR) 端子 (RX-A3080 のみ)

XLR バランスケーブルを介してフロントから出力します。

アナログピンケーブルでの接続例

フロントスピーカーを外部パワーアンプ経由で接続する場合

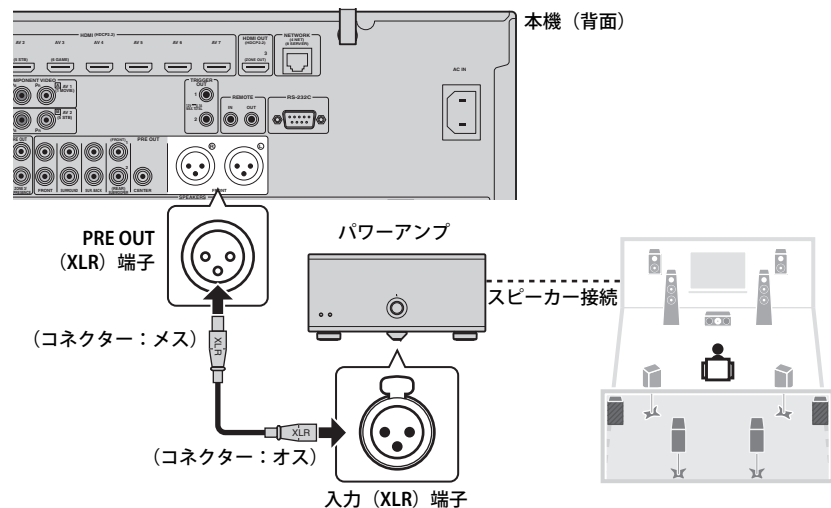


XLR バランスケーブルでの接続例

XLR バランスケーブルを使って、パワーアンプを本機の PRE OUT (XLR) 端子に接続します。構築するスピーカーシステムにより、使用する PRE OUT 端子のチャンネルが異なります。



- XLR バランスケーブルを接続する前に、パワーアンプの取扱説明書を参照し、XLR 端子が本機のピン割当に対応していることをご確認ください (41 ページ)。
- 音量調整バイパス機能に対応している (または音量調整回路がない) パワーアンプの使用をおすすめします。



推奨する外部パワーアンプ

以下の仕様に合ったパワーアンプの使用をおすすめします。

- アンバランス入力を装備
- 音量調整バイパス機能に対応 (または音量調整回路がない)
- 出力: 100W 以上 (6 ~ 8Ω)

2 テレビや再生機器を接続する

本機にテレビと再生機器（ビデオ機器、オーディオ機器）を接続します。

USB 機器の接続については、「USB 機器を接続する」（80 ページ）をご覧ください。

入出力端子とケーブル

本機は以下の入出力端子を装備しています。接続する外部機器側の端子に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

■ 映像 / 音声を入出力する端子

□ HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。



HDMI ケーブル



- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。

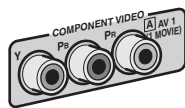


- HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル（ARC）、3D 映像と 4K Ultra HD 映像の伝送に対応しています。
- 3D 映像、4K Ultra HD 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

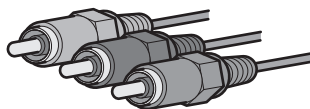
■ 映像を入力する端子

□ COMPONENT VIDEO 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（Pb）、赤色差信号（Pr）に分離して伝送します。接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントケーブルを使います。



コンポーネントケーブル

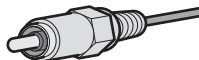


□ VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。



映像用ピンケーブル



■ 音声を入出力する端子

□ OPTICAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。



光デジタルケーブル

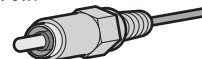


□ COAXIAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。



同軸デジタルケーブル

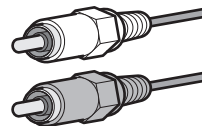


□ AUDIO 端子

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオピンケーブル（RCA アンバランスケーブル）を使います。



ステレオピンケーブル



□ XLR 端子

アナログ音声を伝送します。接続には、XLR バランスケーブルを使います。

ピンどうしをあわせ、XLR バランスケーブルのコネクター（オス）を「カチッ」と音がするまで差し込みます。

XLR 入力端子

XLR バランスケーブル（オス）



- ケーブルを本機から取り外す際は、端子上部の PUSH ボタンを押しながらコネクターを引き抜きます。

XLR 出力端子

ピンどうしをあわせ、XLR バランスケーブルのコネクター（メス）を「カチッ」と音がするまで差し込みます。

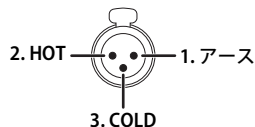
XLR バランスケーブル（メス）



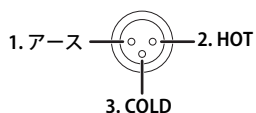
- ケーブルを本機から取り外す際は、コネクターのレバーを押しながら引き抜きます。

XLR 端子について

XLR 入力端子



XLR 出力端子



本機の XLR 端子のピン割当は上記のとおりです。XLR バランスケーブルを接続する前に、各機器の取扱説明書を参照し、上記のピン割当に対応していることをご確認ください。

テレビを接続する

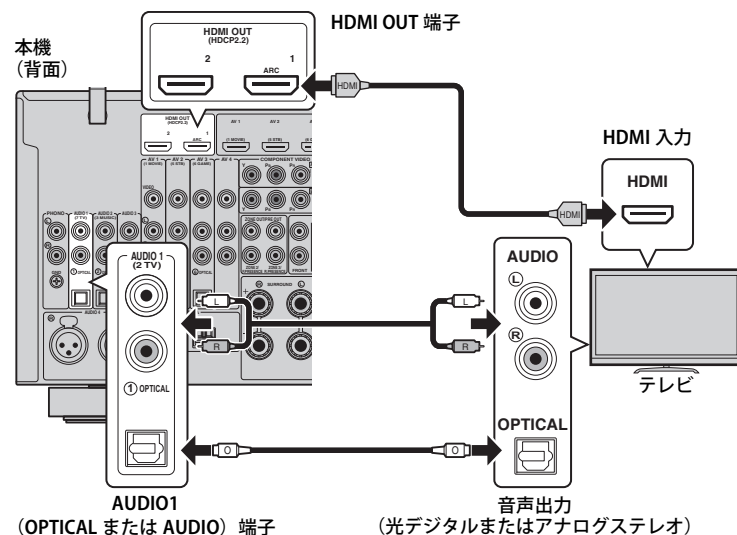
テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。
また、テレビ番組の音声を本機で楽しむことができます。

■ HDMI 接続

HDMI ケーブルと音声ケーブル（光デジタルまたはステレオピンケーブル）を使って、テレビを本機に接続します。



- HDMI OUT2 端子を使って、テレビやプロジェクターなどをもう 1 台接続できます（42 ページ）。





- 音声ケーブルはテレビの音声を本機で再生するために接続します。以下の場合、音声ケーブルを接続する必要はありません。
 - お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合
 - テレビを衛星チューナーなどで視聴する場合（テレビ内蔵のチューナーを使用しない）
- テレビが HDMI コントロールに対応している場合、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。

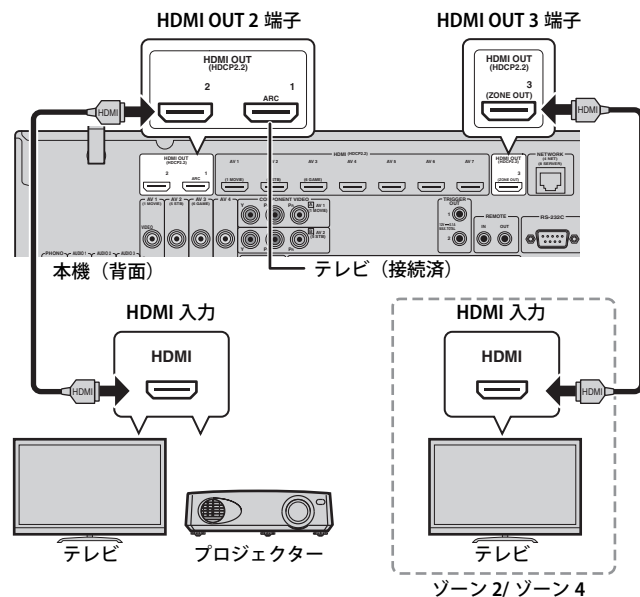
HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。詳しくは「HDMI について」（164 ページ）をご覧ください。

オーディオリターンチャンネル（ARC）とは

- 1 本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。テレビが ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。
- ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルで本機とテレビを接続してください。

■ 複数のテレビやプロジェクターを接続する

本機には 3 つの HDMI 出力端子があります。HDMI ケーブルを使って、2 台目のテレビやプロジェクターを本機に接続しておけば、使用するテレビ / プロジェクターをリモコンで選べます（68 ページ）。また、HDMI OUT 3（ZONE OUT）端子にゾーン 2 / ゾーン 4 のテレビを接続して映像 / 音声を楽しむことができます（96 ページ）。



- HDMI OUT2 および 3 端子は HDMI コントロールには対応していません。

ビデオ機器を接続する（BD/DVD プレーヤーなど）

BD/DVD プレーヤー、衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機などのビデオ機器を本機に接続します。接続するビデオ機器の出力端子（映像 / 音声）により、接続方法を選んでください。ビデオ機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。



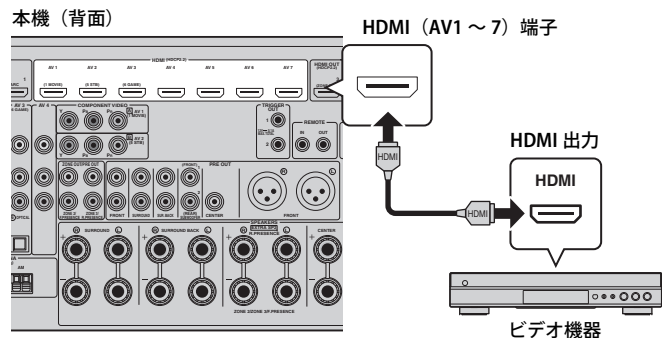
- 以下の接続は、設定メニューの「入力端子割り当て」（138 ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。必要に応じて、COMPONENT VIDEO (A、B) 端子、COAXIAL (③、④、⑤) 端子、OPTICAL (①、②、⑥) 端子を別の入力に割り当てることができます。



- 1 つの入力に対して 2 種類以上の音声ケーブルを接続した場合、本機で再生される音声信号はオプションメニューの「音声入力選択」（107 ページ）の設定にしがいます。

■ HDMI 接続

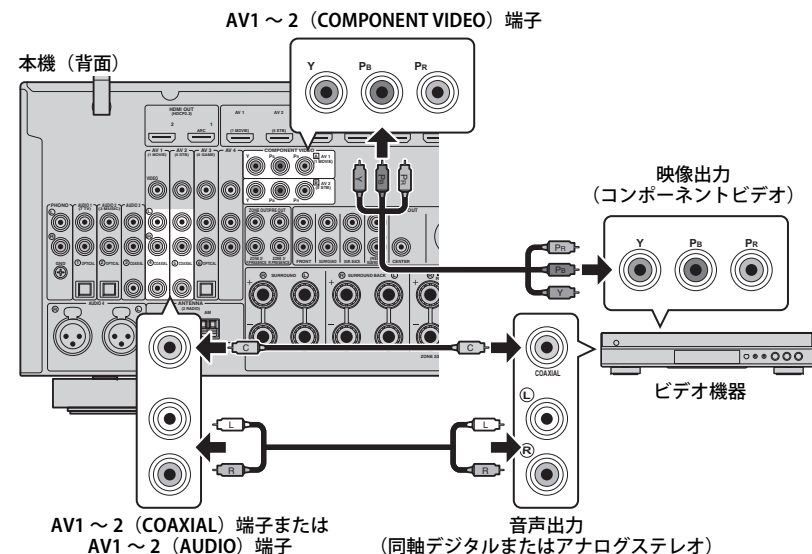
HDMI ケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。



■ コンポーネントビデオ接続

コンポーネントケーブルと音声ケーブル（同軸デジタルまたはステレオピンケーブル）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子を選びます。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポーネントビデオ	同軸デジタル	AV1 ~ 2 (COMPONENT VIDEO + COAXIAL)
	アナログステレオ	AV1 ~ 2 (COMPONENT VIDEO + AUDIO)



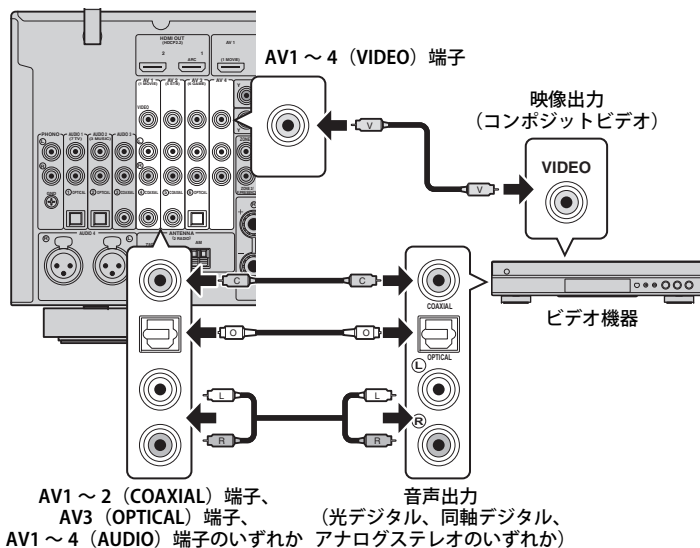
- コンポーネントビデオケーブルと光デジタルケーブルを使ってビデオ機器を本機に接続する場合は、設定メニューの「入力端子割り当て」（138 ページ）で COMPONENT VIDEO 端子と OPTICAL 端子を同じ入力に割り当ててください。

■ ビデオ（コンポジット）接続

映像用ピンケーブルと音声ケーブル（同軸デジタル、光デジタル、ステレオピンケーブルのいずれか）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV1～4）が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポジットビデオ	同軸デジタル	AV1～2（VIDEO + COAXIAL）
	光デジタル	AV3（VIDEO + OPTICAL）
	アナログステレオ	AV1～4（VIDEO + AUDIO）

本機（背面）



オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど）

CD プレーヤー、レコードプレーヤーなどのオーディオ機器を本機に接続します。接続するオーディオ機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。



以下の接続は、設定メニューの「入力端子割り当て」（138 ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。必要に応じて、COAXIAL（③、④、⑤）端子、OPTICAL（①、②、⑥）端子を別の入力に割り当てることができます。

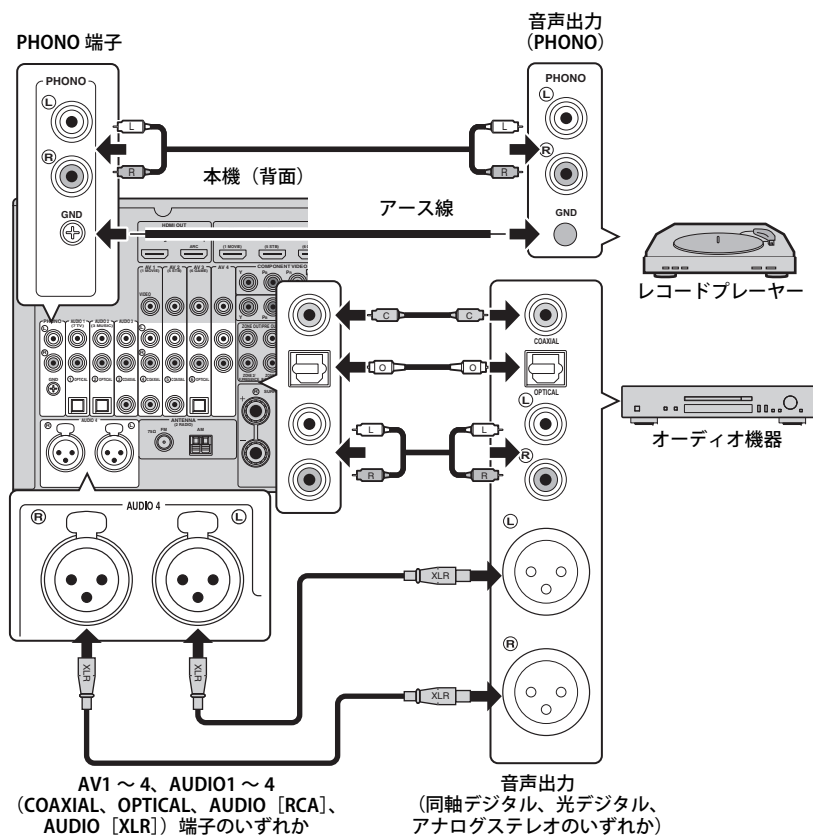
・（RX-A3080 のみ）

XLR バランスケーブルを接続する前に、オーディオ機器の取扱説明書を参照し、XLR 端子が本機のピン割当に対応していることをご確認ください（41 ページ）。



・1つの入力に対して2種類以上の音声ケーブルを接続した場合、本機で再生される音声信号はオプションメニューの「音声入力選択」（107 ページ）の設定にしたがいます。

オーディオ機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
同軸デジタル	AV1～2（COAXIAL） AUDIO3（COAXIAL）
光デジタル	AV3（OPTICAL） AUDIO1～2（OPTICAL）
アナログステレオ（RCA）	AV1～4（AUDIO [RCA]） AUDIO1～3（AUDIO [RCA]）
アナログステレオ（XLR）	AUDIO4（AUDIO [XLR]）（RX-A3080 のみ）
レコードプレーヤー（PHONO）	PHONO



入力選択キーで各入力を選ぶと、オーディオ機器の音声为本機から出力されます。

* AUDIO4 (AUDIO [XLR]) 端子: RX-A3080 のみ

レコードプレーヤー接続時の注意

- 本機の PHONO 端子は MM 型のカートリッジに対応しています。MC 型 (低出力型) のカートリッジを搭載したレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスなどを使用してください。
- お使いのレコードプレーヤーによっては、本機の GND 端子と接続することでノイズを低減できます。(GND 端子は安全アースではありません。)

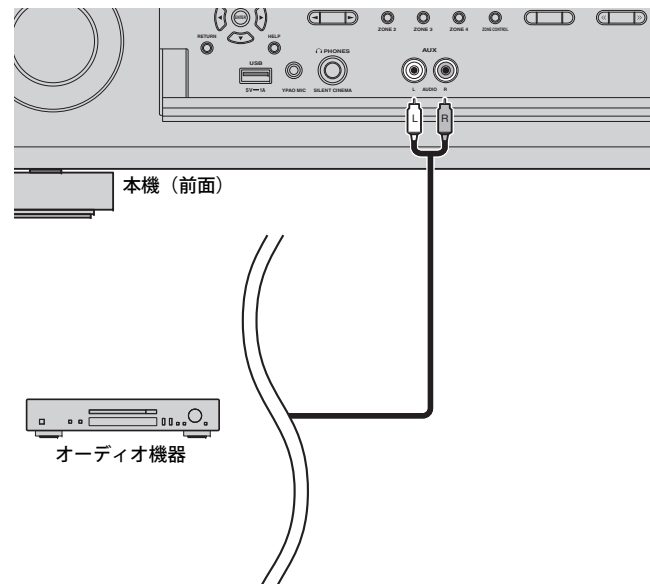
本体前面の端子に接続する

オーディオ再生機器を一時的に接続する場合は AUX 端子を使用すると便利です。ステレオピンケーブルを使って、CD プレーヤーなどのオーディオ機器を本機に接続してください。

USB 端子に USB 機器を接続したい場合は、「USB 機器を接続する」(80 ページ) をご覧ください。



- 接続する前に、再生機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。

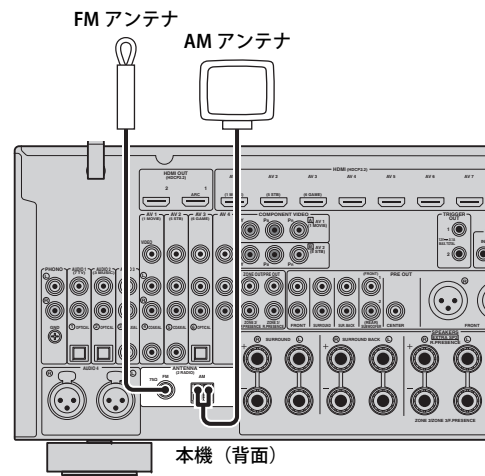


入力選択キーで入力を「AUX」に切り替えると、接続した機器の音声为本機から出力されます。

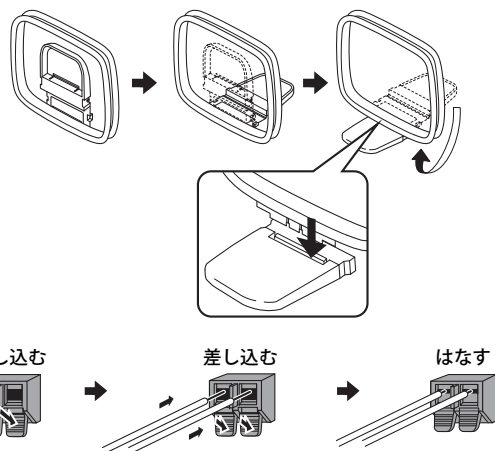
3 FM/AM アンテナを接続する

付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。

接続後、FM アンテナは壁に固定し、AM アンテナは水平な場所に置いてください。



AM アンテナの組立と接続



- AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。
- AM アンテナのコードに極性はありません。

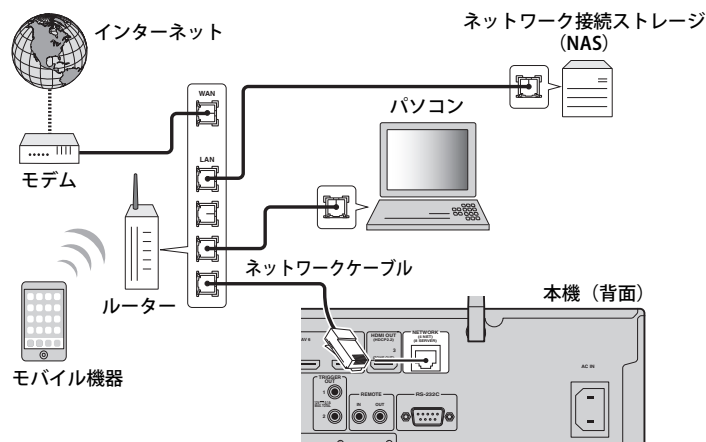
4 ネットワークケーブルの接続や無線アンテナの準備をする

ネットワークケーブルを使って、本機をルーター（アクセスポイント）に接続します。無線接続を使用する場合は、無線アンテナを使用します。

これによりインターネットラジオやパソコン、ネットワーク接続ストレージ（NAS）などのメディアサーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。

ネットワークケーブルを接続する

市販の STP ネットワークケーブル（CAT-5 以上のストレートケーブル）を使って、本機をルーターに接続します。



- 無線接続を使用したあと、ネットワークケーブルを使った有線接続に変更する場合は、設定メニューの「ネットワーク接続」（133 ページ）を「有線」に設定してください。
- DHCP サーバー対応のルーターをお使いの場合は、本機でネットワーク設定を行う必要はありません。ネットワーク情報（IP アドレスなど）が自動で割り当てられます。ルーターが DHCP サーバー非対応の場合や、ネットワーク情報を手動で割り当てる場合は、ネットワーク設定（132 ページ）が必要になります。
- 設定メニューの「ネットワーク設定」（132 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。

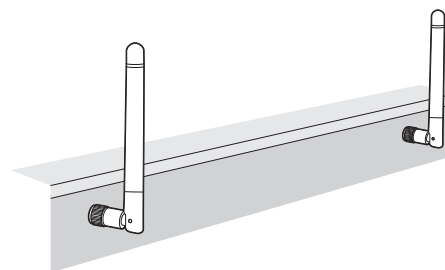


- セキュリティソフトや、ネットワーク機器の設定（ファイアウォールなど）により、本機がパソコンやインターネットラジオにアクセスできないことがあります。その場合はセキュリティソフトやネットワーク機器の設定を変更してください。
- サブネットを手動で設定する際は、すべて本機と同じサブネットに設定してください。
- インターネットサービスは、ブロードバンド回線の使用をおすすめします。

無線アンテナを準備する

無線接続や Bluetooth 接続を使用する場合は、本機の無線アンテナをまっすぐ上に立てます。

無線ネットワーク機器への接続方法については、「無線ネットワーク機器に接続する」（61 ページ）をご覧ください。

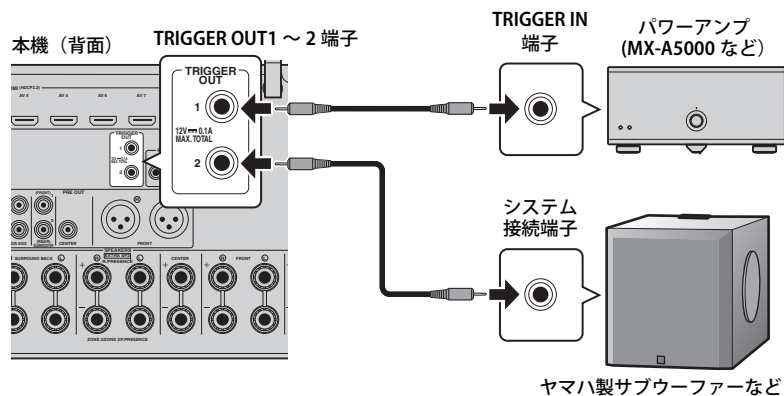


- 無線アンテナに極端な力を加えたりしないでください。破損するおそれがあります。

5 その他の機器を接続する

トリガー機能対応の機器を接続する

トリガー機能とは、本機の操作（電源入/切、入力選択など）に連動して外部機器を制御できる機能です。システム接続に対応しているヤマハ製サブウーファーや、トリガー入力端子がある機器をお使いの場合は、モノラルミニプラグケーブルを使って本機の TRIGGER OUT1 端子または TRIGGER OUT2 端子に接続すれば、トリガー機能を利用できます。

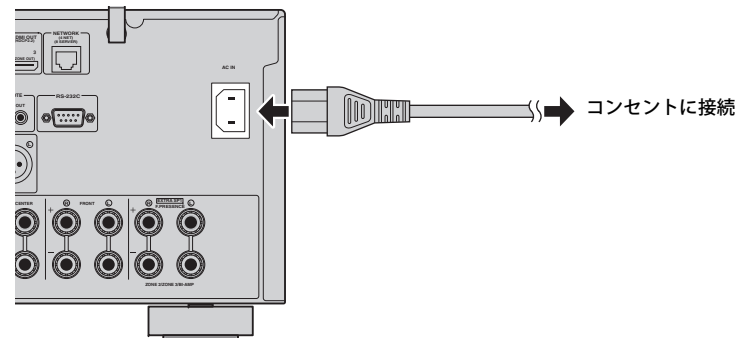


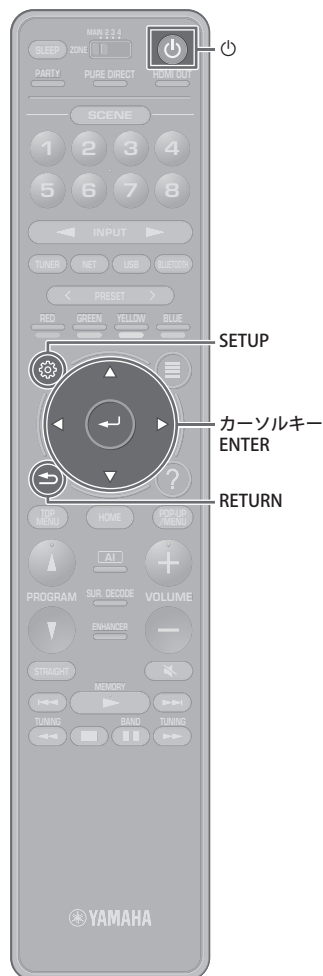
- ・ 設定メニューの「トリガー出力 1」および「トリガー出力 2」（141 ページ）で、トリガー機能使用時の外部機器の制御について設定できます。

6 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、付属の電源コードを本機に接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

本機（背面）





7 スピーカー設定を行う

以下のスピーカーシステムを使用する場合は、YPAO を実行する前に手でスピーカー設定を変更する必要があります。

- バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）、マルチゾーン接続（29 ページ）
- サラウンドスピーカーを使ったフロント 5.1 チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）（24 ページ）
- プレゼンスピーカーを使ったシステム（Dolby Atmos/DTS:X コンテンツの再生）（25 ページ）

- 1 電源（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。



- 本機の電源を初めて入れた際、ネットワーク設定に関するメッセージが表示されます。ここでは RETURN キーを押し、手順 3 に進んでください。

- 3 SETUP キーを押す。
- 4 カーソルキーで「スピーカー設定」を選び、ENTER キーを押す。
- 5 カーソルキーで「構成」を選び、ENTER キーを押す。

6 必要なスピーカー設定を変更する。

- バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）、マルチゾーン接続を使用する場合は、「パワーアンプ割り当て」（116 ページ）で該当するスピーカーシステムを選ぶ。
- サラウンドスピーカーを使ったフロント 5.1 チャンネルシステム（バーチャルシネマフロント）を使用する場合は、「構成」→「サラウンド」→「配置」（118 ページ）で「前方」を選ぶ。
- プレゼンスピーカーを使ったシステム（Dolby Atmos/DTS:X コンテンツの再生）を使用する場合は、「構成」→「フロントプレゼンス」→「配置」（118 ページ）および「リアプレゼンス」（118 ページ）で該当するスピーカー配置を選ぶ。

7 終了するには、SETUP キーを押す。



8 スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO: Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。



- 本機の YPAO は、YPAO-R.S.C. (Reflected Sound Control) 技術を採用しています。これにより、音響専用に施工された部屋のような自然な音場を創り出すことができます。



- YPAO 使用時は次のことにご注意ください。
 - 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいいらっしゃる場合は十分に配慮ください。
 - 測定中は音量を調節できません。
 - 測定中は部屋を静かに保ってください。
 - 測定中は視聴位置の後方 (部屋の隅) にとどまり、スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮らないようにしてください。
 - ヘッドホンは接続しないでください。

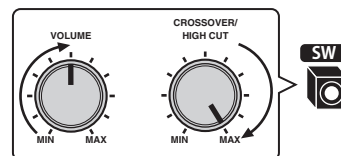
測定前の準備

- 1 電源 (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える。



- 本機の電源を初めて入れた際、ネットワーク設定に関するメッセージが表示されます。ここでは RETURN キーを押し、手順 3 に進んでください。

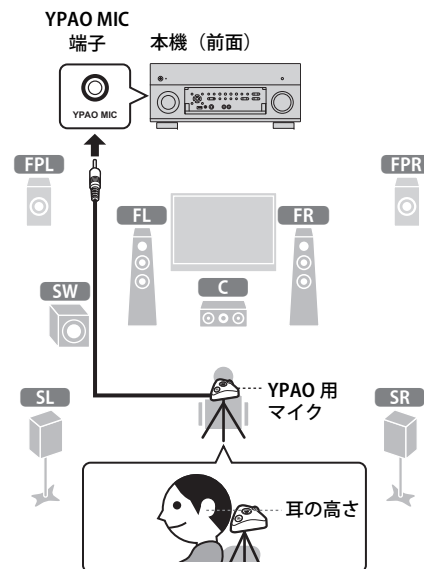
- 3 サブウーファの電源を入れ、音量を半分に調節する。クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



- 4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。



- YPAO 用マイクを視聴位置 (耳の高さ) に置きます。三脚などをマイクスタンドとしてお使いください。三脚のネジを使ってマイクを固定できます。



テレビに次の画面が表示されます。



- 操作を中止するには、測定前に YPAO 用マイクを取り外します。

5 必要に応じて、測定オプションを選ぶ。

カーソルキーで「マルチ測定」(51 ページ) または「角度 / 高さ測定」(52 ページ) を選択して ENTER を押します。

これで準備は完了です。以下の手順で測定を始めてください。

「マルチ測定」を選択時：

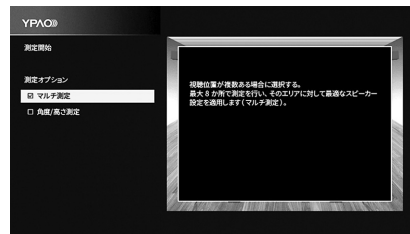
「複数の視聴位置で測定する (マルチ測定)」(55 ページ)

「シングル測定」を選択時：

「1 か所で測定する (シングル測定)」(53 ページ)

□ マルチ測定

マルチ測定またはシングル測定を選びます。



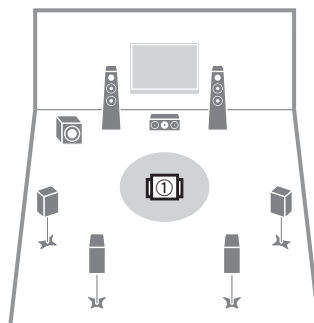
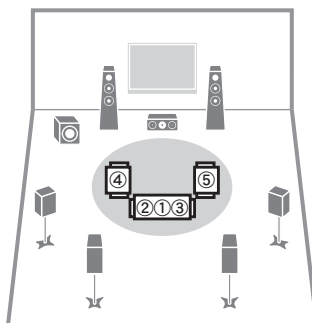
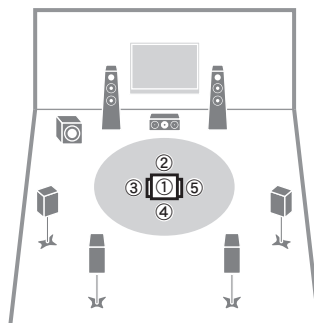
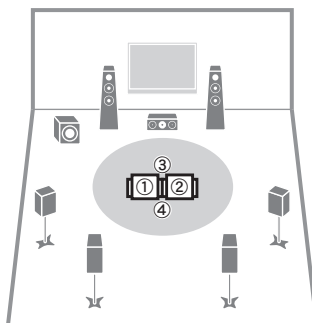
測定方法

チェックあり	視聴位置が複数ある場合に選択する。 最大 8 か所で測定を行い、そのエリアに対して最適なスピーカー設定を適用します (マルチ測定)。
チェックなし (初期値)	常に同じ位置で視聴する場合に選択する。 1 か所だけで測定を行い、その位置に対して最適なスピーカー設定を適用します (シングル測定)。



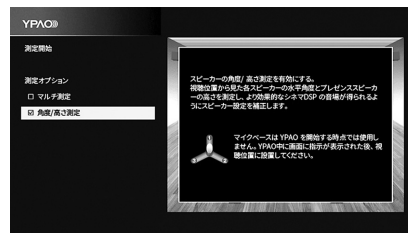
- 視聴位置が複数ある場合、マルチ測定を実行すれば最適に補正されたサラウンド音を広いエリアで楽しみいただけます。
- マルチ測定を実行する場合、最初にもっとも使用する視聴位置で測定してください。

シングル測定

マルチ測定
(例：視聴位置 5 か所)マルチ測定
(例：視聴位置 1 か所 + 前後左右)マルチ測定
(例：視聴位置 2 か所 + 前後)

□ 角度 / 高さ測定

スピーカーの角度 / 高さ測定を有効 / 無効にします。



測定方法

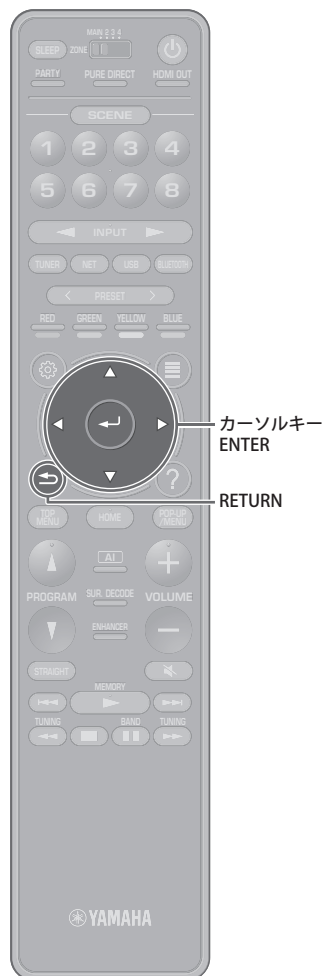
チェックあり

スピーカーの角度 / 高さ測定を有効にする。

視聴位置から見た各スピーカーの水平角度とプレゼンススピーカーの高さを測定し、より効果的なシネマ DSP の音場が得られるようにスピーカー設定を補正します。

チェックなし
(初期値)

スピーカーの角度 / 高さ測定を無効にする。



1 か所で測定する（シングル測定）

「マルチ測定」を選択しない場合は、以下の手順で測定を行います。測定に必要な時間は約 5 分です。



- エラーメッセージ（エラー 1 など）や警告メッセージ（警告 1 など）が表示された場合は「エラーメッセージ」（59 ページ）または「警告メッセージ」（60 ページ）をご覧ください。
- テレビ画面に指示が表示されるまでマイクベースを使用しないでください。

1 測定を始めるには、カーソルキーで「測定開始」を選び、ENTER キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、再度 ENTER キーを押します。



- 測定を中止するには、RETURN キーを押します。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。

（角度 / 高さ測定が無効の場合）

手順 3 に進む。



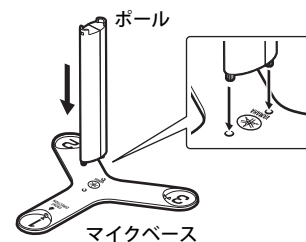
（角度 / 高さ測定が有効の場合）

手順 2 に進む。



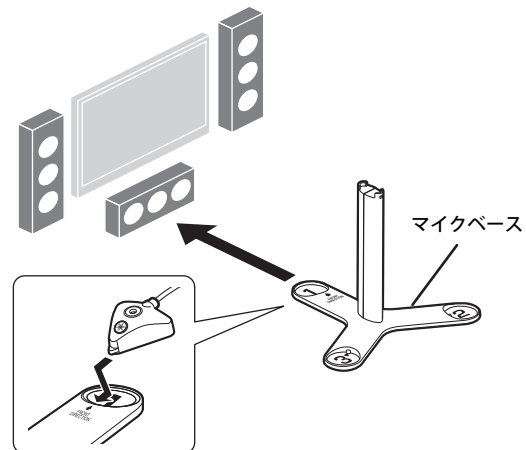
2 以下の手順で角度 / 高さ測定を行う。

- ① 付属のボールをマイクベースの中央に取り付ける。





- ② 視聴位置にマイクベースを置き、マイクベース（1 番の位置）に YPAO 用マイクを置く。



- 三脚などを使ってマイクベースを耳の高さに合わせてください。
三脚のネジを使ってマイクベースを固定できます。
- 4 回目の角度測定が終わるまでマイクベースを動かさないでください。

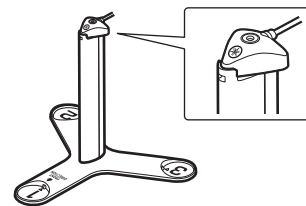
- ③ 角度測定を始めるには、ENTER キーを押す。

1 回目の角度測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



- ④ 同様に、2 番と 3 番の位置で角度測定を行う。

- ⑤ ポールの上に YPAO 用マイクを置き、4 回目の角度測定を行う。

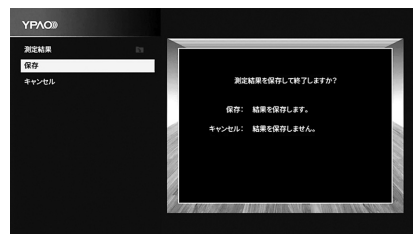


4 回目の角度測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。





- 3** 測定結果を保存するにはカーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。



補正されたスピーカー設定が反映されます。



- 測定結果を保存する前に結果を確認するには、カーソルキーで「測定結果」を選択し、ENTER を押します。
- 測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

- 4** YPAO 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

注意

- YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

複数の視聴位置で測定する（マルチ測定）

「マルチ測定」を選択した場合は、以下の手順で測定を行います。測定に必要な時間は約 15 分です（8 か所で測定する場合）。



- エラーメッセージ（エラー 1 など）や警告メッセージ（警告 1 など）が表示された場合は「エラーメッセージ」（59 ページ）または「警告メッセージ」（60 ページ）をご覧ください。
- テレビ画面に指示が表示されるまでマイクベースを使用しないでください。

- 1** 測定を始めるには、カーソルキーで「測定開始」を選び、ENTER キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、再度 ENTER キーを押します。



- 測定を中止するには、RETURN キーを押します。

最初の位置での測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



- 2** YPAO 用マイクを次の視聴位置に移動し、ENTER キーを押す。

すべての視聴位置（最大 8 か所）で測定するまで手順 2 を繰り返します。

- 3** すべての視聴位置で測定したら、カーソルキーで「スキップ」を選び、ENTER キーを押す。

8 か所で測定した場合は、自動的に次の画面が表示されます。

(角度 / 高さ測定が無効の場合)

手順 5 に進む。



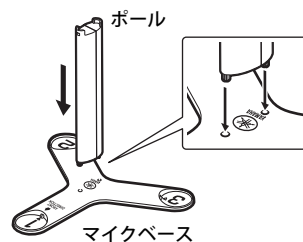
(角度 / 高さ測定が有効の場合)

手順 4 に進む。

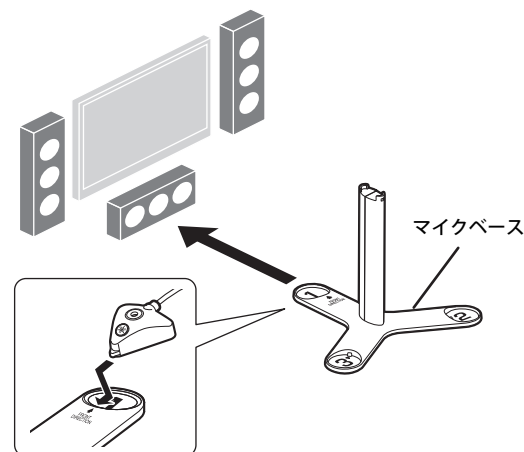


4 以下の手順で角度 / 高さ測定を行う。

① 付属のボールをマイクベースの中央に取り付ける。



② もっとも使用する視聴位置にマイクベースを置き、マイクベース (1 番の位置) に YPAO 用マイクを置く。



- 三脚などを使ってマイクベースを耳の高さに合わせてください。
三脚のネジを使ってマイクベースを固定できます。
- 4 回目の角度測定が終わるまでマイクベースを動かさないでください。



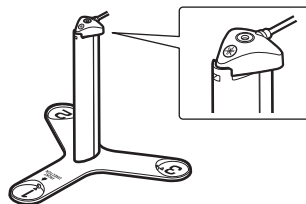
③ 角度測定を始めるには、ENTER キーを押す。

1 回目の角度測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



④ 同様に、2 番と 3 番の位置で度測定を行う。

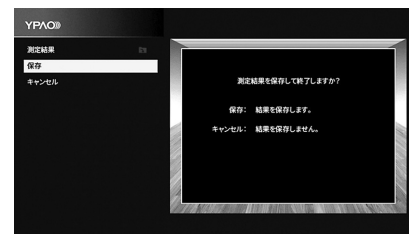
⑤ ポールの上に YPAO 用マイクを置き、4 回目の角度測定を行う。



4 回目の角度測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



5 測定結果を保存するにはカーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。



補正されたスピーカー設定が反映されます。



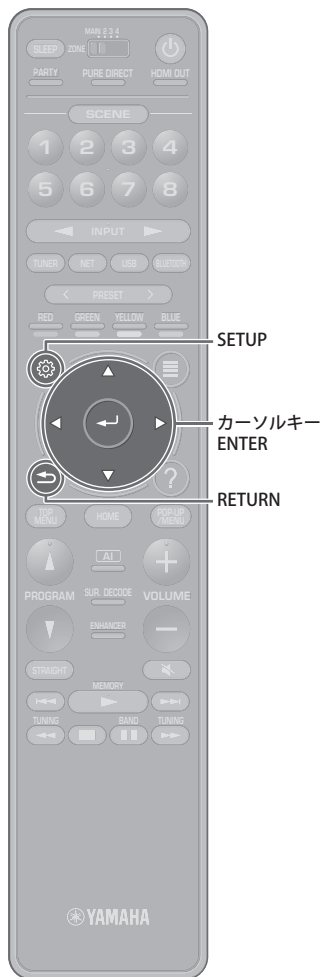
- 測定結果を保存する前に結果を確認するには、カーソルキーで「測定結果」を選択し、ENTER を押します。
- 測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

6 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

注意

- YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。



測定結果を確認する

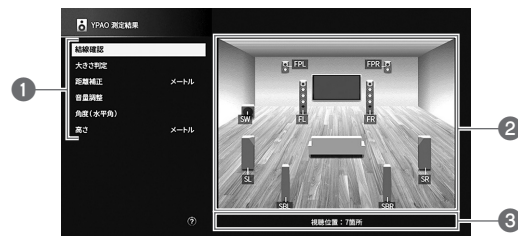
YPAO による測定結果を確認します。

- 1 測定終了後に、カーソルキーで「測定結果」を選び、ENTER キーを押す。



- ・設定メニューの「スピーカー設定」(116 ページ) からも、「YPAO 測定結果」を選べます。この場合は、前回 YPAO を実行した際の測定結果が表示されます。

次の画面が表示されます。



- ① 測定結果項目
- ② 測定結果の詳細
- ③ 測定場所の数

- 2 カーソルキーで項目を選ぶ。

結線確認	<p>スピーカーの有無と極性</p> <p>逆相:極性(+)と-が逆に接続されている可能性がある。</p>
大きさ判定	<p>スピーカーのサイズ (サブウーファーのクロスオーバー周波数)</p> <p>大:低音域を効果的に出力できるスピーカーが接続されている。</p> <p>小:低音域を効果的に出力できないスピーカーが接続されている。</p>
距離補正	視聴位置とスピーカーの距離
音量調整	スピーカーの音量補正值

角度 (水平角)	視聴位置から見たスピーカーの角度 (水平角)
高さ	視聴位置から見たプレゼンスピーカーの高さ



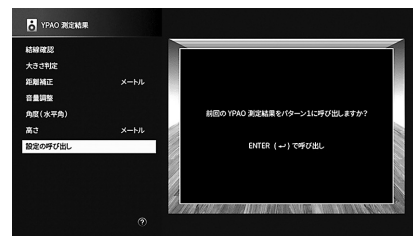
- ・角度 (水平角) と高さは、角度 / 高さ測定を実施したときに結果が表示されます。

- 3 確認後に前の画面に戻るには、RETURN キーを押す。

最後に保存した YPAO 補正值に戻す

スピーカー設定を手動で調整して音のバランスが悪くなった場合など、手動設定を破棄して、最後に保存した YPAO 補正值に戻すことができます。

- 1 設定メニューで「スピーカー設定」、「YPAO 測定結果」の順に選ぶ (120 ページ)。
- 2 カーソルキーで「設定の呼び出し」を選び、ENTER キーを押す。



- 3 終了するには、SETUP キーを押す。

エラーメッセージ

測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから YPAO を再度実行してください。



エラーメッセージ	対策
エラー 1 フロントスピーカーを検出できません。	
エラー 2 サウンドスピーカーの片側を検出できません。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
エラー 3 フロントプレゼンスピーカーの片側を検出できません。	
エラー 4 サウンドバックスピーカーの片側を検出できません。	
エラー 5 雑音が大きいため測定できない。	部屋が静かになってから再測定してください。「続行」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
エラー 6 サウンドスピーカーが未接続なのに、サウンドバックスピーカーが接続されています。	サウンドバックスピーカーを使うには、サウンドスピーカーが接続されている必要があります。画面表示にしたがって YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーを接続し直してください。
エラー 7 測定中に YPAO 用マイクが外れました。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。
エラー 8 YPAO 用マイクがテストトーンを検出できません。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
エラー 9 測定が中断されました。	目的に応じて、再測定するか YPAO を終了してください。
エラー 10 内部エラーが発生しました。	YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
エラー 11 リアプレゼンススピーカーの片側を検出できません。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。

警告メッセージ

測定後に警告メッセージが表示されていても、画面表示にしたがって測定結果を保存できます。

ただし、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから YPAO を再度実行することをおすすめします。



警告メッセージ	対策
警告 1 スピーカーの極性（＋と－）が逆に接続されている可能性がある。	<p>カーソルキーで「測定結果」を選んで ENTER キーを押し、次に「結線確認」を選びます。「逆相」と表示されているスピーカーについて、ケーブル接続（＋と－）を確認してください。</p> <p>間違って接続されている場合： YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーケーブルを接続し直してください。</p> <p>正しく接続されている場合： スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていてもこのメッセージが表示されることがあります。設定を保存し、そのままお使いください。 （お客様への確認を促すメッセージであり、そのままお使いいただいても本機の再生に影響はありません。）</p>
警告 2 スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	<p>カーソルキーで「測定結果」を選んで ENTER キーを押し、次に「距離補正」を選びます。「>24.00m (>80.0ft)」と表示されているスピーカーがどれか確認してください。YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。</p>
警告 3 スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	<p>カーソルキーで「測定結果」を選んで ENTER キーを押し、次に「音量調整」を選びます。「>+10.0dB」または「<-10.0dB」と表示されているスピーカーについて、各スピーカー間の使用環境やケーブル接続（＋と－）、サブウーファースの音量が適切かどうか確認してください。</p> <p>問題がある場合は、YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーの接続や配置を直してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。</p>

9 無線ネットワーク機器に接続する

無線接続を使って、本機を無線ルーター（アクセスポイント）やモバイル機器に接続します。

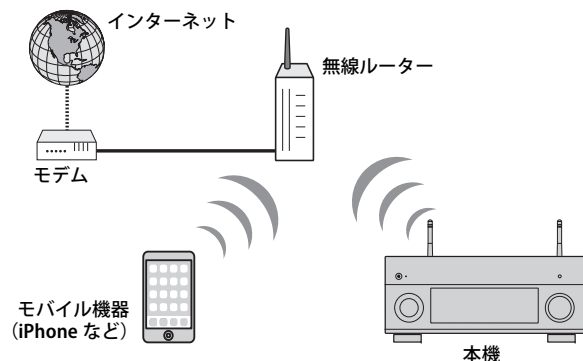
接続方法を選ぶ

お使いのネットワーク環境に合わせて、接続方法を選びます。

■ 無線ルーター（アクセスポイント）を使って接続する

本機を無線ルーター（アクセスポイント）に接続します。

これによりインターネットラジオや AirPlay、パソコン、ネットワーク接続ストレージ（NAS）などのメディアサーバーに保存されている音楽ファイルを本機で再生できます。



接続方法については「無線ネットワークに接続する」（61 ページ）をご覧ください。

無線ネットワークに接続する

本機と無線ネットワークの接続には、いくつかの方法があります。

お使いのネットワーク環境に合わせて、接続方法を選んでください。

- MusicCast CONTROLLER を使って設定する（67 ページ）
- iOS デバイスの設定を共有する（61 ページ）
- WPS ボタンを使って設定する（63 ページ）
- その他の方法で設定する（64 ページ）

■ iOS デバイスの設定を共有する

お使いの iOS デバイス（iPhone/iPad/iPod touch）のネットワーク設定を本機に適用して、簡単に無線接続の設定をすることができます。

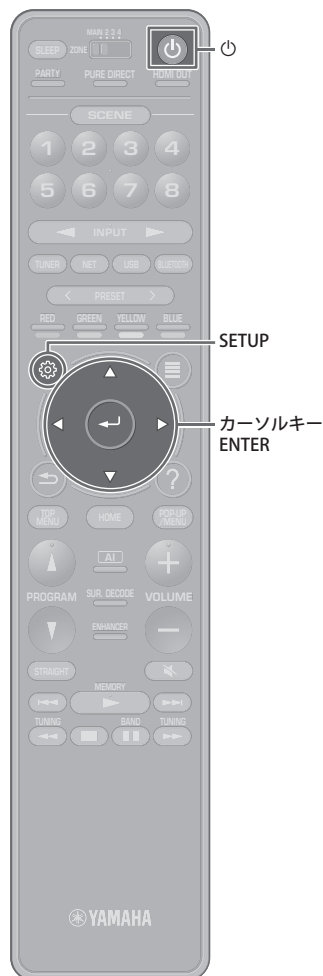
以下の手順を実行する前に、お使いの iOS デバイスが無線ルーター（アクセスポイント）に接続されていることをご確認ください。



- この方法で無線接続の設定を開始すると、以下の設定内容が初期化されます。
 - ネットワーク設定
 - Bluetooth 設定
 - ショートカットに登録した USB 機器およびネットワークのコンテンツ
 - 「お気に入り」フォルダーに登録したインターネットラジオ局
 - 各種ネットワークサービスのアカウント情報



- iOS7 以降を搭載した iOS デバイスが必要です。（ここでは例として iOS9 の操作方法を説明します。）
- セキュリティー方式に WEP を使用している無線ルーター（アクセスポイント）には接続できません。この場合は、別の接続方法をお試しください。



- 1 ㊦（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。



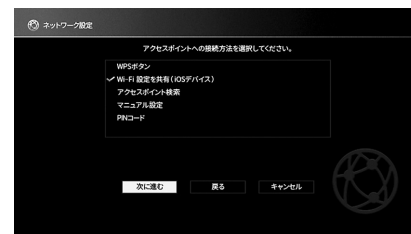
• テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

- 3 SETUP キーを押す。
- 4 カーソルキーで「ネットワーク設定」を選び、ENTER キーを押す。
- 5 カーソルキーで「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。
- 6 カーソルキーと ENTER キーで「無線 (Wi-Fi)」をチェックし、「OK」を選ぶ。



• チェックマークは現在の設定を表示しています。

- 7 カーソルキーと ENTER キーで「Wi-Fi 設定を共有 (iOS デバイス)」をチェックし、「次に進む」を選ぶ。



- 8 画面の表示内容を確認し、カーソルキーと ENTER キーで「次に進む」を選ぶ。



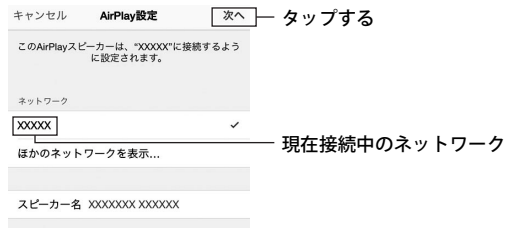
- 9 iOS デバイスの Wi-Fi 画面で、AirPlay スピーカーとして本機を選ぶ。



本機の名称



10 現在接続中のネットワークを確認し、「次へ」をタップする。



ネットワーク設定の共有が完了すると、本機が自動的に選択したネットワーク（アクセスポイント）に接続されます。

■ WPS ボタンを使って設定する

本機と無線ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押すだけで、簡単に無線接続の設定をすることができます。

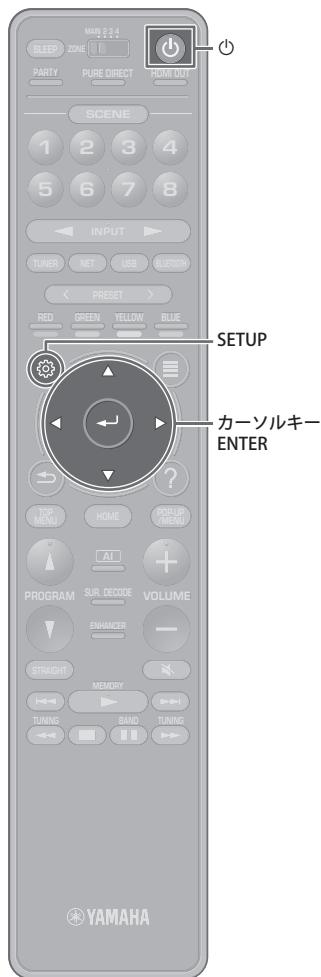


- セキュリティ方式に WEP を使用している無線ルーター（アクセスポイント）には接続できません。この場合は、別の接続方法をお試しください。

- 1** ①（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。
- 2** 本体前面の INFO（WPS）キーを 3 秒以上押し続ける。
前面ディスプレイに「Press WPS button on Access Point」と表示されます。
- 3** 無線ルーター（アクセスポイント）の WPS ボタンを押す。
接続が完了すると、前面ディスプレイに「Completed」と表示されます。
「Not connected」と表示された場合は、手順 1 からやり直するか、別の接続方法をお試しください。

WPS とは

WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。WPS により、無線ネットワークを簡単に設定できます。



■ その他の方法で設定する

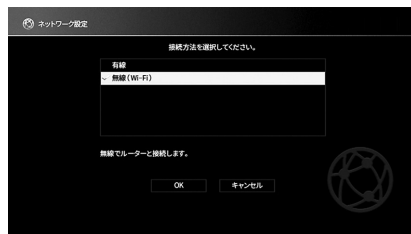
お使いの無線ルーター（アクセスポイント）に WPS ボタンがない場合は、以下の手順で無線接続の設定を行います。

- 1 電源（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。
- 2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。



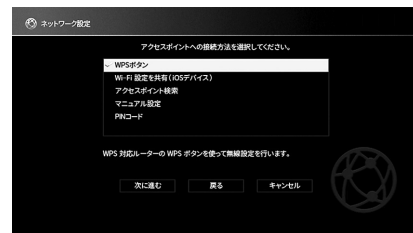
- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

- 3 SETUP キーを押す。
- 4 カーソルキーで「ネットワーク設定」を選び、ENTER キーを押す。
- 5 カーソルキーで「ネットワーク接続」を選び、ENTER キーを押す。
- 6 カーソルキーと ENTER キーで「無線 (Wi-Fi)」をチェックし、「OK」を選ぶ。



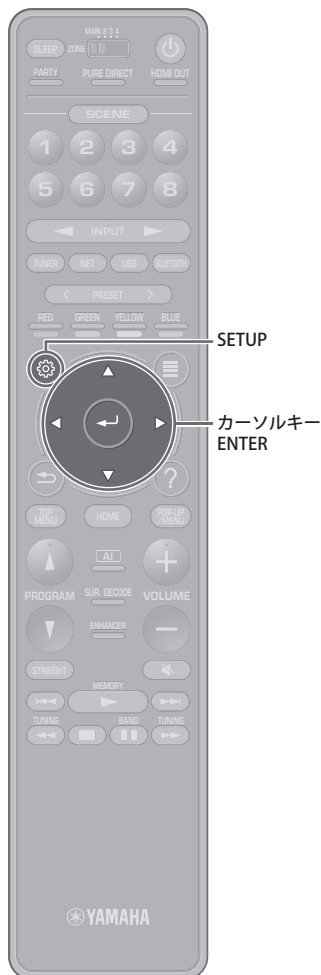
- チェックマークは現在の設定を表示しています。

- 7 カーソルキーと ENTER キーで接続方法を選び、「次に進む」を選ぶ。



以下の接続方法から選びます。

WPS ボタン	テレビ画面の表示にしたがって WPS ボタンを押すだけで、無線接続の設定ができます。
Wi-Fi 設定を共有 (iOS デバイス)	「iOS デバイスの設定を共有する」(61 ページ) をご覧ください。
アクセスポイント検索	検索したアクセスポイント一覧から、接続先を選びます。詳しくは「アクセスポイントを検索する」(65 ページ) をご覧ください。
マニュアル設定	必要な情報 (SSID など) を手動で入力して、無線接続を設定します。詳しくは「手動で無線接続を設定する」(65 ページ) をご覧ください。
PIN コード	無線ルーター（アクセスポイント）に PIN コードを入力して、無線接続を設定します。無線ルーター（アクセスポイント）が PIN コード式の WPS に対応している場合に利用できます。詳しくは「PIN コードを使って設定する」(66 ページ) をご覧ください。



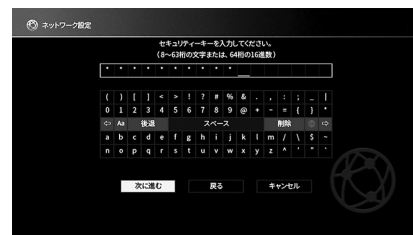
□ アクセスポイントを検索する

接続方法に「アクセスポイント検索」を選ぶと、アクセスポイントの検索が始まります。しばらくすると、テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

1 カーソルキーと ENTER キーで接続先のアクセスポイントを選び、「次に進む」を選ぶ。

テレビに無線接続の設定画面が表示されます。

2 カーソルキーと ENTER キーでセキュリティキーを入力し、「次に進む」を選ぶ。



3 カーソルキーで「接続」を選び、ENTER キーを押して接続を開始する。

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直すか、別の接続方法をお試しください。

4 終了するには、SETUP キーを押す。

□ 手動で無線接続を設定する

接続方法に「マニュアル設定」を選ぶと、テレビに無線接続の設定画面が表示されます。

SSID (ネットワーク名)、セキュリティ方式、セキュリティキーを手動で入力して、無線接続の設定を行います。

1 カーソルキーと ENTER キーでアクセスポイントの SSID を入力し、「次に進む」を選ぶ。

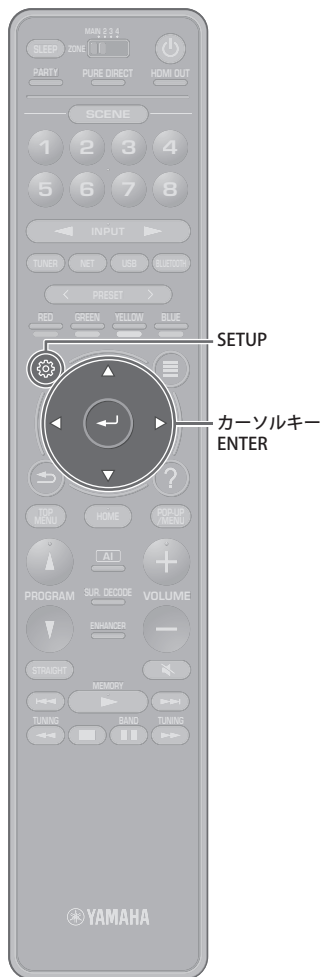


2 カーソルキーと ENTER キーでアクセスポイントのセキュリティ方式をチェックし、「次に進む」を選ぶ。



設定値

使用しない、WEP、WPA2-PSK (AES)、Mixed Mode



3 カーソルキーと ENTER キーでアクセスポイントのセキュリティキーを入力し、「次に進む」を選ぶ。

手順 2 で「使用しない」を選んだ場合は、この画面は表示されません。手順 4 に進んでください。

「WEP」を選んだ場合は、5 桁か 13 桁の文字、または 10 桁か 26 桁の 16 進数を入力します。

それ以外は、8 ～ 63 桁の文字、または 64 桁の 16 進数を入力します。



4 カーソルキーで「接続」を選び、ENTER キーを押して接続を開始する。

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直るか、別の接続方法をお試しください。

5 終了するには、SETUP キーを押す。

□ PIN コードを使って設定する

接続方法に「PIN コード」を選ぶと、テレビ画面に利用可能なアクセスポイントの一覧が表示されます。

1 カーソルキーと ENTER キーで接続先のアクセスポイントを選び、「次に進む」を選ぶ。

テレビ画面に本機の PIN コードが表示されます。

2 無線ルーター（アクセスポイント）に本機の PIN コードを入力する。

詳しくは、無線ルーター（アクセスポイント）の取扱説明書をご覧ください。

3 カーソルキーで「接続」を選び、ENTER キーを押して接続を開始する。

接続が完了すると、テレビ画面に「完了しました」と表示されます。

「接続できませんでした」と表示された場合は、手順 1 からやり直るか、別の接続方法をお試しください。

4 終了するには、SETUP キーを押す。



10 MusicCast ネットワークに接続する

MusicCast はご家庭の複数の部屋に設置したオーディオ機器で音楽を簡単に共有するための機能です。専用のモバイル機器アプリ「MusicCast CONTROLLER」で MusicCast 対応機器を操作し、インターネットラジオやパソコンや NAS などのサーバー、スマートフォンなどに保存された音楽を MusicCast 対応機器で同時に再生できます。MusicCast 対応機器については、弊社ウェブサイトをご覧ください。

- モバイル機器にインストールした専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」から、すべての MusicCast 対応機器を簡単操作
- MusicCast 対応機器で再生している音声を、別の部屋の MusicCast 対応機器で再生
- ネットワークサービス（インターネットラジオなど）の再生に対応

MusicCast CONTROLLER



MusicCast 対応機器でネットワーク機能を使うには、モバイル機器用アプリ「MusicCast CONTROLLER」が必要です。App Store（iOS 搭載機器の場合）または Google Play（Android 搭載機器の場合）で専用アプリ「MusicCast CONTROLLER」（無料）を検索し、インストールしてください。

■ 本機を MusicCast ネットワークに登録する

本機を MusicCast ネットワークに登録します。同時に本機と無線ネットワークの接続設定もできます。



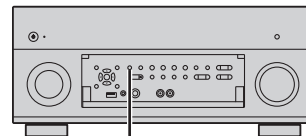
- 使用する無線ネットワークの SSID（ネットワーク名）とセキュリティキーが必要になります。
- 複数の SSID を持つルーターを使用する場合は、「1 番」（Primary SSID、1st SSID など）の SSID を持つネットワークに接続してください。

- 1 ①（レシーバー電源）キーで本機の電源を入れる。
- 2 モバイル機器で「MusicCast CONTROLLER」を起動し、「設定する」をタップする。



- すでに別の MusicCast 機器に登録している場合は、「設定する」をタップしてから「新しい機器を登録する」をタップします。

- 3 「MusicCast CONTROLLER」の画面表示にしたがって、本体前面の CONNECT キーを 5 秒以上押し続ける。



CONNECT キー

- 4 「MusicCast CONTROLLER」の画面表示にしたがって、MusicCast ネットワークへの接続設定をする。
- 5 「MusicCast CONTROLLER」を操作し、再生を始める。



- AirPlay の音声および DSD 音声は共有できません。
- ビューダイレクト使用時は、ネットワークサービス（インターネットラジオなど）および USB 機器の音声のみ共有できます。
- 本機を MusicCast ネットワークに登録すると、有線接続を使用している場合でも、前面ディスプレイの信号強度表示が点灯します。
- 設定メニューの「MusicCast Link 電源連動」（134 ページ）で、本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定できます。



再生する

再生の基本操作

- 1 本機に接続した外部機器（テレビ、BD/DVD プレーヤーなど）の電源を入れる。
- 2 入力選択キーで入力を選ぶ。
- 3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。
各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
以下の機能については、本書の該当ページをご覧ください。
 - ・ FM/AM ラジオを聴く（76 ページ）
 - ・ Bluetooth で音楽を聴く（79 ページ）
 - ・ USB 機器の曲を再生する（80 ページ）
 - ・ メディアサーバー（パソコン /NAS）の曲を再生する（83 ページ）
 - ・ インターネットラジオを聴く（86 ページ）
 - ・ radiko.jp でラジオを聴く（89 ページ）
 - ・ Spotify サービスの曲を聴く（90 ページ）
 - ・ Deezer サービスの曲を聴く（91 ページ）
 - ・ AirPlay で iTunes/iPod の曲を聴く（92 ページ）
- 4 VOLUME キーで音量を調節する。



- ・ MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- ・ オプションメニューで高音域と低音域のバランスを調整できます（105 ページ）。

HDMI 出力端子を切り替える

- 1 HDMI OUT キーで HDMI OUT 端子を選ぶ。

キーを押すたびに、信号を出力する HDMI OUT 端子が切り替わります。



OUT 1+2	HDMI OUT 1 ～ 2 端子の両方から同じ信号を出力する。
OUT 1	選択した HDMI OUT 端子からのみ信号を出力する。
OUT 2	
Off	HDMI OUT 端子から信号を出力しない。



- ・ シーン機能 (69 ページ) でも、HDMI出力端子を切り替えることができます。
- ・ 「OUT 1+2」を選んだ場合、出力先の 2 台のテレビ（またはプロジェクター）の両方が対応しているもっとも高い解像度で信号が出力されます。（例：HDMI OUT1 端子に 1080p 対応のテレビ、HDMI OUT2 端子に 720p 対応のテレビを接続している場合、720p 信号が出力されます。）
- ・ リモコンの MAIN/ZONE スイッチを「ZONE2」または「ZONE4」（HDMI ZONE OUT 割り当てで選択したゾーン）に切り替えて HDMI OUT キーを押すと、HDMI OUT3 端子の出力を有効（OUT 3）または無効（OFF）にすることができます。



入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容（音場プログラム、HDMI 出力端子など）をワンタッチで選ぶことができます。シーンは最大 8 個まで登録できます。各シーンにお好みの設定を登録することで、再生する音声に応じて簡単にシーンを切り替えることができます。

- 1 1～8 の番号キーを押すと、選択したシーンに登録されている入力ソースと設定を呼び出すことができます。本機がスタンバイの時は、電源も入ります。また、番号キーの代わりに、SCENE キーを繰り返し押し続けてシーンを呼び出すこともできます。

シーンを選択すると、本体前面ディスプレイとテレビ画面にシーン名が表示されます。

- 2 呼び出したいシーン名を選び、ENTER キーを押す。



- 選択せずにキャンセルする場合は、RETURN キーを押します。
- 30 秒間操作をしないと自動的にキャンセルになります。

初期値では、シーンごとに以下の入力設定が登録されています。

メインゾーン / ゾーン 2 / ゾーン 3

シーン (SCENE キー)	1	2	3	4
入力設定	AV1	TUNER	AUDIO2	NET RADIO

シーン (SCENE キー)	5	6	7	8
入力設定	AV2	AV3	AUDIO1	SERVER

ゾーン 4

シーン (SCENE キー)	1	2	3	4
入力設定	AV1	AV2	AV3	AV4

シーン (SCENE キー)	5	6	7	8
入力設定	AV5	AV6	AV7	AV1



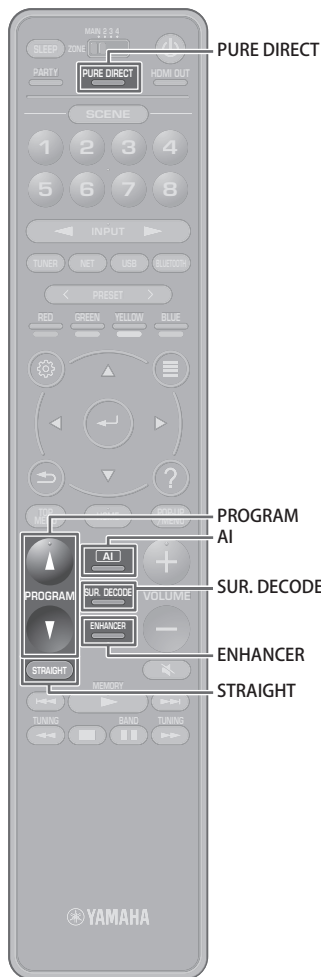
- 設定メニューの「シーン設定」（127 ページ）で各シーンの詳細設定を確認できます。
- 本体の前面パネルにある SCENE キーで SCENE 1-4 を登録して呼び出すこともできます。

シーンに好みの設定を登録する

- 1 本機をシーンに登録したい状態（入力、音場プログラムなど）にする。
- 2 前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先の SCENE の番号キー（1-8）を押し続ける。



- 設定メニューの「シーン設定」（127 ページ）で詳細なシーン機能の設定ができます。
- 前面ディスプレイまたはテレビに表示されるシーン名を変更できます。詳しくは、「シーン名変更」（128 ページ）をご覧ください。



好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、好みのサウンドを選んでください。

□ SURROUND:AI を有効にする

- AI キーを押す。

AI によって分析された最適なサラウンド効果と圧倒的な臨場感をお楽しみいただけます。

□ 映像コンテンツや音楽に適した音場プログラムを選ぶ

- PROGRAM キーを繰り返し押す。

映画やゲームなどの映像コンテンツに適した音場プログラムを楽しむほか、音楽鑑賞に適した音場プログラムやステレオ再生をお楽しみいただけます。

□ サラウンドデコーダーを選ぶ

- SUR. DECODE キーを繰り返し押す。

音場効果をかけずに、2 チャンネルソースをマルチチャンネル再生でお楽しみいただけます（74 ページ）。

□ ステレオデコードに切り替える

- STRAIGHT キーを押す。

音場効果をかけずに、オリジナルチャンネルの音声をお楽しみいただけます（74 ページ）。

□ ピュアダイレクトに切り替える

- PURE DIRECT キーを押す。

ほかの回路からのノイズを低減することで、原音により忠実な音声をお楽しみいただけます（75 ページ）。

□ ミュージックエンハンサーを有効にする

- ENHANCER キーを押す。

圧縮音源に音の深みと広がりに加え、ダイナミックな再生音をお楽しみいただけます（75 ページ）。



- 設定メニューの「音声設定」（121 ページ）で、音場プログラムやサラウンドデコーダーの設定を変更できます。
- 音場プログラムやサラウンドデコーダーは入力ごとに記憶されます。
- 本体前面のスピーカー表示（15 ページ）または音声設定の「情報」（121 ページ）で、音声出力中のスピーカー端子を確認できます。

Dolby Atmos® について

- 以下の場合、Dolby Atmos コンテンツであっても Dolby True HD または Dolby Digital Plus フォーマットで再生されます（Dolby Atmos PCM フォーマットは常に Dolby Atmos で再生されます）。
 - サラウンドバックとプレゼンスピーカーのいずれも使用していない。
 - ヘッドホンを接続している（2 チャンネル再生になります）。
- Dolby Atmos デコーダーがはたらいっているときは、バーチャルシネマフロント（73 ページ）などのバーチャル処理は動作しません。

DTS:X™ について

- DTS:X コンテンツの再生時、オプションメニューの「DTS ダイアログコントロール」（106 ページ）で中央に定位する音（セリフなど）の音量を調節できます。
- DTS:X デコーダーがはたらいっているときは、バーチャルシネマフロント（73 ページ）などのバーチャル処理は動作しません。



場面に最適なサウンド効果で再生する (SURROUND:AI)

SURROUND:AI は、DSP 内部の AI がコンテンツの場面に応じて最適なサウンド効果を創り出す機能です。「セリフ」、「BGM」、「環境音」、「効果音」などの音の要素からシーンを瞬時に分析してリアルタイムに最適化し、圧倒的な臨場感を創り出します。

1 AI キーを押す。

キーを押すたびに、SURROUND:AI が有効／無効になります。



- ビューダイレクトが有効なときは、SURROUND:AI は機能しません。
- SURROUND:AI が有効なときは、ストレートデコード、シネマ DSP HD³ およびサラウンドデコーダーは機能しません。

立体的な音場を楽しむ (シネマ DSP HD³)



本機には、ヤマハ独自の音場技術 (シネマ DSP HD³) を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現し、自然で立体的な視聴空間をお楽しみいただけます。

音場プログラムの種類



音場プログラム

「CINEMA DSP HD³」が点灯



- フロントプレゼンススピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使って前方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し (VPS)、立体的な視聴空間を実現します。ただし、音場効果を十分に得るにはフロントプレゼンススピーカーの使用をおすすめします (リアプレゼンススピーカーも使用するとより効果的です)。
- リアプレゼンススピーカーが接続されていない場合でも、フロントプレゼンススピーカーが接続されていれば、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使って後方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出し (VPS)、ごく自然で立体的な視聴空間を実現します。
- サラウンドバックスピーカーが接続されていない状態で、6.1ch 以上の音声信号が入力されたときは、本機はサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出し (VSBS)、後方に奥行き感ある視聴空間を実現します。
- VPS または VSBS が機能しているときは、前面ディスプレイの「VIRTUAL」が点灯します。

■ 映像コンテンツに適した音場プログラム (MOVIE)

映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムが含まれています。

□ ムービーシアター

Standard (スタンダード)	マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle (スペクタクル)	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微小な効果音から迫力の高音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi (サイファイ)	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。
Adventure (アドベンチャー)	アクション&アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama (ドラマ)	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きの特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いても疲れません。
Mono Movie (モノムービー)	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気を楽しめます。広がりや適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。
Enhanced (エンハンスド)	3D オブジェクトオーディオの音源移動や空間表現を楽しむのに適した音場です。マルチトップスピーカーを用いた大画面の映画館をイメージしており、各オブジェクトに追従する自然な効果により、映画の製作者が意図するダイナミックな移動感や空間表現を再現します。

□ エンターテインメント

Sports (スポーツ)	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。
Action Game (アクションゲーム)	カーレースや格闘ゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game (ロールプレイングゲーム)	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。

Music Video (ミュージックビデオ)	ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。
Recital/Opera (リサイタル/オペラ)	響きの量を適度に抑えてあり、声の奥行き感、明瞭度に優れています。オペラではステージでの定位や臨場感とともに、オーケストラボックスの響きが眼前にくり広げられます。サラウンド音場は控えめながら、コンサートホールのデータを使用することで音楽の楽しさを演出し、長時間のオペラでも疲れません。

■ 音楽に適した音場プログラム / ステレオ再生 (MUSIC)

音楽鑑賞に適した音場プログラムが含まれています。ステレオ再生も選べます。

□ クラシカル

Hall in Munich (ミュンヘン)	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna (ウィーン)	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きの特長です。
Hall in Amsterdam (アムステルダム)	アムステルダムの広幅化したシューボックス型の大ホールで、サークルステージ、ステージバック席があり、客席は 2200 程です。
Church in Freiburg (フライブルグ)	ドイツ南部の 120m 近い尖塔を持つ大きな教会です。石を積み上げて造られており、天井が高く、細長い空間を持っています。残響時間は非常に長くなりますが、逆に初期反射は少なくなります。そのため、直接音の厚みはあまりありませんが、響きが多く、教会特有の音場を再現します。
Church in Royaumont (ロワイヨモン)	パリ郊外のロワイヨモンに位置する、中世の修道院の大食堂です。美しいゴシック調の建物より作り出される音場を特徴としています。
Chamber (チェンバー)	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。

□ ライブ / クラブ

Village Vanguard (ビレッジバンガード)	ニューヨークの7番街にあるジャズクラブです。天井が低く、狭い室内の角にあるステージ付近に強い反射音が集中しています。
Warehouse Loft (ロフト)	ソーホーのロフトを思わせるコンクリートの空間です。壁面からの反射音は比較的明瞭で、エネルギッシュな音場です。
Cellar Club (セラークラブ)	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre (ロキシーシアター)	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で460席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line (ボトムライン)	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは300席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。

□ ステレオ

2ch Stereo (2ch ステレオ)	ステレオ前方からのステレオ音声を楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます（シネマ DSP は使用しません）。
9ch Stereo (9ch ステレオ)	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大9つのスピーカーから音出力され、ホームパーティーのBGMに最適です。



- ・「9ch Stereo」または「2ch Stereo」選択時は、シネマ DSP HD³（71 ページ）およびバーチャルシネマ DSP（73 ページ）は機能しません。

■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ (バーチャルシネマ DSP)

本機には、ヤマハ独自のバーチャルサラウンド技術が搭載されています。これにより、いずれかの音場プログラム（2ch Stereo、9ch Stereo 以外）を選ぶと、サラウンドスピーカーが接続されていない状態でも、前方のスピーカーだけで定位感に優れた最大7チャンネルのサラウンド感を創り出し、音場効果を楽しむことができます。さらにプレゼンスピーカーを使用することで、より立体的な音場効果を得ることができます。



- ・バーチャルシネマ DSP が機能しているときは、前面ディスプレイの「VIRTUAL」が点灯します。

■ 前方に設置した5本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ (バーチャルシネマフロント)

部屋の後方に設置スペースがない場合など、サラウンドスピーカーを前方に設置して（24 ページ）、マルチチャンネル再生を楽しめます。設定メニューの「配置（サラウンド）」（118 ページ）で「前方」を選ぶと、本機は前方に設置した5本のスピーカーを使って、部屋の後方にバーチャルサラウンドスピーカーを創り出します。これにより自然なマルチチャンネルサラウンドをお楽しみいただけます。



- ・バーチャルシネマフロントが機能しているときは、前面ディスプレイの「VIRTUAL」が点灯します。

■ ヘッドホンでサラウンドを楽しむ（サイレントシネマ）

SILENTTM
CINEMA

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べば、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しむことができます。



音場効果をかけずに再生する

■ オリジナルチャンネルでの再生を楽しむ (ストレートデコード)

ストレートデコードを使うと、入力ソースに含まれている各チャンネルの音声が該当スピーカーからそのまま出力されます。CD などの 2 チャンネルソースの場合は、フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

1 STRAIGHT キーを押す。

キーを押すたびに、ストレートデコードが有効 / 無効になります。



- 設定メニューの「配置 (サウンド)」(118 ページ) を「前方」に設定時は、マルチチャンネルソースを再生するとバーチャルシネマフロント (73 ページ) が機能します。

■ 拡張マルチチャンネルでの再生を楽しむ (サラウンドデコーダー)

サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに 2 チャンネルソースやマルチチャンネルソースをマルチチャンネルで再生します。



- 音が出るスピーカーは、使用しているスピーカーシステムやデコーダー (122 ページ) により異なります。
- 各デコーダーについて詳しくは、「用語 / 技術解説」(159 ページ) をご覧ください。

1 SUR.DECODE キーでサラウンドデコーダーを選ぶ。

キーを押すたびにデコーダーが切り替わります。



自動 (Auto)	入力ソースに合わせて自動的にサラウンドデコーダーが選択されます。入力ソースが DTS 信号の場合は DTS Neural:X デコーダー、それ以外の信号では Dolby Surround デコーダーが選択されます。
Dsur	Dolby Surround デコーダーです。設置されているスピーカー配置に最適な拡張を行います。特に、オブジェクトベースの音声信号 (Dolby Atmos コンテンツなど) を再生すると、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を体感できます。
Neural:X	DTS Neural:X デコーダーです。設置されているスピーカー配置に最適な拡張を行います。特に、オブジェクトベースの音声信号 (DTS:X コンテンツなど) を再生すると、頭上を含めてあらゆる方向からリアルな音を体感できます。
Neo:6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダー (または DTS-ES マトリクスデコーダー) です。サラウンド / サラウンドバックスピーカーから音声が出力されます。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダー (または DTS-ES マトリクスデコーダー) です。サラウンド / サラウンドバックスピーカーから音声が出力されます。



- Dolby Surround デコーダーまたは Neural:X デコーダー選択時は、バーチャルシネマフロント (73 ページ) などのバーチャル処理は動作しません。
- Dolby Digital Plus および Dolby TrueHD 信号に対して「Neural:X」を動作させることはできません。この場合には、「自動」または「 Dsur」を選択してください。



原音に忠実な音質で再生する (ピュアダイレクト)

ピュアダイレクトを使うと、最低限再生に必要な機能を除き、各種の回路（前面ディスプレイなど）が停止されます。これによりノイズの混入を防ぎ、原音により忠実な音質で再生できます。

1 PURE DIRECT キーを押す。

キーを押すたびに、ピュアダイレクトが有効 / 無効になります。



・ピュアダイレクト使用時は、以下の機能は使用できません。

- オプションメニュー、設定メニューの操作
- マルチゾーン機能
- 前面ディスプレイの表示（操作がない場合）

圧縮音源をダイナミック再生する (ミュージックエンハンサー)

compressed music ENHANCER

ミュージックエンハンサーを使うと、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

オプションメニューの「ハイレゾモード」（107 ページ）を「オン」（初期値）に設定時は、ミュージックエンハンサーを使って非圧縮デジタル音声（2 チャンネル PCM など）や可逆圧縮デジタル音声（FLAC など）の音質をさらに高めることができます。

1 ENHANCER キーを押す。

キーを押すたびに、ミュージックエンハンサーが有効 / 無効になります。



「ENHANCER」が点灯



- ・以下の音声再生しているときは、ミュージックエンハンサーは機能しません。
 - サンプリング周波数が 48kHz を超える音声
 - DSD 音声



- ・オプションメニューの「エンハンサー」（106 ページ）でも、ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にできません。



FM/AM ラジオを聴く

ラジオの選局するには、周波数を指定するか、登録したラジオ局を呼び出します。



- 本機は FM 補完放送（ワイド FM）に対応しています。



- ラジオの受信感が悪いときは、アンテナの向きを調節してください。

周波数を指定して選局する

- 1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。
- 2 BAND キーで FM/AM を切り替える。



- 3 TUNING キーを押して選局する。

キーを約 1 秒押し続けると、自動で選局します。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。



- オプションメニューの「FM モード」(109 ページ) で FM ラジオのステレオ / モノラルを切り替えることができます。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル受信を選ぶと改善される場合があります。
- ラジオを聴きながら、外部機器から入力された映像を見ることができます。詳しくは、「映像選択」(108 ページ) をご覧ください。

お気に入りのラジオ局を登録する (プリセット)

最大 40 局のラジオ局を登録できます。登録したラジオ局は、プリセット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

■ ラジオ局を登録する

ラジオ局を手動で選んでプリセット番号に登録します。



- 「FM オートプリセット」(109 ページ) を使うと、信号の強い FM ラジオ局を自動で登録できます。

- 1 「周波数を指定して選局する」(76 ページ) の手順で、登録したいラジオ局を受信する。
- 2 MEMORY キーを 2 秒以上押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号に登録されます。

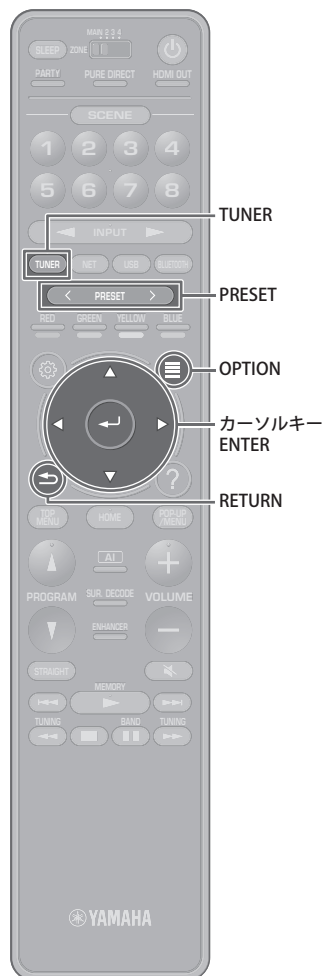
登録先のプリセット番号



- 登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーでプリセット番号を選び、もう一度 MEMORY キーを押します。

「Empty」(空き) または現在登録されている周波数





■ ラジオ局を自動で登録する (FM オートプリセット)

信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。

- 1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。
- 2 OPTION キーを押す。
- 3 カースルキーで「プリセット」を選び、ENTER キーを押す。
「FM オートプリセット」に登録するプリセット番号が表示されます。
- 4 カースルキーで「FM オートプリセット」を選び、ENTER キーを押す。



- 登録を開始するプリセット番号を指定する場合は、カースルキーまたは PRESET キーでプリセット番号を選択します。



- オートプリセットをキャンセルするには、RETURN を押します。

- 5 オートプリセットが完了すると、プリセット画面に「終了」と表示し、オプションメニューを自動的に閉じます。

■ 登録したラジオ局を呼び出す

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選びます。

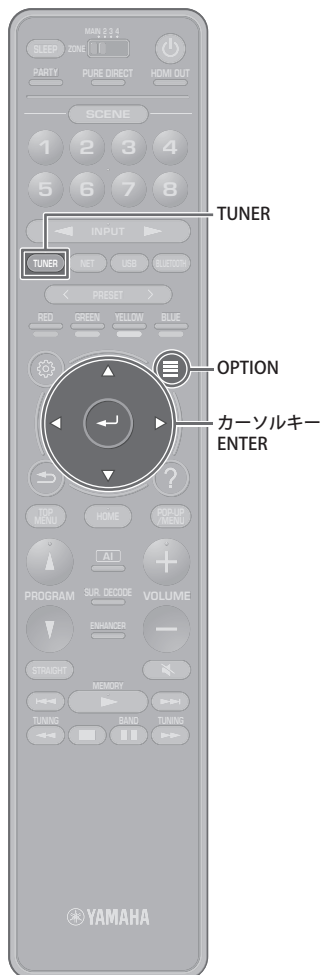
- 1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。
- 2 PRESET キーでプリセット局を選ぶ。



- ラジオ局が 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。



- 登録内容を消去するには、「プリセット消去」または「全プリセット消去」（109 ページ）を実行してください。



■ 登録したラジオ局を消去する (プリセット消去)

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）を消去します。

- 1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。
現在選択されている周波数が前面ディスプレイに表示されます。
- 2 OPTION キーを押す。
- 3 カーソルキーで「プリセット」を選び、ENTER キーを押す。
- 4 カーソルキーで「プリセット消去」を選ぶ。
- 5 カーソルキーで消去するプリセット局を選び、ENTER キーを押す。
プリセット局が消去されると「消去しました」と表示され、次の使用中のプリセット番号を表示します。
- 6 終了するには、OPTION キーを押す。

■ 登録したラジオ局をすべて消去する (全プリセット消去)

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）をすべて消去します。

- 1 TUNER キーで入力を「TUNER」に切り替える。
現在選択されている周波数が前面ディスプレイに表示されます。
- 2 OPTION キーを押す。
- 3 カーソルキーで「プリセット」を選び、ENTER キーを押す。
- 4 カーソルキーで「全プリセット消去」を選ぶ。
- 5 カーソルキーで「実行」を選び、ENTER キーを押す。

全プリセット局が消去されると「全プリセット消去」と表示され、オプションメニューを自動的に閉じます。



Bluetooth で音楽を聴く

Bluetooth 機器（スマートフォンなど）に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。



- Bluetooth 機能を使用するには、設定メニューの「Bluetooth」（135 ページ）を「オン」（初期値）に設定してください。
- Bluetooth 接続を使用するときは、本機の無線アンテナをまっすぐ上に立ててください（47 ページ）。



- 対応している Bluetooth 機器については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」（162 ページ）をご覧ください。

Bluetooth 機器の曲を本機で再生する

本機と Bluetooth 機器（スマートフォンなど）を接続して、Bluetooth 機器の曲を本機で再生します。



- Bluetooth 機器の映像を本機で再生することはできません。

- 1 BLUETOOTH キーで入力を「Bluetooth」に切り替える。
- 2 Bluetooth 機器で接続操作を行い、使用可能なデバイス
のリストから本機（ネットワーク名）を選ぶ。
本機と Bluetooth 機器が接続されます。
パスキーを要求された場合は、数字の「0000」を入力してください。
- 3 Bluetooth 機器で曲を選び、再生を始める。

テレビに再生画面（アーティスト名、アルバム名、曲名）が表示されます。



- 本機が前回接続した Bluetooth 機器を検出すると、手順 1 実行後にその Bluetooth 機器と自動的に接続されます。別の Bluetooth 機器と接続する場合は、現在の Bluetooth 接続を切断してください。
- Bluetooth 接続を切断するには、以下のいずれかの操作を行ってください。
 - Bluetooth 機器で切断操作をする。
 - 本機で「Bluetooth」以外の入力を選ぶ。
 - 設定メニューの「Bluetooth 設定」で「音声受信」を選び、「デバイス切断」を実行する。
- リモコンの外部機器操作キー（▶、■、■、◀、▶）で再生操作ができます（Bluetooth 機器によっては一部の機能を操作できない場合があります）。



USB 機器の曲を再生する

USB 機器に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。

本機は、FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器に対応しています。

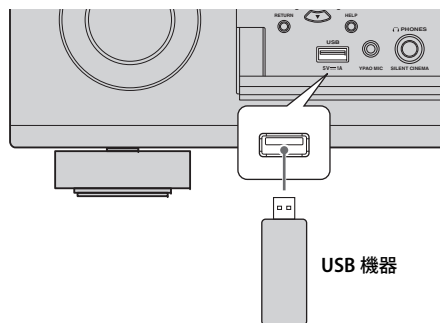


- 対応しているファイル形式については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」(162 ページ) をご覧ください。

USB 機器を接続する

1 USB 機器を USB 端子に接続する。

本機 (前面)



- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかることがあります。この場合、前面ディスプレイに「Loading...」と表示されます。



- USB 機器を USB 端子から取り外すときは、再生を停止してください。
- USB メモリーは直接本機の USB 端子に接続してください。延長ケーブルなどは使わないでください。
- 本機がスタンバイ時は、USB 機器の充電はできません。

USB 機器の曲を選ぶ

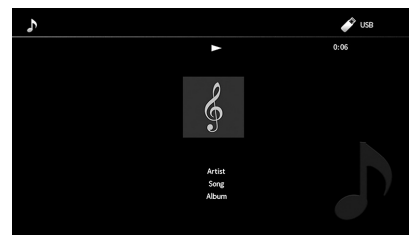
USB 機器の曲を選んで、再生を始めます。

1 USB キーで入力を「USB」に切り替える。 テレビにブラウズ画面が表示されます。



- USB 機器側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

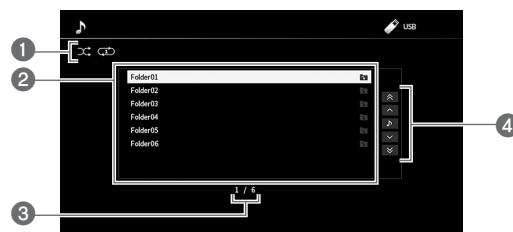
2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。 曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- メニュー操作中にブラウズ画面のトップに戻るには、RETURN キーを押し続けます。
- 本機が対応していない形式のファイルは選べません。
- 再生できないファイル (画像、隠しファイルなど) が続いた場合は、再生が停止します。
- ショートカット機能 (100 ページ) を使うと、お好みの曲を登録することができます。登録した曲は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。



■ ブラウズ画面



① ステータス表示

シャッフル再生 / リピート再生の設定 (82 ページ)、が表示されます。

② コンテンツリスト

USB 機器のコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

③ コンテンツ番号 / 総数

④ 操作メニュー

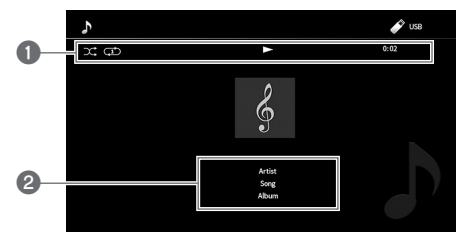
カーソルキーを押してから、カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
再生画面へ	再生画面を表示します。
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	



- オプションメニューの「映像選択」設定が「オフ」以外の場合は、左カーソルキーを押してブラウズ画面を閉じることができます。再度ブラウズ画面を表示したいときは任意のカーソルキーを押します。詳しくは「映像選択」(108 ページ)をご覧ください。

■ 再生画面



① ステータス表示

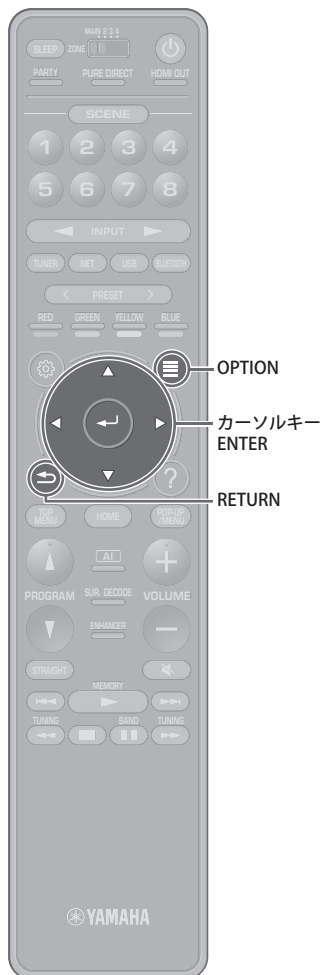
現在のシャッフル再生 / リピート再生 (82 ページ)、再生状態 (再生 / 一時停止など) および経過時間を表示します。

② 再生情報

アーティスト名、アルバム名および曲名が表示されます。



- リモコンの外部機器操作キー (▶▶, ■, ■■, ◀◀, ▶▶) で再生操作ができます。



■ シャッフル再生 / リピート再生

USB 機器のシャッフル再生およびリピート再生を設定します。




1 入力に「USB」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。

2 カーソルキーで「シャッフル / リピート」
(Shuffle/Repeat) を選び、ENTER キーを押す。



- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

3 カーソルキーで「シャッフル」(Shuffle) または「リピート」(Repeat) を選び、設定を選択する。

項目	設定値	説明
シャッフル (Shuffle)	オフ (Off)	シャッフル再生を無効にする
	オン (On)	アルバム (フォルダー) 内の曲をランダムに再生する。 テレビ画面に「  」が表示されます。
リピート (Repeat)	オフ (Off)	リピート再生を無効にする。
	1 曲 (One)	現在の曲を繰り返し再生する。 テレビ画面に「  」が表示されます。
	すべて (All)	アルバム (フォルダー) 内の曲を繰り返し再生する。 テレビ画面に「  」が表示されます。

4 終了するには、OPTION キーを押す。

メディアサーバー（パソコン / NAS）の曲を再生する

パソコンやネットワーク接続ストレージ（NAS）に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。



- この機能を使用するには、本機とパソコン / NAS が同じルーターに接続されている必要があります（47 ページ）。設定メニューの「ネットワーク設定」（132 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- 無線ネットワークの状態によっては、ハイレゾ音源などを再生すると音声途切れることがあります。その場合は、有線でネットワークに接続してください。



- 対応しているファイル形式については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」（162 ページ）をご覧ください。

メディアの共有設定を行う

パソコン / NAS に保存されている音楽ファイルを本機で再生するには、各機器で本機とのメディア共有を有効にする必要があります。

■ Windows Media Player がインストールされているパソコン

お使いのパソコンや Windows Media Player のバージョンにより、設定手順が異なる場合があります（ここでは例として Windows Media Player 12 の設定手順を説明します）。

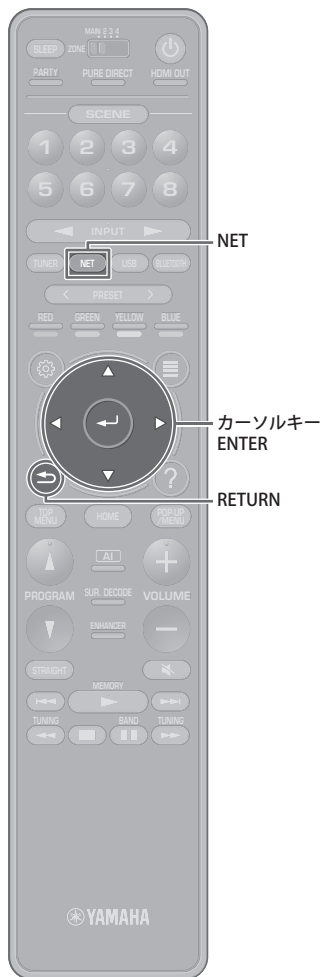
- 1 パソコンで Windows Media Player 12 を起動する。
- 2 メニューバーの「ストリーム」から、「メディアストリーミングを有効にする」を選ぶ。
- 3 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックする。
- 4 本機名（ネットワーク名）の右側にあるドロップダウン・リストで「許可」を選ぶ。
- 5 「OK」をクリックして設定を終了する。



- 共有設定について詳しくは、Windows Media Player のヘルプをご覧ください。
- 設定メニューの「ネットワーク名」（134 ページ）で、本機のネットワーク名を変更できます。

■ Windows Media Player 以外の DLNA サーバースoftwareがインストールされているパソコン / NAS

各機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照してメディアの共有設定を行ってください。



パソコン（サーバー）の曲を選ぶ

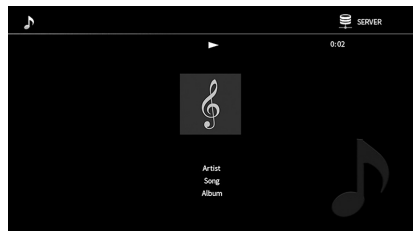
パソコンの曲を選んで、再生を始めます。

- 1 **NET** キーを繰り返し押し、入力を「SERVER」に切り替える。
テレビにブラウズ画面が表示されます。



- ・本機から操作したパソコンの再生が続いている場合は、再生画面が表示されます。

- 2 カーソルキーでサーバーを選び、**ENTER** キーで確定する。
- 3 カーソルキーでコンテンツを選び、**ENTER** キーで確定する。
曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- ・1つ前の画面に戻るには、**RETURN** キーを押します。
- ・メニュー操作中にブラウズ画面のトップに戻るには、**RETURN** キーを押し続けます。
- ・本機が対応していない形式のファイルは選べません。
- ・再生できないファイル（画像、隠しファイルなど）が続いた場合は、再生が停止します。
- ・ショートカット機能（100 ページ）を使うと、お好みの曲を登録することができます。登録した曲は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

■ ブラウズ画面

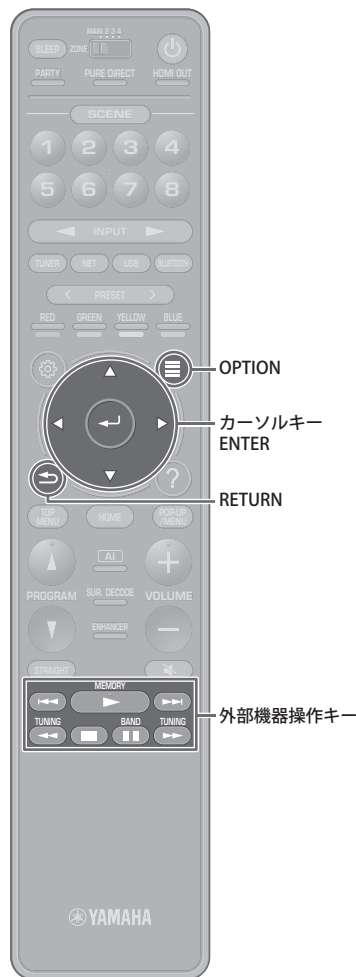


- 1 **ステータス表示**
シャッフル再生 / リピート再生の設定（85 ページ）が表示されます。
- 2 **コンテンツリスト**
パソコンのコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、**ENTER** キーで確定します。
- 3 **コンテンツ番号 / 総数**
- 4 **操作メニュー**
カーソルキーを押してから、カーソルキーで項目を選び、**ENTER** キーで実行します。

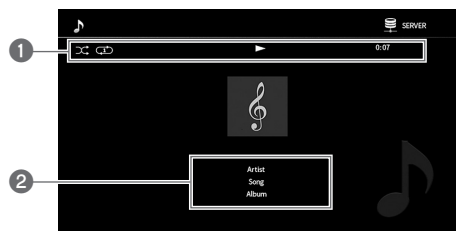
メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
再生画面へ	再生画面を表示します。
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	



- ・「オプション」の「映像選択」設定が「オフ」以外のときは、左カーソルキーを押してブラウズ画面を閉じることができます。再度ブラウズ画面を表示したいときは任意のカーソルキーを押します。詳しくは「映像選択」（108 ページ）をご覧ください。



■ 再生画面



① ステータス表示

現在のシャッフル/リピート設定 (85 ページ)、再生状態 (再生 / 一時停止など) および経過時間を表示します。

② 再生情報

アーティスト名、アルバム名および曲名が表示されます。



- リモコンの外部機器操作キー (▶, ■, ■■, ◀, ▶▶, ◀◀, ▶▶▶) で再生操作ができます。(再生ファイルフォーマットにより異なります。)

■ シャッフル再生 / リピート再生

パソコンのシャッフル再生およびリピート再生を設定します。




1 入力に「SERVER」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。

2 カーソルキーで「シャッフル / リピート」 (Shuffle/Repeat) を選び、ENTER キーを押す。

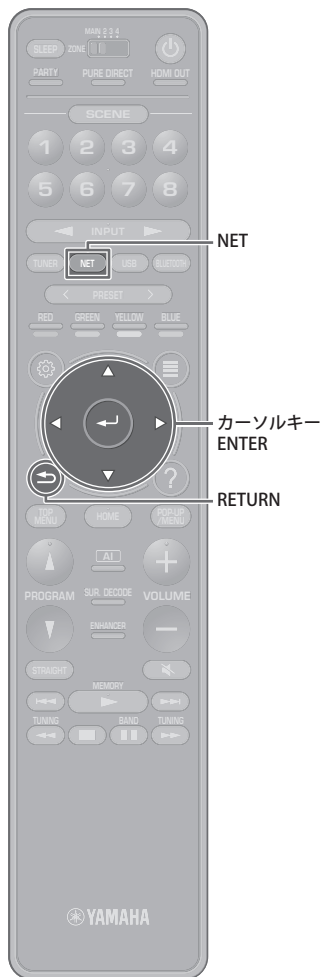


- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

3 カーソルキーで「シャッフル」 (Shuffle) または「リピート」 (Repeat) を選び、設定を選択する。

項目	設定値	説明
シャッフル (Shuffle)	オフ (Off)	シャッフル再生を無効にする
	オン (On)	アルバム (フォルダー) 内の曲をランダムに再生する。 テレビ画面に「  」が表示されます。
リピート (Repeat)	オフ (Off)	リピート再生を無効にする。
	1 曲 (One)	現在の曲を繰り返し再生する。 テレビ画面に「  」が表示されます。
	すべて (All)	アルバム (フォルダー) 内の曲を繰り返し再生する。 テレビ画面に「  」が表示されます。

4 終了するには、OPTION キーを押す。



インターネットラジオを聴く

世界中のインターネットラジオ放送から聴きたいラジオ局を選びます。



- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります (47 ページ)。設定メニューの「ネットワーク設定」(132 ページ) で、ネットワーク情報 (IP アドレス) が正しく取得されていることを確認できます。
- インターネットラジオ局や時間帯によっては、受信できないことがあります。
- この機能は、airable.Radio ラジオ局データベースサービスを利用します。
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。

インターネットラジオ局を選ぶ

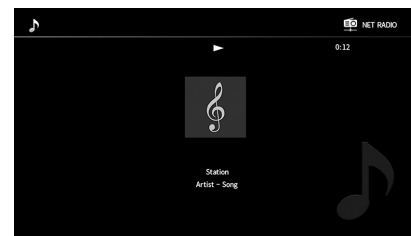
- 1 NET キーを繰り返し押して、入力を「NET RADIO」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。



- 2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。

インターネットラジオ局を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- ショートカット機能 (100 ページ) を使うと、お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。登録したラジオ局は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。



■ ブラウズ画面



① コンテンツリスト

インターネットラジオのコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

② コンテンツ番号 / 総数

③ 操作メニュー

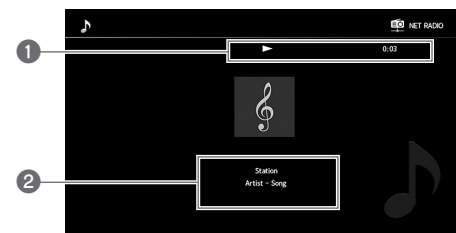
カーソルキーを押してから、カーソルキーで項目を選び、ENTER キーで実行します。

メニュー	説明
1 ページ上へ	リストのページを切り替えます。
1 ページ下へ	
再生画面へ	再生画面を表示します。
10 ページ上へ	リストを 10 ページずつ切り替えます。
10 ページ下へ	



- オプションメニューの「映像選択」設定が「オフ」以外のときは、左カーソルキーを押してブラウズ画面を閉じることができます。再度ブラウズ画面を表示したいときは任意のカーソルキーを押します。詳しくは「映像選択」(108 ページ)をご覧ください。

■ 再生画面



① 再生表示

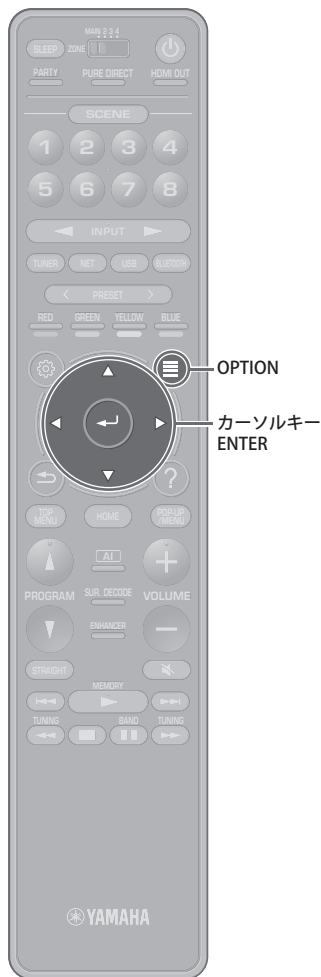
経過時間が表示されます。

② 再生情報

ラジオ局名、アルバム名および曲名が表示されます。



- リモコンの外部機器操作キー (■) で再生を停止できます。



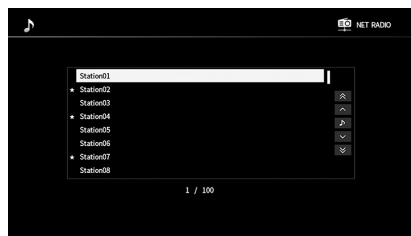
お気に入りのインターネットラジオ局を登録する（お気に入り）

「お気に入り」フォルダーにお気に入りのインターネットラジオ局を登録します。登録したラジオ局は、ブラウズ画面の「お気に入り」フォルダーから簡単に再生することができます。



- ・ショートカット機能（100 ページ）でも、お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。登録したラジオ局は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

- 1 ブラウズ画面で登録したいインターネットラジオ局を選ぶ、または再生して再生画面を表示する。
- 2 OPTION キーを押す。
- 3 カーソルキーで「お気に入りに追加」を選び、ENTER キーを押す。
選択したラジオ局が「お気に入り」フォルダーに登録されます。
「お気に入り」フォルダーに登録されているラジオ局は、「★」が表示されます。



- ・登録を削除するには、該当ラジオ局を選び、「お気に入りから削除」を選びます。



外部機器操作キー

radiko.jp でラジオを聴く

radiko.jp でラジオ放送を受信します。

radiko.jp は、地上波ラジオ放送を CM も含めて同時にインターネットで配信する「IP（Internet Protocol）サイマルラジオ」サービスです。放送エリアに準じた地域に配信するサービスのため、エリア（都道府県）ごとに対応している放送局が異なります。対応しているエリアや放送局については、radiko.jp のウェブサイトをご覧ください。



- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります（47 ページ）。設定メニューの「ネットワーク設定」（132 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- radiko.jp の選局には、モバイル機器にインストールした「MusicCast CONTROLLER」を使用します。また、本機が MusicCast ネットワークに登録されている必要があります（67 ページ）。
- 本サービスは事前の通知なく中止される場合があります。

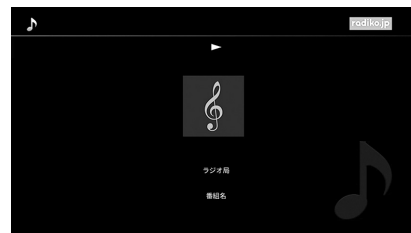


- radiko.jp プレミアム（有料）に登録すると、全国のラジオ局を受信できます。radiko.jp プレミアムを利用するには、radiko.jp のウェブサイトでユーザー登録を行い、「MusicCast CONTROLLER」でログイン名とパスワードを入力してください。

ラジオ局を選ぶ

- 1 モバイル機器の「MusicCast CONTROLLER」を操作して、ラジオ局を選ぶ。

ラジオ局を選ぶと再生が始まり、テレビに再生画面が表示されます。



- ショートカット機能（100 ページ）を使うと、お好みのラジオ局を登録することができます。登録したラジオ局は、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

再生画面



① 再生表示

② 再生情報

ラジオ局名、番組名が表示されます。



- リモコンの外部機器操作キー（▶、■、◀▶、▶▶）で再生操作ができます。



外部機器操作キー

Spotify サービスの曲を聴く

Spotify の曲を再生します。

Spotify は世界中の音楽をスピーディーで快適に利用できる音楽ストリーミングサービスです。Spotify アプリをモバイル機器などにインストールすることで、Spotify アプリで再生する音楽を本機で楽しめます。

詳しくは以下のウェブサイトアクセスしてください。

www.spotify.com/connect



- この機能を使用するには、本機とモバイル機器（スマートフォン、タブレットなど）が同じ無線 LAN ルーターに接続されている必要があります。設定メニューの「ネットワーク設定」（132 ページ）で、ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていることを確認できます。
- アプリ画面の表示はお使いのモバイル機器やアプリのバージョンによって異なる場合があります。また、サービスの内容は予告なく変更されることがあります。



- App Store または Google Play で「Spotify」を検索し、アプリをモバイル機器にインストールしてください。Spotify Premium アカウント（有料）に登録すると、曲を再生できるようになります。

Spotify の曲を再生する

モバイル機器を操作して再生を始めます。

- 1 本機の電源を入れ、モバイル機器で Spotify アプリを起動する。
- 2 Spotify アプリで再生したい曲を選ぶ。
- 3 「接続可能なデバイス」をタップして、デバイスのリストから本機（ネットワーク名）を選ぶ。

本機の入力が自動的に「Spotify」に切り替わり、再生が始まります。

テレビに再生画面が表示されます。

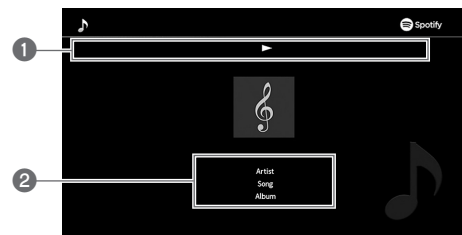


- 設定メニューの「ネットワークスタンバイ」（133 ページ）を「オン」に設定時は、モバイル機器で再生を始めると本機の電源が自動的に入ります。
- 設定メニューの「ネットワーク名」（134 ページ）で、本機のネットワーク名を変更できます。
- 再生中にモバイル機器から本機の音量を操作できます。

注意

- モバイル機器で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐにモバイル機器の再生を停止してください。

再生画面



① 再生表示

② 再生情報

アーティスト名、アルバム名、曲名が表示されます。



- リモコンの外部機器操作キー（▶、■、◀▶、▶▶）で再生操作ができます。



外部機器操作キー

Deezer サービスの曲を聴く

Deezer は高品質でロスレスかつクリアな音質を楽しめる音楽ストリーミングサービスです。



- この機能を使用するには、本機がインターネットに接続されている必要があります (47 ページ)。設定メニューの「ネットワーク設定」(132 ページ) で、ネットワーク情報 (IP アドレス) が正しく取得されていることを確認できます。
- Deezer の選局には、モバイル機器にインストールした「MusicCast CONTROLLER」を使用します。また、本機が MusicCast ネットワークに登録されている必要があります (67 ページ)。

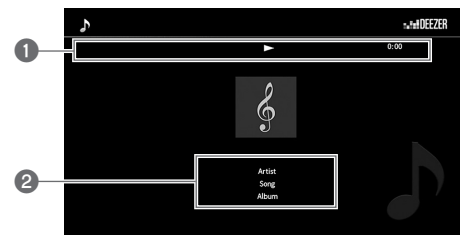
Deezer サービスを利用するには Deezer アカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、あらかじめ Deezer のウェブサイトアカウントをご登録ください。詳しくは次のウェブサイトをご覧ください。

www.deezer.com/

Deezer の曲を再生する

- 1 モバイル機器の MusicCast CONTROLLER を操作して、Deezer サービスのアカウントにサインインする。
- 2 MusicCast CONTROLLER で Deezer のコンテンツを選ぶ。
コンテンツの再生が始まり、テレビに再生画面が表示されます。

再生画面



① 再生表示

再生時間 / 曲時間が表示されます。

② 再生情報

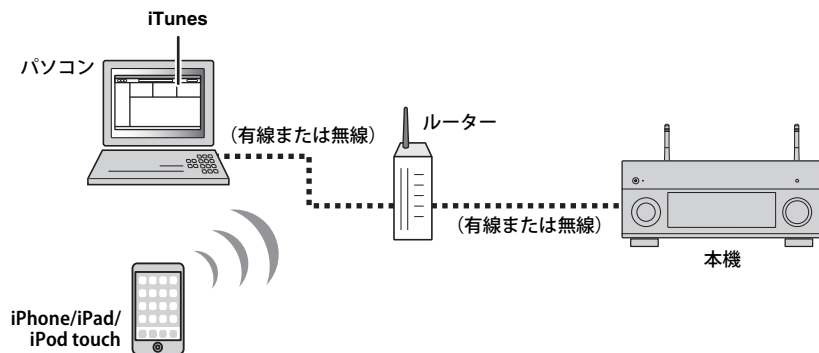
アーティスト名、アルバム名および曲名が表示されます。



- リモコンの外部機器操作キー (▶、■、■、◀、▶) で再生、選曲操作ができます。

AirPlay で iTunes/iPod の曲を聴く

AirPlay 機能を使って、iTunes や iPod の音楽ファイルをネットワーク経由で再生します。



- この機能を使用するには、本機とパソコンや iPod が同じルーターに接続されている必要があります (47 ページ)。設定メニューの「ネットワーク設定」(132 ページ) で、ネットワーク情報 (IP アドレス) が正しく取得されていることを確認できます。
- マルチ SSID 対応ルーターをお使いの場合、使用する SSID によっては本機へのアクセスが制限されることがあります。iPod を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください。



- 対応している iPod については、「本機が対応している機器 / ファイル形式」(162 ページ) をご覧ください。

iTunes/iPod の曲を再生する

iTunes/iPod を操作して再生を始めます。

- 1 本機の電源を入れ、iTunes を起動する、または iPod の音楽再生画面を表示する。

iTunes/iPod が本機を認識すると AirPlay アイコンが表示されます。

iTunes (表示例)



iOS (表示例)



- アイコンが表示されない場合は、本機とパソコンや iPod が正しくルーターに接続されているか確認してください。

- 2 iTunes/iPod で AirPlay アイコンをクリック (タップ) し、音声の出力先として本機 (ネットワーク名) を選ぶ。

- 3 iTunes/iPod を操作して曲を再生する。

本機の入力が自動的に「AirPlay」に切り替わり、再生が始まります。

テレビに再生画面が表示されます。



- 設定メニューの「ネットワークスタンバイ」(133 ページ) を「オン」に設定時は、iTunes/iPod で再生を始めると本機の電源が自動的に入ります。
- 設定メニューの「ネットワーク名」(134 ページ) で、本機のネットワーク名を変更できます。
- 再生中に iTunes/iPod から本機の音量を操作できます。iTunes/iPod からの音量操作を無効にするには、ネットワーク設定の「AirPlay 音量連動」(134 ページ) を「オフ」に設定してください。

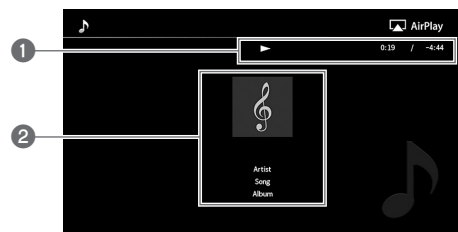
注意

- iTunes/iPod で音量を調節すると、予想外に音量が大きくなり、本機やスピーカーが故障する場合があります。再生中に音量が大きくなってしまった場合は、すぐに iTunes/iPod の再生を停止してください。



外部機器操作キー

■ 再生画面



① 再生表示

再生状態（再生／一時停止など）および経過時間／残り時間を表示します。

② 再生情報

アーティスト名、アルバム名、曲名を表示します。
カーソルキーでスクロールさせる情報を選べます。



- ・ リモコンの外部機器操作キー（▶、■、■、◀▶、▶▶）で再生操作ができます。

複数の部屋で映像 / 音楽を楽しむ (マルチゾーン)

マルチゾーン機能を使えば、本機を設置した部屋 (メインゾーン) と別の部屋 (ゾーン2、ゾーン3、ゾーン4) で、それぞれ入力を選んで再生できます。

たとえば、リビング (メインゾーン) でテレビを視聴しているときに、書斎 (ゾーン2) でパソコンの曲、応接間 (ゾーン3) でラジオ、キッチン (ゾーン4) でDVDを再生することができます。

- 各ゾーンに出力できる音声は、各ゾーンの機器と本機の接続方法 (本機の出力端子) により異なります。詳しくは「マルチゾーン出力」(164ページ)をご覧ください。

マルチゾーン設置例

■ 別の部屋で音楽を楽しむ

別の部屋に設置したスピーカーで音楽を楽しむことができます。



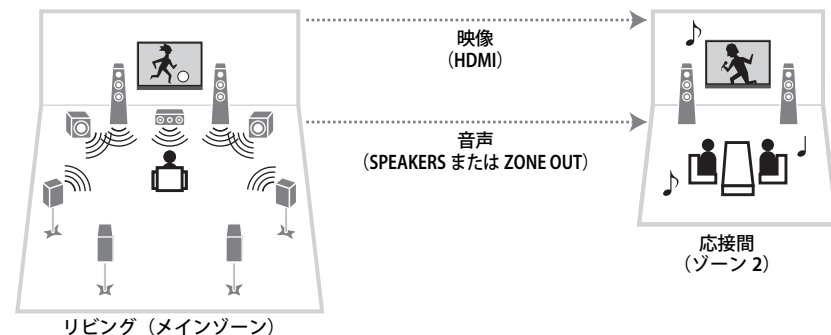
接続方法

- スピーカー (本機に直接接続する場合) : 38 ページ
- スピーカー (外部アンプを使用する場合) : 95 ページ

■ 別の部屋で映像 / 音楽を楽しむ

別の部屋に設置したテレビで映像 / 音楽を楽しむことができます。

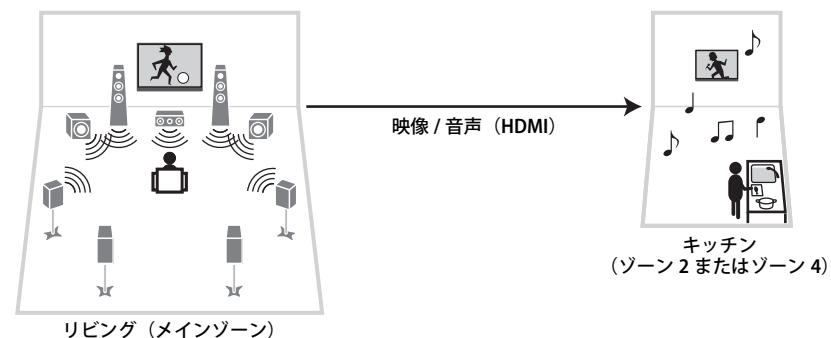
□ テレビとスピーカーで映像 / 音楽を楽しむ



接続方法

- テレビ : 96 ページ
- スピーカー (本機に直接接続する場合) : 38 ページ
- スピーカー (外部アンプを使用する場合) : 95 ページ

□ テレビだけで映像 / 音楽を楽しむ



接続方法

- テレビ : 96 ページ

別の部屋の機器を接続する

別の部屋で使用する機器を本機に接続します。

注意

- スピーカーや外部アンプを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入ると、前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示されます。

■ スピーカーで音声を再生する

ゾーン 2/ ゾーン 3 に設置したスピーカーを本機に接続して、音声を再生します。使用するアンプ（本機または外部アンプ）により接続方法が異なります。

□ 本機の内蔵アンプを使う

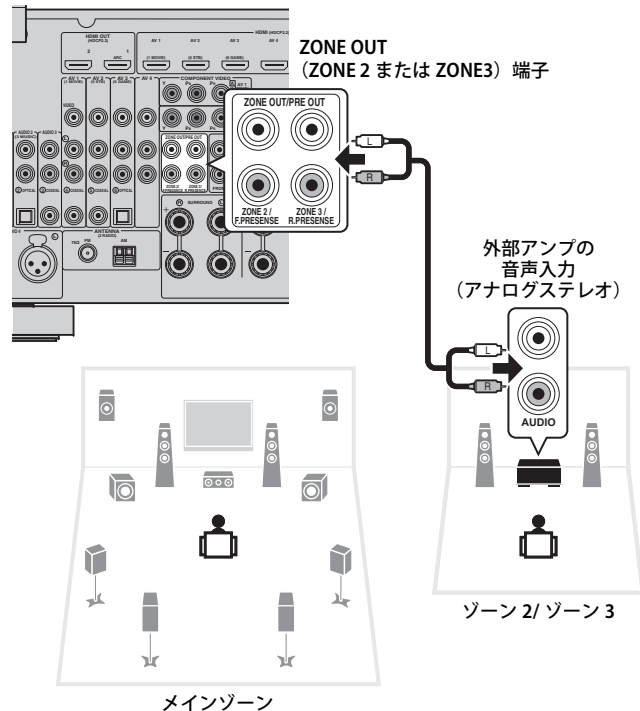
スピーカーケーブルを使って、ゾーン 2/ ゾーン 3 に設置したスピーカーを本機に接続します。

詳しくは「ゾーン 2/ ゾーン 3 スピーカーを接続する」（38 ページ）をご覧ください。

□ 外部アンプを使う

ステレオピンケーブルを使って、ゾーン 2/ ゾーン 3 に設置した外部アンプを本機に接続します。

本機（背面）



- (RX-A3080 のみ)

設定メニューの「パワーアンプ割り当て」（116 ページ）で、ZONE OUT/PRE OUT 端子からフロントプレゼンスチャンネルの音声を出力する設定が選ばれている場合は、ゾーン 2 の外部アンプを接続できません。また、リアプレゼンスチャンネルの音声を出力する設定が選ばれている場合は、ゾーン 3 の外部アンプを接続できません。



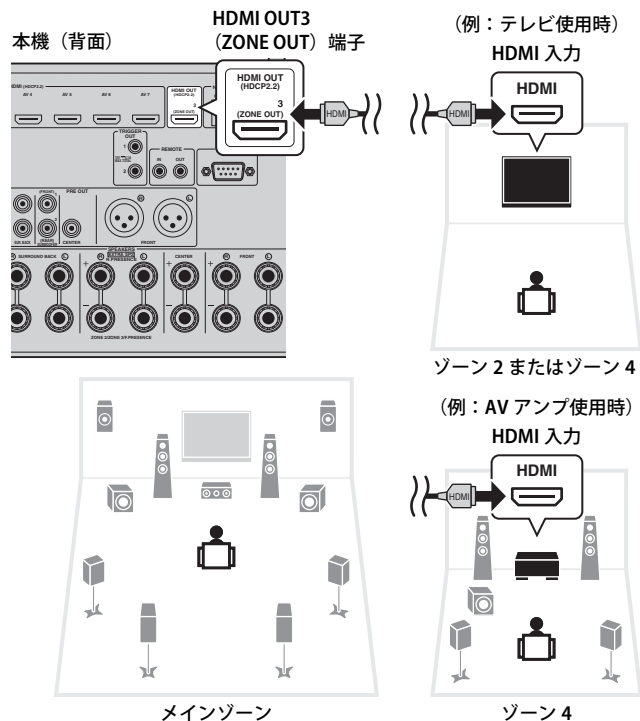
- 音量調節機能を持つ外部アンプを使用する場合は、設定メニューの「音量」（136 ページ）を「固定」に設定してください。

■ HDMI 対応機器で映像 / 音声を再生する

ゾーン 2 またはゾーン 4 に設置した HDMI 対応機器（テレビなど）を本機に接続して、映像 / 音声を再生します。AV アンプを接続すれば、別の部屋（ゾーン 4）でもマルチチャンネル再生を楽しむことができます。



- 映像信号変換には対応していません。ビデオ機器の映像をゾーン 2 またはゾーン 4 で楽しむには、HDMI ケーブルを使ってビデオ機器を本機に接続してください（43 ページ）。
- 本機に接続されている再生機器の HDMI コントロールを無効にすることをおすすめします。
- 設定メニューとオプションメニューは、ゾーン 2 またはゾーン 4 では使用できませんが、ゾーン 2 のネットワーク、USB または Bluetooth 接続のときはブラウザ画面と再生画面の使用ができます。



HDMI OUT3（ZONE OUT）端子をゾーン 2 またはゾーン 4 に割り当てるには、設定メニューの「HDMI ZONE OUT 割り当て」（131 ページ）を「ゾーン 2」または「ゾーン 4」に設定してください。



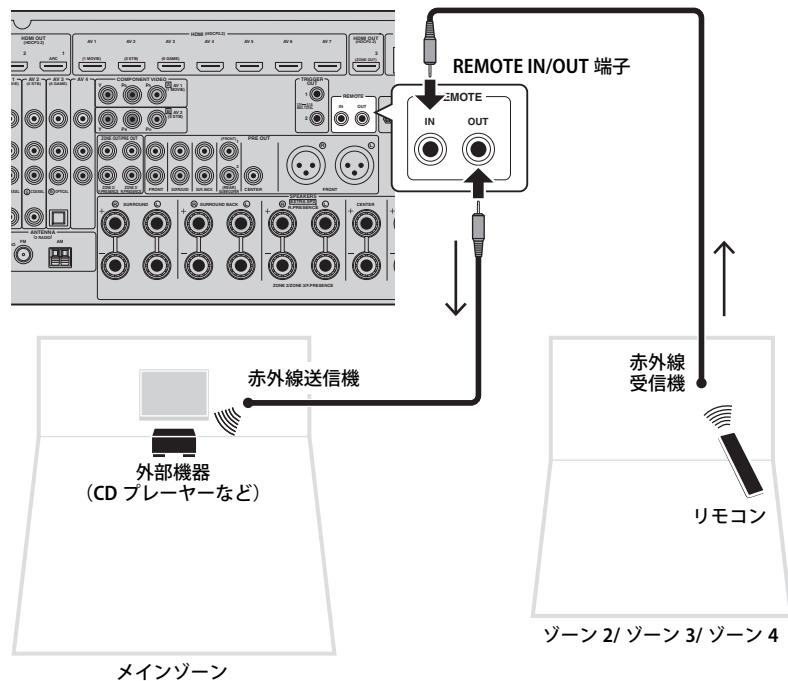
- 設定メニューの「HDMI 音声出力」（131 ページ）で HDMI OUT3 端子から音声を出力するかどうかを設定できます（初期値：オフ）。
- ゾーン 2 に設置したスピーカーで音声を出力することも可能です（38 ページ）。

- 以下の操作を行ったときに、別の部屋の映像 / 音声が途切れることがあります。
 - HDMI で本機に接続したテレビの電源操作（入 / 切）または入力切替
 - 各ゾーンの入 / 切または入力切替
 - 音場プログラムの選択、音声に関する設定の変更

■ 別の部屋から本機を操作する（リモート接続）

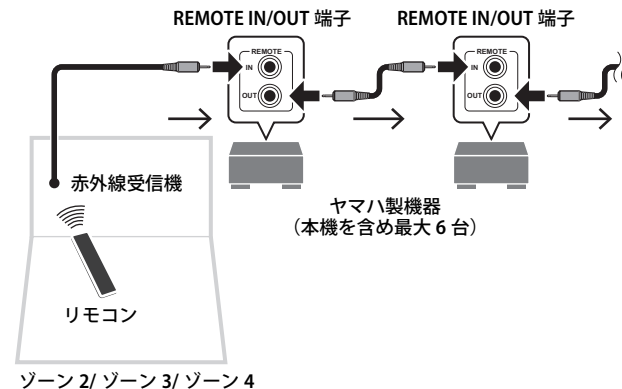
赤外線受信機 / 送信機を本機の REMOTE IN/OUT 端子に接続すれば、付属のリモコンで別の部屋から本機や外部機器を操作できます。

本機（背面）



□ ヤマハ製機器間のリモート接続

本機のようにリモート接続に対応している別のヤマハ製機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。赤外線受信機とモノラルミニプラグケーブルを使って、REMOTE IN/OUT 端子を接続するだけで、リモコン信号を転送できます。






ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 を操作する

1 MAIN/ZONE スイッチでゾーンを選ぶ。

2 RECEIVER 電源キーを押す。

キーを押すたびに、選択したゾーンが有効 / 無効になります。
有効なときは、前面ディスプレイにゾーン番号が点灯します。

3 入力選択キーで入力を選ぶ。

- 
 各ゾーンに出力できる音声は、各ゾーンの機器と本機の接続方法（本機の出力端子）により異なります。詳しくは「マルチゾーン出力」（164 ページ）をご覧ください。
- 「Bluetooth」、「USB」、「NET」の各種入力は、すべてのゾーンでいずれか 1 つしか選べません。たとえばメインゾーンの入力が「USB」のときに、ゾーン 2 で「SERVER」を選べると、メインゾーンも「SERVER」に切り替わります。
- ゾーン 4 は HDMI 入力にのみ対応しています。

4 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

以下の機能については、本書の該当ページをご覧ください。

- FM/AM ラジオを聴く（76 ページ）
- Bluetooth で音楽を聴く（79 ページ）
- USB 機器の曲を再生する（80 ページ）
- メディアサーバー（パソコン / NAS）の曲を再生する（83 ページ）
- インターネットラジオを聴く（86 ページ）
- radiko.jp でラジオを聴く（89 ページ）
- Spotify サービスの曲を聴く（90 ページ）
- Deezer サービスの曲を聴く（91 ページ）
- AirPlay で iTunes/iPod の曲を聴く（92 ページ）



- AirPlay は、メインゾーンで AirPlay を使って再生時のみゾーン 2/ ゾーン 3 にも音声出力されます。



- ゾーン 2/ ゾーン 3 の入力として「Main Zone Sync」を選べると、ゾーン 2/ ゾーン 3 の入力がメインゾーンと連動して切り替わります。
- ゾーン 2/ ゾーン 3 で DSD やサンプリング周波数が 352.8 kHz、384 kHz の音声を再生するには、ゾーン 2/ ゾーン 3 の入力として「Main Zone Sync」を選ぶか、パーティーモード（99 ページ）をご利用ください。
- システム設定メニューの「リモコンキー」（140 ページ）の設定により、ゾーン 2/ ゾーン 3 でも PROGRAM キーを使用できます。

注意

- DTS-CD をゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 で再生しないでください。大きな雑音出力される恐れがあります。



■ その他の操作

ゾーン 2/ ゾーン 3/ ゾーン 4 が有効なときは、以下の操作も可能です。

音量を調節する（ゾーン 2/ ゾーン 3 選択時）

VOLUME キーを押す。（MUTE キーで消音します。）

入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）

SCENE1-8 キーを押す。



- シーンに設定（入力、音量、トーンコントロール）を登録するには、前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先の SCENE1-8 キーを押し続けます。（ゾーン 4 選択時は入力のみ登録できます。）

スリープタイマーを設定する

SLEEP キーを繰り返し押して、スリープタイマーの時間（120 分、90 分、60 分、30 分、切）を設定する。

圧縮音源をダイナミック再生する（ミュージックエンハンサー）

ENHANCER キーを押す。



- 本体前面のキーやつまみでも、各ゾーンの入力選択や音量操作ができます。その場合は、ZONE CONTROL キーで操作対象のゾーンを選び、前面ディスプレイのゾーン表示が点滅中に、INPUT つまみや VOLUME つまみを操作してください。

すべての部屋で同じ音楽を聴く (パーティーモード)

メインゾーンで再生中の音楽を同時にすべてのゾーンで楽しむことができます。パーティーモード中は、すべてのゾーンでステレオ音声が出力されます。ホームパーティーの BGM などにご利用ください。

1 PARTY キーを押す。

キーを押すたびに、パーティーモードが入/切します。

パーティーモード中は、前面ディスプレイに「PARTY」が点灯します。



- 設定メニューの「パーティーモード設定」（137 ページ）でパーティーモードの対象ゾーンを設定できます。



- ゾーン 4 の音声出力は、メインゾーンで HDMI 入力選ばれている場合のみ可能です。



お気に入りのコンテンツを登録する（ショートカット）

最大 40 種類のコンテンツ（USB、ネットワークコンテンツ、Bluetooth）を登録できます。登録したコンテンツは、ショートカット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。



- インターネットラジオ局の登録は、「お気に入り」（88 ページ）もご利用いただけます。
- Bluetooth と AirPlay は入力ソースのみ登録できます。曲を個別に登録することはできません。

コンテンツを登録する

お気に入りのコンテンツを選んでショートカット番号に登録します。

1 登録したい曲やラジオ局を再生する。

2 MEMORY キーを数秒押す。



登録先のショートカット番号（点滅）



「Empty」（空）または現在登録されているコンテンツの入力名

3 登録を確定するには、MEMORY キーを押す。

登録したコンテンツを呼び出す

ショートカット番号に登録されているコンテンツの中から、聴きたいコンテンツを選びます。

1 BLUETOOTH キー、USB キー、または NET キーを押す。

2 PRESET キーで聴きたいコンテンツのショートカット番号（01 ～ 40）を選択する。

本体前面の PRESET キーでもショートカットに登録したコンテンツを選べます。



- ショートカットが 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。
- 以下の場合、ショートカット番号を選んでもコンテンツを再生できません。
 - 登録時と異なる USB 機器を接続している。
 - パソコンの電源が入っていない。またはネットワークに接続されていない。
 - 登録したラジオ局に一時的に接続できない。またはサービスが終了している。
 - 登録したコンテンツ（ファイル）が別のフォルダーに移動された。
 - 本機と Bluetooth 機器の接続ができない。
- USB 機器またはパソコンの曲を登録した場合、本機は音楽ファイルのフォルダー内における相対的な位置を記憶します。そのため、フォルダー内の音楽ファイルを追加 / 削除すると、登録したコンテンツが呼び出されないことがあります。その場合は、コンテンツを登録し直してください。



- 「MusicCast CONTROLLER」（67 ページ）を使うと、登録したコンテンツ（曲名、ラジオ局名）を一覧で表示したり呼び出したりすることができます。



現在の状態を確認する

前面ディスプレイの表示を切り替える

- 1 本体前面の INFO キーを繰り返し押して表示項目を選ぶ。



項目名

約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



情報

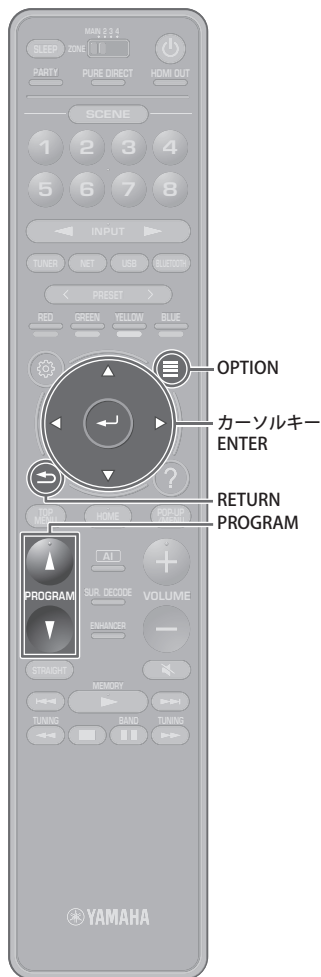


- 入力により選択可能な項目が異なります。また表示項目は入力ごとに記憶されます。
- 曲名やアーティスト名などの日本語は表示されません。
- リモコンの PROGRAM キーで前面ディスプレイにステータス情報を表示することができます。詳しくは、「PROGRAM キー」(140 ページ)をご覧ください。

入力グループ	項目
AV1 ~ 7 AUX AUDIO1 ~ 4*1 PHONO	DSP Program (音場プログラム名など)、 Audio Decoder (デコーダー名*2)
TUNER	TUNER Frequency (周波数)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)
Bluetooth USB	Song (曲名)、Artist (アーティスト名)、Album (アルバム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、 Audio Decoder (デコーダー名*2)、IP Address (IP アドレス)、Ethernet MAC (有線 MAC アドレス)、Wi-Fi MAC (無線 MAC アドレス)
SERVER AirPlay	Song (曲名)、Artist (アーティスト名)、Album (アルバム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、 Audio Decoder (デコーダー名*2)、IP Address (IP アドレス)、Ethernet MAC (有線 MAC アドレス)、Wi-Fi MAC (無線 MAC アドレス)
NET RADIO	Song (曲名)、Album (アルバム名)、Station (ラジオ局名)、DSP Program (音場プログラム名など)、 Audio Decoder (デコーダー名*2)、IP Address (IP アドレス)、Ethernet MAC (有線 MAC アドレス)、Wi-Fi MAC (無線 MAC アドレス)
radiko.jp	Station (ラジオ局名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*2)、 IP Address (IP アドレス)、Ethernet MAC (有線 MAC アドレス)、Wi-Fi MAC (無線 MAC アドレス)
Spotify Deezer	Track (曲名)、Artist (アーティスト名)、Album (アルバム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、 Audio Decoder (デコーダー名*2)、IP Address (IP アドレス)、Ethernet MAC (有線 MAC アドレス)、Wi-Fi MAC (無線 MAC アドレス)
MusicCast Link	DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*2)、IP Address (IP アドレス)、 Ethernet MAC (有線 MAC アドレス)、Wi-Fi MAC (無線 MAC アドレス)

*1 AUDIO4 : RX-A3080 のみ

*2 現在動作しているオーディオデコーダー名が表示されます。動作していない場合は「Decoder Off」と表示されます。



テレビ画面でステータス情報を確認する

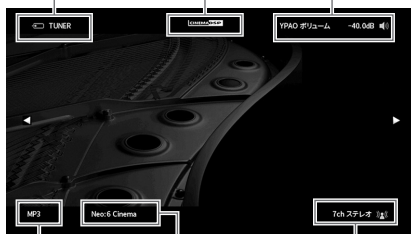
- 1 OPTION キーを押す。
- 2 カーソルキーで「オンスクリーン情報」を選び、ENTER キーを押す。

ステータス情報がテレビ画面に表示されます。



- SURROUND : AI を有効にすると、SURROUND : AI のステータス情報も表示されます。

入力 / パーティー
モードの状態 シネマ DSP/
エンハンサーの状態 音量 / YPAO
ボリュームの状態

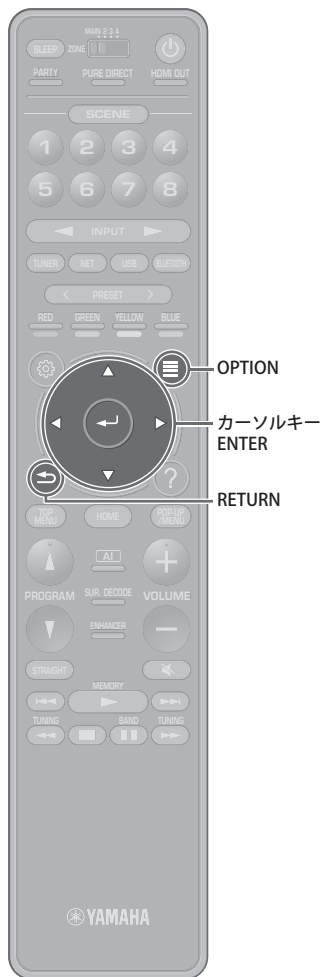


音声フォーマット デコーダー 音場プログラム

- 3 情報表示を終了するには、RETURN キーを押す。



- リモコンの PROGRAM キーでテレビにステータス情報を表示することができます。詳しくは、「PROGRAM キー」(140 ページ)をご覧ください。
- カーソルの左右キーで、設定メニューの各階層にある情報画面が表示されます。



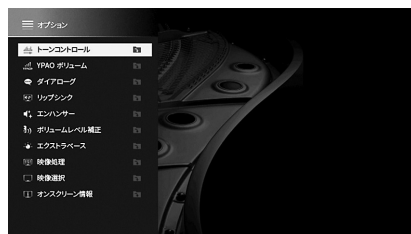
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

再生中のソースにあわせて、再生関連の機能を設定します。テレビ画面を使わずに、前面ディスプレイだけでも操作できるので、必要なときに簡単に設定を変更できます。

1 OPTION キーを押す。



前面ディスプレイ



テレビ画面

2 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。



- ・メニュー操作中、1つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキーで設定値を選ぶ。

4 終了するには、OPTION キーを押す。

オプションメニューでできること



- ・選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- ・オプションメニュー画面の右上にインプットのアイコンが表示されている場合は、現在の入力に対する設定になります。インプットのアイコンが表示されない場合は、全入力共通の設定になります。
- ・カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。
- ・各項目の初期値には下線が付いています。

項目	説明	ページ
トーンコントロール (Tone Control)	出力される音声の高音域音量と低音域音量を、それぞれ調整します。	105
YPAO ボリューム (YPAO Volume)	YPAO ボリューム (YPAO Vol.)	YPAO ボリュームを有効 / 無効にします。 105
	アダプティブ DRC (A.DRC)	音量に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するか設定します。 105
ダイアログ (Dialog)	セリフ音量調整 (Dialog Lvl)	中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整します。 106
	DTS ダイアログ コントロール (DTS Dialog)	DTS:X コンテンツ再生時にセリフの音量を調整します。 106
	セリフ位置調整 (Dialog Lift)	中央に定位する音の、高さの位置を調整します。 106
リップシンク (Lipsync)	映像と音声のずれを調整します。	106
エンハンサー (Enhancer)	エンハンサー (Enhancer)	ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にします。 106
	ハイレゾモード (HiRes Mode)	ミュージックエンハンサーが有効時に、ハイレゾモードを有効 / 無効にします。 107
ボリューム レベル補正 (Volume Trim)	入力レベル補正 (In.Trim)	入力間の音量差を補正します 107
	サブウーファー レベル補正 (SW.Trim)	サブウーファーの音量を微調整します。 107
エクストラベース (Extra Bass)	エクストラベースを有効 / 無効にします。	107

項目	説明	ページ
音声入力選択 (Audio Select)	音声入力選択 (A.Sel)	1 つの入力に対して複数の音声入力端子を使用している場合に、本機で再生する音声信号を選択します。 107
映像処理 (Video Process.)	ビデオモード (V.M)	設定メニューで設定した映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効 / 無効にします。 108
	ビデオ画質調整 (Video Adjust)	プリセット（登録）した画質設定の中から、使用する画質設定を選択します。 108
映像選択 (Video Out)	映像選択 (V.Out)	選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。 108
多重モノラル音声 (Dual Mono)		多重音声信号入力時の出力音声を設定します 108
シャッフル / リピート (Shuffle/Repeat)	シャッフル (Shuffle)	曲のシャッフル再生を設定します。 108
	リピート (Repeat)	曲のリピート再生を設定します。 108
FM モード (FM Mode)	FM モード (Mode)	FM ラジオの受信方法（ステレオ / モノラル）を選択します。 109
プリセット (Preset)	FM オートプリ セット (FM Auto Preset)	信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。 109
	プリセット消去 (Clear Preset)	プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。 109
	全プリセット 消去 (ClearAllPreset)	プリセット番号に登録されているすべてのラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。 109
お気に入り追加 (Add to Fav.) お気に入りから削除 (RemovefromFav.)		お気に入りのインターネットラジオ局をお気に入りフォルダーに登録します。またはお気に入りフォルダーから削除します。 109
オンスクリーン情報 (On-screen Info)		現在のステータス情報をテレビ画面に表示します。 109

■ トーンコントロール (Tone Control)

出力される音声の高音域 (Treble) と低音域 (Bass) のバランスを調整します。

選択項目

高音 (Treble)、低音 (Bass)

設定値

-6.0dB ~ 0.0dB ~ +6.0dB (0.5dB 単位)



- ・「高音」と「低音」の両方が「0.0dB」のときは、「Bypass」と表示されます。
- ・極端な設定にすると、音のつながりが悪くなることがあります。

■ YPAO ボリューム (YPAO Volume)

YPAO ボリュームやアダプティブ DRC を有効 / 無効にします。

YPAO ボリューム (YPAO Vol.)

YPAO ボリュームを有効 / 無効にします。有効にすると、音量に連動して低音域 / 高音域のバランスが自動的に調節されます。これにより小音量でも自然な音質バランスを楽しめます。

設定値

オフ (Off)	YPAO ボリュームを無効にする。
オン (On)	YPAO ボリュームを有効にする。



- ・ YPAO ボリュームは、「YPAO」(50 ページ) の測定結果を保存後に効果的に機能します。
- ・ 夜間などに小音量で聴く場合は、YPAO ボリュームとアダプティブ DRC の両方を有効にすることをおすすめします。
- ・ YPAO の測定結果を保存すると、YPAO ボリュームの設定が ON に切り替わります。

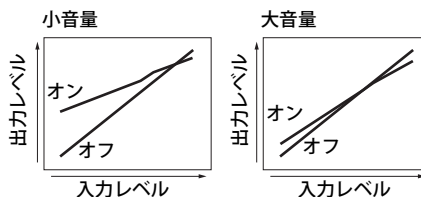
アダプティブ DRC (A.DRC)

音量調節に連動して、ダイナミックレンジ (最大音量と最小音量の差) を自動的に調節するかどうかを設定します。「オン」にすると、夜間など小音量でも聴きやすくなります。

設定値

オフ (Off)	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。
オン (On)	ダイナミックレンジを自動的に調節する。

「オン」に設定すると、音量が小さいときはダイナミックレンジが狭まり、大きいときは広がります。



■ ダイアログ (Dialog)

中央に定位する音（セリフなど）の音量や高さを調節します。

セリフ音量調整 (Dialog Lvl)

中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整します。セリフが聴こえにくい場合などにご利用ください。

設定値

0 ～ 3



- DTS:X コンテンツ再生時や、Dolby Surround デコーダーまたは Neural:X デコーダー選択時は、調節しても機能しません。

DTS ダイアログコントロール (DTS Dialog)

DTS:X コンテンツ再生時に中央に定位する音（セリフなど）の音量を調節します。

設定値

0 ～ 6



- DTS ダイアログコントロール対応の DTS:X コンテンツを再生している場合のみ設定できます。

セリフ位置調整 (Dialog Lift)

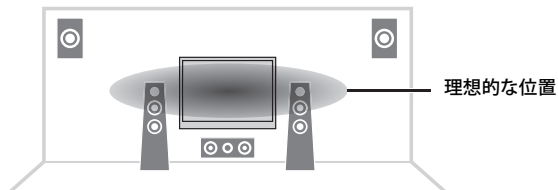
セリフが聴こえる位置の高さを調整します。セリフがテレビ画面よりも低い位置から聴こえる場合は、設定値を大きくしてください。



- 以下のいずれかの場合のみ設定できます。
 - フロントプレゼンススピーカー使用時に、音場プログラム（2ch Stereo、9ch Stereo 以外）が選ばれている。
 - バーチャルプレゼンススピーカー（VPS）（71 ページ）が機能している。
（視聴位置によっては、サラウンドスピーカーからセリフが聴こえる場合があります。）

設定値

0 ～ 5（値が大きいほど高い）



■ リップシンク (Lipsync)

映像と音声のずれを調整します。

設定値

0ms ～ 500 ms（1ms 単位）



- 設定メニューの「ディレイ有効設定」（121 ページ）が「有効」の場合のみ設定できます。

■ エンハンサー (Enhancer)

ミュージックエンハンサーとハイレゾモードを有効 / 無効にします。

エンハンサー (Enhancer)

ミュージックエンハンサー（75ページ）を有効 / 無効にします。



- 入力ごとに個別に設定できます。
- リモコンの ENHANCER キーでもミュージックエンハンサーを有効 / 無効にできます（75 ページ）。

設定値

オフ (Off)	ミュージックエンハンサーを無効にする。
オン (On)	ミュージックエンハンサーを有効にする。

初期値

TUNER、Bluetooth、USB、SERVER、NET RADIO、radiko.jp、Spotify、Deezer、AirPlay：オン (On)

その他：オフ (Off)



- 以下の音声を再生しているときは、ミュージックエンハンサーは機能しません。
 - サンプリング周波数が 48kHz を超える音声
 - DSD 音声

ハイレゾモード (HiRes Mode)

ミュージックエンハンサーが有効時に、ハイレゾモードを有効 / 無効にします。有効にすると、ミュージックエンハンサーを使って非圧縮デジタル音声 (2 チャンネル PCM など) や可逆圧縮デジタル音声 (FLAC など) の音質をさらに高めることができます。

設定値

オン (On)	ハイレゾモードを有効にする。 (音声信号処理の状態によってはハイレゾモードが機能しない場合があります。)
オフ (Off)	ハイレゾモードを無効にする。

■ ボリュームレベル補正 (Volume Trim)

音量に関する設定を変更します。

入力レベル補正 (In.Trim)

入力間の音量差を補正します。入力切替時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って調節してください。



- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

-6.0dB ~ 0.0dB ~ +6.0dB (0.5dB 単位)

サブウーファーレベル補正 (SW.Trim)

サブウーファーの音量を微調整します。

設定値

-6.0dB ~ 0.0dB ~ +6.0dB (0.5dB 単位)

■ エクストラベース (Extra Bass)

エクストラベースを有効 / 無効にします。有効にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

設定値

オフ (Off)	エクストラベースを無効にする。
オン (On)	エクストラベースを有効にする。

■ 音声入力選択 (Audio Select)

音声入力に関する設定を変更します。

音声入力設定 (A.Sel)

1 つの入力に対して複数の音声入力端子を使用している場合に、本機で再生する音声信号を選択します。



- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

自動判別 (Auto)	以下の優先順位にしたがって、再生する音声信号を自動的に選ぶ。 1 HDMI 音声 2 デジタル音声 (COAXIAL または OPTICAL) 3 アナログ音声 (AUDIO)
HDMI (HDMI)	常に HDMI 音声を再生する。 HDMI 端子から音声信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
COAX/OPT (COAX/OPT)	常にデジタル音声 (同軸デジタルまたは光デジタル) を再生する。 COAXIAL 端子または OPTICAL 端子から音声信号が入力されていない場合、音声は出力されません。
アナログ (Analog)	常にアナログ音声を再生する。 AUDIO 端子から音声信号が入力されていない場合、音声は出力されません。

■ 映像処理 (Video Process.)

設定メニューの「信号処理」(129 ページ) で設定した内容 (解像度、アスペクト) を有効 / 無効にします。

ビデオモード (V.M)

映像の信号処理を有効 / 無効にします。

設定値

ダイレクト (Direct) 映像の信号処理を無効にする。

信号処理 (Processing) 映像の信号処理を有効にする。

ビデオ画質調整 (Video Adjust)

設定メニューの「画質調整」(130 ページ) でプリセット (登録) した画質設定の中から、使用する画質設定を選択します。



- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

1 ~ 6

■ 映像選択 (Video Out)

出力する映像を設定します。

映像選択 (V.Out)

選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。



- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

オフ (Off) 映像を表示しない。

AV1 ~ 7 (AV1 ~ 7) 選択した入力の映像を表示する。

■ 多重モノラル音声 (Dual Mono)

地上デジタル / BS デジタル放送など、モノラル多重音声信号入力時の出力音声を設定します。

設定値

主音声 (Main) 主音声をフロントスピーカーから出力する。

副音声 (Sub) 副音声をフロントスピーカーから出力する。

主 + 副 (All) 主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。



- 「主 + 副」に設定時、主音声 / 副音声出力されるスピーカーは、デジタル放送チューナーの設定により異なります。

■ シャッフル / リピート (Shuffle/Repeat)

シャッフル再生、リピート再生に関する設定を変更します。

シャッフル (Shuffle)

シャッフル再生を設定します。

設定値

オフ (Off) シャッフル再生を無効にする。

オン (On) アルバム (フォルダー) 内の曲をランダムに再生する。



- 曲のシャッフル再生を設定できるのは、入力が USB、SERVER の場合のみになります。

リピート (Repeat)

リピート再生を設定します。

設定値

オフ (Off) リピート再生を無効にする。

1 曲 (One) 現在の曲を繰り返し再生する。

すべて (All) アルバム (フォルダー) 内の曲を繰り返し再生する。



- 曲のリピート再生を設定できるのは、入力が USB、SERVER の場合のみになります。

■ FM モード (FM Mode)

FM ラジオの受信方法 (ステレオ / モノラル) を切り替えます。

FM モード (Mode)

設定値

ステレオ (Stereo)	FM ラジオをステレオで受信する。
モノラル (Monaural)	FM ラジオをモノラルで受信する。

■ プリセット (Preset)

ラジオ局の登録や解除を設定します。

FM オートプリセット (FM Auto Preset)

信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。



- 最大 40 のラジオ局を登録できます。

プリセット消去 (Clear Preset)

プリセット番号に登録されているラジオ局 (プリセット局) の登録を解除します。

全プリセット消去 (Clear All Preset)

プリセット番号に登録されているすべてのラジオ局 (プリセット局) の登録を解除します。

選択項目

キャンセル (Cancel)	登録消去をキャンセルします。
実行 (Execute)	登録されているすべてのラジオ局を削除します。

■ お気に入り追加 (Add to Fav.)

お気に入りのインターネットラジオ局をお気に入りフォルダーに登録します。



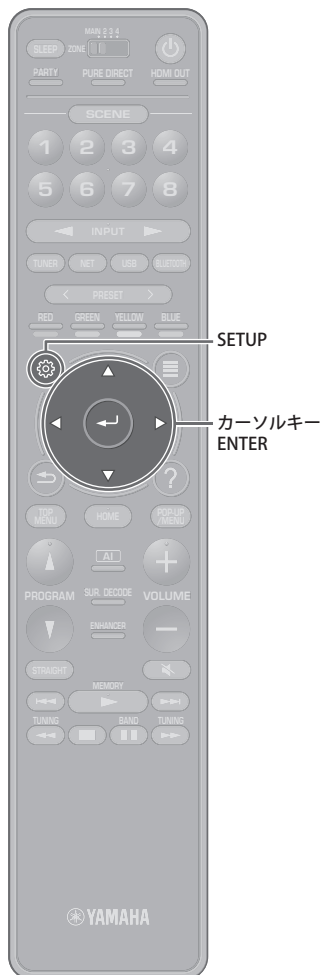
- ショートカット機能 (100 ページ) でも、お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。

■ お気に入りから削除 (Remove from Fav.)

お気に入りフォルダーからインターネットラジオ局を削除します。

■ オンスクリーン情報 (On-screen Info)

現在のステータス情報をテレビ画面に表示します (102 ページ)。



設定する

各種機能の設定（設定メニュー）

以下の手順は設定メニューの基本的な操作です。各メニューから本機のさまざまな機能を設定することができます。



- 新しいファームウェアが利用可能な場合は、メッセージ画面が表示されます。また、封筒のアイコンが設定メニューの下に表示されます。

- 1 SETUP キーを押す。
- 2 カーソルキーでメニューを選び、ENTER キーを押す。



- 3 カーソルキーで項目を選び、ENTER キーを押す。
- 4 カーソルキーで設定を選ぶ。
- 5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

設定メニューでできること

メニュー	項目	説明	ページ	
スピーカー設定	設定パターン選択	2つのスピーカー設定パターンを登録し、使用するスピーカー設定を選択します。	116	
	設定データコピー	「設定パターン選択」に登録されているスピーカー設定をコピーします。	116	
	パワーアンプ割り当て	使用するスピーカーシステムを選択します。	116	
	構成	フロント	フロントスピーカーのサイズを選択します。	117
		センター	センタースピーカーの有無やサイズを選択します。	117
		サラウンド	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	118
		サラウンドバック	サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを選択します。	118
		フロントプレゼンス	フロントプレゼンススピーカーの有無やサイズを選択します。	118
		リアプレゼンス	リアプレゼンススピーカーの有無やサイズを選択します。	118
		サブウーファー	サブウーファーの有無を設定します。	119
	距離	スピーカーの距離を個別に設定します。	119	
	音量	スピーカーの音量を個別に設定します。	119	
	パラメトリックイコライザー	イコライザーを使って音色を調節します。	119	
	テストトーン	テストトーン出力を有効 / 無効にします。	120	
	YPAO 測定結果	前回の YPAO 測定結果を確認・呼び出します。	120	

メニュー	項目	説明	ページ
音声設定	情報	本機の音声信号情報を表示します。	121
	リップシンク	ディレイ有効設定 「自動 / 手動選択」 で設定したリップシンクを有効 / 無効にします。	121
		自動 / 手動選択 映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。	121
		調整 映像と音声のずれを手動で調整します。	122
	エフェクト量の加減	音場効果の強弱を調節します。	122
	ディレイ	直接音からプレゼンス音場が生じるまでの時間を調節します。	122
	音場空間の大きさ	プレゼンス音場の広がり感を調節します。	122
	響きの強さ	プレゼンス音場の減衰量を調節します。	122
	残響時間	後部残響音の減衰時間を調節します。	123
	残響音の遅れ	直接音から後部残響音が生じるまでの時間を調節します。	123
	DSP パラメーター	残響音の強さ 後部残響音の余韻を調節します。	123
		サラウンド音場の遅れ 直接音からサラウンド音場が生じるまでの時間を調節します。	123
		サラウンド音場の広さ サラウンド音場の広がり感を調節します。	123
	サラウンド音場の響き	サラウンド音場の減衰量を調節します。	123
	サラウンドバックの遅れ	直接音からサラウンドバック音場が生じるまでの時間を調節します。	124
	サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節します。	124
	サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の減衰量を調節します。	124
	サラウンドデコーダー	デコーダー選択 選択した音場プログラムと組み合わせて使用するサラウンドデコーダーを設定します。	124
		センタースプレッド 2 チャンネルソース再生時にセンターチャンネル音声を左右に振り分けるかどうかを設定します。	124
		センターイメージ フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。	124
	9ch ステレオ	レベル 「9ch ステレオ」の全体の音量を調節します。	125
		前後バランス 「9ch ステレオ」の前後の音量バランスを調節します。	125
		左右バランス 「9ch ステレオ」の左右の音量バランスを調節します。	125
		高さバランス 「9ch ステレオ」の上下方向の高さを調節します。	125
		モノラルミックス 「9ch ステレオ」の音声をモノラルにミックスします。	125
		リセット 設定を初期化します。	125
	ダイナミックレンジ	Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	125
	ボリューム	音量の上限 リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	125
		音量の初期値 電源を入れたときの音量を設定します。	125
	ピュアダイレクトモード	ピュアダイレクトが有効なときに映像信号を出力するかどうかを設定します。	126
	アダプティブ DSP レベル	音量の大きさに合わせて、音場プログラムのエフェクト量も自動的に調節するかどうかを設定します。	126
	バーチャルスピーカー	VPS フロント、センター、サラウンドスピーカーを使ってバーチャルプレゼンススピーカー（VPS）を創り出すかどうかを設定します。	126
		VSBS サラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を創り出すかどうかを設定します。	126
	ウルトラロージッター PLL モード (RX-A3080 のみ)	ジッター除去機能を有効 / 無効にします。	126
	DAC デジタルフィルター (RX-A3080 のみ)	デジタル-アナログ変換で使用するデジタルフィルターの種類を切り替えて、好みの音質傾向を選択します。	127
	バランス入力アッテネーター (RX-A3080 のみ)	バランス入力のアッテネーター機能を有効 / 無効にします。	127

メニュー	項目		説明	ページ
シーン設定	シーン設定		シーン機能の設定を変更します。	127
	シーン名変更		本体前面ディスプレイやテレビ画面に表示するシーン名を変更します。	128
ビデオ /HDMI 設定	情報		本機の HDMI 信号情報を表示します。	129
	ビデオモード	ビデオモード	映像の信号処理（解像度、アスペクト比）を有効 / 無効にします。	129
		解像度	出力する HDMI 映像信号の解像度を選択します。	129
		アスペクト	出力する HDMI 映像信号のアスペクト比（縦横比）を選択します。	129
		画質調整	画質を調整します。	130
	HDMI コントロール	HDMI コントロール	HDMI コントロールを有効 / 無効にします。	131
		TV 音声入力	テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を設定します。	131
		ARC	ARC を有効 / 無効にします。	131
		スタンバイ連動	HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。	131
	HDMI 音声出力		HDMI の音声を TV スピーカーから出力するかどうかを設定します。	131
	HDMI ZONE OUT 割り当て		HDMI OUT 3 (ZONE OUT) 端子の割り当てを選択します。	131
	HDCP バージョン		HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定します。	132
	HDMI スタンバイスルー		本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された映像 / 音声をテレビに出力するかどうかを設定します。	132
ネットワーク設定	情報		本機のネットワーク情報を表示します。	132
	ネットワーク接続		ネットワークへの接続方法を設定します。	133
	IP アドレス		ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。	133
	ネットワークスタンバイ		ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能（ネットワークスタンバイ）を有効 / 無効に します。	133
	MAC アドレスフィルター	フィルター	MAC アドレスを指定して本機にアクセスできるようにネットワーク機器を制限します。	133
		MAC アドレス	本機へのアクセスを許可するネットワーク機器の MAC アドレスを設定します。	134
	DMC からの操作		デジタルメディアコントローラー（DMC）からの操作を有効 / 無効にします。	134
	AirPlay 音量連動		AirPlay 入力選択時に、本機と iTunes/iPhone の音量を連動させるかどうかを設定します。	134
	ネットワーク名		ネットワークに表示される本機の名称を設定します。	134
	MusicCast Link 電源連動		本機と MusicCast 対応機器の電源連動を設定します。	134
Bluetooth 設定	Bluetooth		Bluetooth 機能を有効 / 無効にします。	135
	音声受信	デバイス切断	Bluetooth 機器（スマートフォンなど）と本機との Bluetooth 接続を切断します。	135
		Bluetooth スタンバイ	Bluetooth 機器から本機の電源を入れる機能（Bluetooth スタンバイ）を有効にするかどうかを選択します。	135

メニュー	項目	説明	ページ
マルチゾーン設定	情報	本機のマルチゾーン情報を表示します。	136
	音量	ゾーン 2 出力の音量調節を有効 / 無効にします。	136
	音量の上限	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能なゾーン 2 の音量の上限値を設定します。	136
	音量の初期値	ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。	136
	音声の遅れ	ゾーン 2 の音声が出力されるタイミングを映像にあわせて調整します。	136
	ゾーン 2 設定		
	モノラル再生	ゾーン 2 に出力する音声信号をモノラル信号に変換するかどうかを設定します。	136
	エンハンサー	ゾーン 2 出力のミュージックエンハンサーを有効 / 無効にします。	137
	トーンコントロール	ゾーン 2 に出力する音声の高音域と低音域のバランスを調整します。	137
	エクストラベース	ゾーン 2 出力のエクストラベースを有効 / 無効にします。	137
	左右バランス	ゾーン 2 出力の音量バランスを調整します。	137
	音量	ゾーン 3 出力の音量調節を有効 / 無効にします。	136
	音量の上限	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能なゾーン 3 の音量の上限値を設定します。	136
	音量の初期値	ゾーン 3 の電源を入れたときの音量を設定します。	136
	音声の遅れ	ゾーン 3 の音声が出力されるタイミングを映像にあわせて調整します。	136
	ゾーン 3 設定		
	モノラル再生	ゾーン 3 に出力する音声信号をモノラル信号に変換するかどうかを設定します。	136
	エンハンサー	ゾーン 3 出力のミュージックエンハンサーを有効 / 無効にします。	137
	トーンコントロール	ゾーン 3 に出力する音声の高音域と低音域のバランスを調整します。	137
	エクストラベース	ゾーン 3 出力のエクストラベースを有効 / 無効にします。	137
	左右バランス	ゾーン 3 出力の音量バランスを調整します。	137
	ゾーン名変更	テレビ画面に表示されるゾーンの名称を変更します。	137
	パーティーモード設定	パーティーモードの対象ゾーンを選択します。	137

メニュー	項目		説明	ページ
システム設定	情報		本機のシステム情報を表示します。	138
	言語設定		テレビ画面の表示言語を設定します。	138
	入力端子割り当て		COMPONENT VIDEO(コンポーネント)、COAXIAL(同軸)、OPTICAL(光) を別の入力に割り当てます。	138
	入力スキップ		INPUT キーを操作した時にスキップする入力を設定します。	139
	入力名変更		本体前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、入力の名称を変更します。	139
	自動再生		インターネットラジオなどの自動再生を有効 / 無効にします。	140
	DSP スキップ		PROGRAM キーを操作した時にスキップする音場プログラムを設定します。	140
	リモコンキー	PROGRAM キー	リモコンの PROGRAM キーの機能を設定します。	140
		カラーキー	リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーに機能を設定します。	141
	表示設定	ディマー (前面ディスプレイ)	本体前面ディスプレイの明るさを調節します。	141
		音量	音量の表示方式を切り替えます。	141
		ショートメッセージ	本機を操作した際に、テレビ画面にショートメッセージを表示するかどうかを設定します。	141
		壁紙設定	テレビ画面表示の背景画像を選択します。	141
	トリガー出力 1	トリガーモード	トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。	141
		対象ゾーン	トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。	142
	トリガー出力 2	トリガーモード	トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。	141
		対象ゾーン	トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。	142
	エコ設定	自動スタンバイ	本機の電源を自動的にスタンバイにするまでの時間を設定します。	142
		エコモード	エコモード（消費電力の節約）を有効 / 無効にします。	142
	設定保護		設定を保護して、変更できないようにします。。	143
	ファームウェアアップデート		ネットワークを利用してファームウェアを更新します。	143

スピーカー設定

スピーカーの各種パラメーターを手動で設定します。



- 「パワーアンプ割り当て」で選択したスピーカーシステムにより、一部設定できない項目があります。
- 各項目の初期値には下線が付いています。



■ 設定パターン選択

2つのスピーカー設定パターンを登録して、使用するスピーカー設定を選択します。

選択した設定パターンに以下のスピーカー設定が登録されます。

- パワーアンプ割り当て
- 構成
- 距離
- 音量
- パラメトリックイコライザー
- YPAO 測定結果

設定値
パターン1、パターン2



- 設定パターンの番号は右側の図の中央に表示されます。
- この機能を使用すると、好みのスピーカー設定を2パターン登録し、視聴環境に応じて簡単に切り替えることができます。たとえば、カーテンの開閉状態によりスピーカー設定を使い分けたい場合などにご利用ください。

■ 設定データコピー

「設定パターン選択」に登録されているスピーカー設定をコピーします。

選択項目

パターン1>2	「パターン1」のスピーカー設定を「パターン2」にコピーする。
パターン2>1	「パターン2」のスピーカー設定を「パターン1」にコピーする。

■ パワーアンプ割り当て

使用するスピーカーシステムを選択します。

本機は9チャンネルのアンプを内蔵しています。ご使用になる環境や楽しみ方にあわせて、2～11本のスピーカーと最大2台のサブウーファー（アンプ内蔵）を接続できます。さらに、バイアンプ接続、チャンネル拡張（外部パワーアンプ接続）、マルチゾーン接続を使った応用的なスピーカーシステムにも対応しています。

設定値

Basic	標準的なスピーカーシステム（最大9チャンネル+リアプレゼンスなど）を使う場合に選択する（21ページ）。
7.2+1Zone	メインゾーンの7.2システムに加えて、ゾーン2（またはゾーン3）スピーカーを使う場合に選択する（31ページ）。 EXTRA SP1端子に割り当てるゾーンを選択できます（初期値:ゾーン2）。
7.2.2+1Zone	メインゾーンの7.2.2システムに加えて、ゾーン2（またはゾーン3）スピーカーを使う場合に選択する（31ページ）。 EXTRA SP2端子に割り当てるゾーンを選択できます（初期値:ゾーン2）。
7.2+2Zone	メインゾーンの7.2システムに加えて、ゾーン2およびゾーン3スピーカーを使う場合に選択する（32ページ）。 EXTRA SP1～2端子に割り当てるゾーンを選択できます（初期値:EXTRA SP1端子がゾーン2、EXTRA SP2端子がゾーン3）。
7.2.4 [ext.RP]	(RX-A3080のみ) 7.2.4システム（外部パワーアンプを使ってリアプレゼンスチャンネルを拡張）を使う場合に選択する（32ページ）。
7.2.4 [ext.Front]	(RX-A3080のみ) 7.2.4システム（外部パワーアンプを使ってフロントチャンネルを拡張）を使う場合に選択する（33ページ）。
7.2.4 [ext.FP+RP]	(RX-A3080のみ) 7.2.4システム（外部パワーアンプを使ってフロントプレゼンスとリアプレゼンスチャンネルを拡張）を使う場合に選択する（33ページ）。
7.2.2 [ext.Front]+1Zone	メインゾーンの7.2.2システム（外部パワーアンプを使ってフロントチャンネルを拡張）に加えて、ゾーン2（またはゾーン3）スピーカーを使う場合に選択する（34ページ）。 EXTRA SP2端子に割り当てるゾーンを選択できます（初期値:ゾーン2）。

7.2 [ext.Front] +2Zone	メインゾーンの 7.2 システム（外部パワーアンプを使ってフロントチャンネルを拡張）に加えて、ゾーン 2 およびゾーン 3 スピーカーを使う場合に選択する（34 ページ）。 EXTRA SP1 ～ 2 端子に割り当てるゾーンを選択できます（初期値:EXTRA SP1 端子がゾーン 2、EXTRA SP2 端子がゾーン 3）。
7.2 Bi-Amp	7.2 システム（フロントをバイアンプ接続）を使う場合に選択する（35 ページ）。
5.2.2 Bi-Amp	5.2.2 システム（フロントをバイアンプ接続）を使う場合に選択する（35 ページ）。
7.2 Bi-Amp +1Zone	メインゾーンの 7.2 システム（フロントをバイアンプ接続）に加えて、ゾーン 2（またはゾーン 3）スピーカーを使う場合に選択する（36 ページ）。 EXTRA SP2端子に割り当てるゾーンを選択できます（初期値:ゾーン2）。
7.2.4 Bi-Amp [ext.FP+RP]	(RX-A3080 のみ) 7.2.4 システム（フロントをバイアンプ接続、外部パワーアンプを使ってフロントプレゼンスとリアプレゼンスチャンネルを拡張）を使う場合に選択する（36 ページ）。
5.2.4 Bi-Amp [ext.RP]	(RX-A3080 のみ) 5.2.4 システム（フロントをバイアンプ接続、外部パワーアンプを使ってリアプレゼンスチャンネルを拡張）を使う場合に選択する（37 ページ）。

■ 構成

スピーカーの出力特性を設定します。



- 使用するスピーカーのウーファー部口径が **16cm** 以上の場合は「大」、**16cm** 未満の場合は「小」を目安に設定してください。
- スピーカーサイズで「小」を選択時、カーソルキーで「クロスオーバー」を設定できます。「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声はサブウーファーから、高い周波数の音声は該当スピーカーから出力されます。

フロント

フロントスピーカーのサイズを選択します。

設定値

大	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。 フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。
小	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。



- 「サブウーファー 1」と「サブウーファー 2」の両方が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。

センター

センタースピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	センタースピーカーが大きい場合に選択する。 センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
小	センタースピーカーが小さい場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。
無	センタースピーカーを接続しない場合に選択する。 センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

サラウンド

サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
小	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。
無	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力され、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP に切り替わります。

設定値

後方	サラウンドスピーカーを部屋の後方に配置する場合に選択する。
前方	サラウンドスピーカーを部屋の前方に配置する場合に選択する。この場合、バーチャルシネマフロント（73 ページ）が機能します。



- ・「構成（サラウンド）」が「無」の場合は設定できません。

サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	大きいサラウンドバックスピーカーを接続している場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの全帯域がサラウンドバックスピーカーから出力されます。
小	小さいサラウンドバックスピーカーを接続している場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーから出力されます（初期値：80Hz）。
無	サラウンドバックスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドバックチャンネルの音声はサラウンドスピーカーから出力されます。



- ・「サラウンド」が「無」または「配置（サラウンド）」が「前方」の場合は設定できません。

フロントプレゼンス

フロントプレゼンススピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	フロントプレゼンススピーカーが大きい場合に選択する。
小	フロントプレゼンススピーカーが小さい場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます（初期値：80Hz）。
無	フロントプレゼンススピーカーを接続しない場合に選択する。

設定値

フロントハイト	フロントプレゼンススピーカーが前方の壁に設置されている場合に選択する。
オーバーヘッド	フロントプレゼンススピーカーが天井に設置されている場合に選択する。
ドルビーイネーブルド SP	ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）をフロントプレゼンススピーカーとして使用する場合に選択する。



- ・「構成（フロントプレゼンス）」が「無」の場合は設定できません。
- ・プレゼンススピーカー使用時の Dolby Atmos コンテンツの再生については、「プレゼンススピーカーの配置」（25 ページ）をご覧ください。

リアプレゼンス

リアプレゼンススピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

大	リアプレゼンススピーカーが大きい場合に選択する。
小	リアプレゼンススピーカーが小さい場合に選択する。 「クロスオーバー」の設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます（初期値：80Hz）。
無	リアプレゼンススピーカーを接続しない場合に選択する。

設定値

リアハイト	リアプレゼンススピーカーが後方の壁に設置されている場合に選択する。
オーバーヘッド	リアプレゼンススピーカーが天井に設置されている場合に選択する。
ドルビーイネーブルド SP	ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）をリアプレゼンススピーカーとして使用する場合に選択する。



- 「構成（サラウンド / フロントプレゼンス / リアプレゼンス）」が「無」の場合は設定できません。
- プレゼンススピーカー使用時の Dolby Atmos コンテンツの再生については、「プレゼンススピーカーの配置」（25 ページ）をご覧ください。

サブウーファー 1、サブウーファー 2

サブウーファーの有無（SUBWOOFER1 ～ 2 端子への接続）や位相を選択します。

設定値

使用する	正相	SUBWOOFER1 端子または SUBWOOFER2 端子にサブウーファーを接続している場合に選択する（位相を反転しない）。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声サブウーファーから出力されます。
	逆相	SUBWOOFER1 端子または SUBWOOFER2 端子にサブウーファーを接続している場合に選択する（位相を反転する）。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声サブウーファーから出力されます。
使用しない		SUBWOOFER1 端子または SUBWOOFER2 端子にサブウーファーを接続しない場合に選択する。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。



- 視聴位置で低音が弱く感じるときに、位相を変更すると改善される場合があります。

設定値

左右配置	2 台のサブウーファーを部屋の左右に配置する場合に選択する。
前後配置	2 台のサブウーファーを部屋の前後に配置する場合に選択する。
モノラル 2 台	配置を指定せずに、2 台のサブウーファーを任意の位置に置く場合に選択する。



- 「サブウーファー 1」または「サブウーファー 2」が「使用しない」の場合は設定できません。

■ 距離

スピーカーの距離を個別に設定して、各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように調節します。最初に表示単位（メートルまたはフィート）を選んでください。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、フロントプレゼンス左、フロントプレゼンス右、リアプレゼンス左、リアプレゼンス右、サブウーファー 1、サブウーファー 2

設定値

0.30m ～ 3.00m ～ 24.00m（1.0ft ～ 10.0 ft ～ 80.0ft）、0.05m（0.2ft）単位

■ 音量

スピーカーの音量を個別に調節します。

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サラウンドバック左、サラウンドバック右、フロントプレゼンス左、フロントプレゼンス右、リアプレゼンス左、リアプレゼンス右、サブウーファー 1、サブウーファー 2

設定値

-10.0dB ～ 0.0dB ～ +10.0dB（0.5dB 単位）

■ パラメトリックイコライザー

イコライザーを使って音色を調節します。

設定値

手動編集	イコライザーを手動で調節する場合に選択する。 詳しくは「イコライザーの手動編集」をご覧ください（120 ページ）。
YPAO: フラット	各スピーカーの特性を均一に設定する。
YPAO: フロント近似	フロントスピーカーの特性に合わせて、各スピーカーの特性を設定する。
YPAO: ナチュラル	高域特性を下げた状態で揃えて、各スピーカーの音質を設定する。
使用しない	イコライザーを使用しない。



- 「YPAO: フラット」、「YPAO: フロント近似」、「YPAO: ナチュラル」は、「YPAO」（50 ページ）の結果が保存されている場合に効果があります。これらの設定を選択後にもう一度 ENTER キーを押すと、測定結果を確認できます。

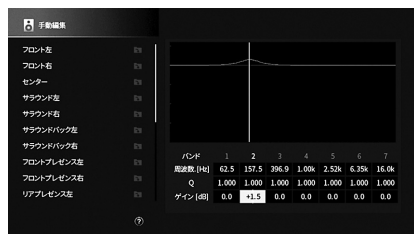
■ イコライザーの手動編集

- 1 「パラメトリックイコライザー」で「手動編集」を選び、ENTER キーを押す。
- 2 もう一度 ENTER キーを押して、編集画面を表示する。
- 3 カーソルキーでスピーカーを選び、ENTER キーを押す。



- すべてのスピーカーの設定を初期値に戻すには、カーソルキーで「PEQ データクリア」を選び ENTER を押し、「OK」を選択します。
- 「PEQ データコピー」を使うと、「YPAO: フラット」、「YPAO: フロント近似」、「YPAO: ナチュラル」の値を、「手動編集」の編集画面にコピーできます。「YPAO」の結果を微調整する場合にご利用ください。

- 4 カーソルキーであらかじめ設定されている7つのバンド（サブウーファーは4つ）から調節したいバンドを選ぶ。



- 5 中心周波数やQファクター（バンド幅）、ゲイン（レベルの強さ）を微調節したい場合は、カーソルキーで項目を選び、次のように操作する。

周波数：カーソルキーで選択中の「バンド」の中心周波数を調節する。

Q：カーソルキーで選択中の「バンド」のQファクター（バンド幅）を調節する。

ゲイン：カーソルキーで選択中の「バンド」のゲイン（レベルの強さ）を調節する。

設定値

中心周波数：15.6Hz ～ 16.0kHz（サブウーファーは 15.6Hz ～ 250.0Hz）

Q ファクター：0.500 ～ 10.08

ゲイン：-20.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

- 6 終了するには、SETUP キーを押す。

■ テストトーン

テストトーン出力を有効 / 無効にします。テストトーンを出力すると、実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節できます。

設定値

オフ	テストトーンを出力しない。
オン	スピーカーの音量やイコライザーを調節する際に、テストトーンを自動的に出力する。

■ YPAO 測定結果

「YPAO 測定結果」で前回の調整内容（「結線確認」、「大きさ判定」、「距離補正」、「音量調整」、「角度（水平角）」、「高さ」を追加願います。）を確認することができます。

手動で調整したスピーカー設定が適切でない場合は、手動設定を破棄して前回の YPAO 測定結果を呼び出して適用することができます。

前回の測定結果の呼び出し

- 1 カーソルキーで「設定の呼び出し」を選ぶ。
- 2 ENTER キーを押す。
- 3 SETUP キーを押す。

調整

「自動 / 手動選択」を「手動補正」に設定時、映像と音声のずれを手動で調整します。
「自動補正」に設定時は、自動補正の値を微調整できます。



設定値

0ms ~ 500ms (1ms 単位)



- ・「自動 / 手動選択」を「自動補正」に設定時は、調整画面にオフセット（自動補正の値と微調整した値の差）が表示されます。
- ・オプションメニューの「リップシンク」(106 ページ) でも映像と音声のずれを調整できます。
- ・設定値はテレビを接続している出力（HDMI OUT1、HDMI OUT2、HDMI OUT3、アナログ）ごとにそれぞれ記憶されます。

■ DSP パラメーター

音場プログラムの設定を変更します。

エフェクト量の加減

音場プログラムのエフェクト量（音場効果のかかり具合）を調整します。

設定値

-6dB ~ +3dB (1dB 単位)



- ・サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- ・初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

ディレイ

直接音からプレゼンス音場が生じるまでの時間を調節します。プレゼンス音場は前方に生成されます。値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。

設定値

1ms ~ 99ms



- ・サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- ・初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

音場空間の大きさ

プレゼンス音場の広がり感を調節します。プレゼンス音場は前方に生成されます。値を大きくすると広がり感が増し、小さくすると減少します。

設定値

0.1 ~ 2.0



- ・サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- ・初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

響きの強さ

プレゼンス音場の減衰量を調節します。プレゼンス音場は前方に生成されます。値を大きくすると残響音の余韻が強くなり、小さくすると弱くなります。

設定値

0 ~ 10



- ・サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- ・初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

残響時間

残響音の減衰時間を調節します。値を大きくすると残響音が豊かになり、小さくするとすっきりとします。

設定値

1.0s ～ 5.0s



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

残響音の遅れ

直接音から残響音が生じるまでの時間を調節します。値を大きくすると残響音の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。

設定値

0ms ～ 250ms



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

残響音の強さ

残響音の余韻の強さを調節します。値を大きくすると反響が増し、小さくすると減少します。

設定値

0% ～ 100%



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

サラウンド音場の遅れ

直接音からサラウンド音場が生じるまでの時間を調節します。サラウンド音場は後方左右に生成されます。値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。

設定値

1ms ～ 49ms



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

サラウンド音場の広さ

サラウンド音場の広がり感を調節します。サラウンド音場は後方左右に生成されます。値を大きくすると広がり感が増し、小さくすると減少します。

設定値

0.1 ～ 2.0



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

サラウンド音場の響き

サラウンド音場の減衰量を調節します。サラウンド音場は後方左右に生成されます。値を大きくすると反響が増し、小さくすると減少します。

設定値

0 ～ 10



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

サラウンドバックの遅れ

直接音からサラウンドバック音場が生じるまでの時間を調節します。サラウンドバック音場は後方に生成されます。値を大きくすると音場の発生が遅くなり、小さくすると早くなります。

設定値

1ms ～ 49ms



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

サラウンドバックの広さ

サラウンドバック音場の広がり感を調節します。サラウンドバック音場は後方に生成されます。値を大きくすると広がり感が増し、小さくすると減少します。

設定値

0.1 ～ 2.0



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

サラウンドバックの響き

サラウンドバック音場の減衰量を調節します。サラウンドバック音場は後方に生成されます。値を大きくすると反響が増し、小さくすると減少します。

設定値

0 ～ 10



- サウンドプログラムによって利用できる項目が異なります。
- 初期値設定に戻すには、「リセット」を選択します。

■ サウンドデコーダー

サウンドデコーダーを設定します。

デコーダー選択

選択した音場プログラムと組み合わせて使用するサラウンドデコーダーを設定します。

設定値

Auto、 Dsur、Neural:X、Neo:6 Cinema、Neo:6 Music

センタースプレッド

サラウンドデコーダーとして「 Dsur」を選択した場合に、2チャンネルソース再生でセンターチャンネル音声を左右に振り分けるか設定します。

設定値

オフ	センタースプレッドを無効にする。
オン	センタースプレッドを有効にする。



- センターからの音声を強く感じる場合は、「オン」に設定してください。

センターイメージ

サラウンドデコーダーとして「Neo:6 Music」を選択した場合に、フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増加します。

設定値

0.0 ～ 0.3 ～ 1.0

■ 9ch ステレオ

音量設定を調整します。

レベル

全体の音量を調節します。この設定は「9ch ステレオ」を選択した場合に有効です。

設定値

-5 ~ 0 ~ 5

前後バランス

前後の音量バランスを調節します。値が大きいかほど前方の音量が大きくなり、値が小さいほど後方の音量が大きくなります。この設定は「9ch ステレオ」を選択した場合に有効です。

設定値

-5 ~ 0 ~ 5

左右バランス

左右の音量バランスを調節します。値が大きいかほど右方向の音量が大きくなり、値が小さいほど左方向の音量が大きくなります。この設定は「9ch ステレオ」を選択した場合に有効です。

設定値

-5 ~ 0 ~ 5

高さバランス

プレゼンスピーカーを使用する場合、音声の上下方向の高さを調節します。値が大きいかほど音声の位置が上になり、値が小さいほど音声の位置が下になります。この設定は「9ch ステレオ」を選択した場合に有効です。

設定値

0 ~ 5 ~ 10



- ・「高さバランス」を「0」に設定すると、プレゼンスピーカーは消音します。

モノラルミックス

音声をモノラルにミックスします。この設定は「9ch ステレオ」を選択した場合に機能します。

設定値

オフ	音声をモノラルミックスして出力しない。
オン	音声をモノラルミックスして出力する。

リセット

すべての設定を初期値に戻します。

■ ダイナミックレンジ

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。

設定値

最大	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
最小 / 自動	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。 Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

■ ボリューム

音量を設定します。

音量の上限

音量操作時に調節可能な音量の上限値を設定します。

設定値

-60.0dB ~ +15.0dB (5.0dB 単位)、+16.5dB [20.5 ~ 95.5 (5.0 単位) 、97.0]

音量の初期値

電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

オフ	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
オン	ミュート、または指定した音量 (-80.0dB ~ +16.5dB、0.5dB 単位) [0.5 ~ 97.0 (0.5 単位)] に固定する。 (「音量の上限」より低い値に設定してください。)

■ ピュアダイレクトモード

ピュアダイレクト（75 ページ）が有効なときに映像信号を出力するかどうかを設定します。

設定値

	映像信号を出力する。
<u>自動</u>	選択した入力の映像や画面表示が自動的に表示されます。 映像信号が入力されていない場合は、壁紙が表示されます。
ビデオ オフ	映像信号を出力しない（壁紙も表示しない）。

■ アダプティブ DSP レベル

音場プログラムのエフェクト量を自動的に調節するかどうかを設定します。

設定値

オフ	音場プログラムのエフェクト量を自動的に調節しない。
<u>オン</u>	YPAO の測定結果および音量調節に応じて、音場プログラムのエフェクト量を自動的に調節する。

■ バーチャルスピーカー

バーチャルスピーカーを設定します。

VPS

フロント、センター、サラウンドスピーカーを使ってバーチャルプレゼンススピーカー（VPS）を創り出すかどうかを設定します。VPS を有効にすると、フロントプレゼンススピーカーが接続されていない場合でも、本機はフロント、センター、サラウンドスピーカーを使って前方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出します。また、フロントプレゼンススピーカーが接続されていれば、リアプレゼンススピーカーがなくても、後方にバーチャルプレゼンススピーカーを創り出します（71 ページ）。

設定値

オフ	バーチャルプレゼンススピーカー（VPS）を無効にする。
<u>オン</u>	バーチャルプレゼンススピーカー（VPS）を有効にする。



- サラウンドスピーカーを設置した高さによっては、VPS の効果が得られない場合があります。その場合は VPS を無効にしてください。

VSBS

サラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を創り出すかどうかを設定します。VSBS を有効にすると、サラウンドバックスピーカーが接続されていない場合でも、本機はサラウンドスピーカーを使ってバーチャルサラウンドバックスピーカーを創り出します。

設定値

オフ	バーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を無効にする。
<u>オン</u>	バーチャルサラウンドバックスピーカー（VSBS）を有効にする。



- VSBS は 6.1/7.1 チャンネルソースの再生時のみ効果があります。

■ ウルトラロージッター PLL モード

（RX-A3080 のみ）

ジッター除去機能を有効 / 無効にします。

対象の入力

AV1～7、AUDIO1～4（デジタル音声入力端子が割り当てられている場合のみ設定可）、SERVER、NET RADIO、Spotify、radiko.jp、Deezer、AirPlay、MusicCast Link、Bluetooth、USB

設定値

オフ	ジッター除去機能を無効にする。
<u>レベル 1、レベル 2、 レベル 3</u>	ジッター除去機能を有効にする。 レベルを上げると、DA 変換の精度が向上しますが、再生機器によっては音声クロックの周波数や変動量により音が途切れることがあります。その場合はレベルを下げてご使用ください。

■ DAC デジタルフィルター

(RX-A3080 のみ)

デジタル-アナログ変換で使用するデジタルフィルターの種類を切り替えて、好みの音質傾向を選択します。

設定値

シャープロールオフ型	急峻な特性のフィルターを使って帯域外ノイズを除去する。 クリアな傾向の音質になります。
スローロールオフ型	なだらかな特性のフィルターを使って帯域外ノイズを除去する。 ソフトな傾向の音質になります。
ショート レーテンシー型	内蔵デジタルフィルターによる音の遅延を最小化する。 音の立ち上がりが早く、リズムカルな傾向の音質になります。

■ バランス入力アッテネーター

(RX-A3080 のみ)

バランス入力のアッテネーター機能を有効 / 無効にします。有効にすると、バランス入力端子 (AUDIO4) に大きなレベルの信号が入力されたときに、信号レベルを下げて音が歪むのを防ぐことができます。

AUDIO4 端子 (44 ページ) に、3V (実効値) 以上の信号を出力するオーディオ機器を接続する場合は、アッテネーター機能を有効にしてください。

対象の入力
AUDIO4

設定値

バイパス	バランス入力のアッテネーター機能を無効にする。
ATT. (-6dB)	バランス入力のアッテネーター機能を有効にして信号レベルを下げる (-6dB)。

シーン設定

シーン機能に関する設定を変更します。

■ シーン設定

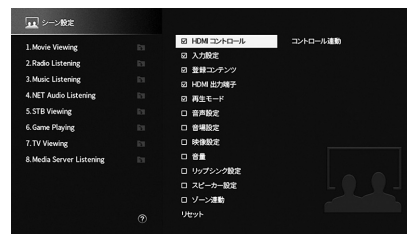
シーンで呼び出す設定項目を選択します。また、各シーンに現在登録されている内容を確認できます。



- シーンの割り当ては、ラジオ局、USB、Bluetooth およびネットワークデバイスのコンテンツを含めることができます。

■ 手順

- カーソルキーでシーン名を選び、ENTER キーを押す
- 設定項目を追加するには、カーソルキーで項目を選び、ENTER キーを押してチェックボックスにチェックを入れます。
チェックを外すと設定項目から除外されます。



選択項目

HDMI コントロール	コントロール連動
入力設定	入力 (110 ページ)、音声入力選択 (107 ページ)
登録コンテンツ	[入力が TUNER、Spotify、radiko.jp、Deezer、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB の場合] 放送局、音楽コンテンツ [入力が上記以外の場合] ---
HDMI 出力端子	出力端子 (68 ページ)
再生モード	DSP プログラム (70 ページ)、ピュアダイレクトモード (126 ページ)、エンハンサー (75 ページ)、ハイレゾモード (107 ページ)、SURROUND:AI (71 ページ)
音声設定	トーンコントロール (105 ページ)、YPAO ボリューム (105 ページ)、アダプティブ DRC (105 ページ)、エクストラベース (107 ページ)
音場設定	セリフ位置調整 (106 ページ)、セリフ音量調整 (106 ページ)、サブウーファーレベル補正 (107 ページ)
映像設定	ビデオモード (129 ページ)、ビデオ画質調整 (108 ページ)
音量	マスターボリューム (68 ページ)
リップシンク設定	リップシンク設定 (121 ページ)、ディレイ (121 ページ)
スピーカー設定	設定パターン選択 (116 ページ)、パラメトリックイコライザー (119 ページ)
ゾーン連動	電源 (98 ページ)、入力 (98 ページ)、音量 (98 ページ)

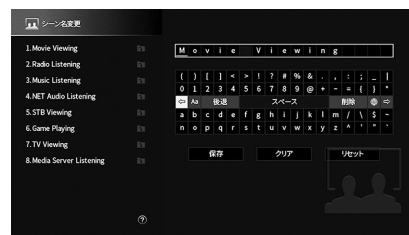


- 選択したシーンの設定を初期値に戻すには、「リセット」を選び、ENTER キーを押します。
- HDMI コントロールのコントロール連動を使用するには、HDMI コントロールを有効にする必要があります。詳しくは「HDMI コントロール」(131 ページ) をご覧ください。

■ シーン名変更

前面ディスプレイやテレビ画面に表示するシーンの名称を変更します。

- 1 カーソルキーでシーン名を選び、ENTER キーを押す。
- 2 カーソルキーと ENTER キーで名称を変更し、「保存」を選んで ENTER キーを押す。



- 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。
- 初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

- 3 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

ビデオ /HDMI 設定

映像出力に関する設定を変更します。

■ 情報

映像信号および HDMI 信号に関する情報が表示されます。

項目

HDMI 信号	HDMI 信号の入出力の有無
HDMI 解像度	入力信号（アナログまたは HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度
HDMI モニター ビデオ解像度	テレビが対応している解像度



■ ビデオモード

映像の信号処理（解像度、アスペクト比、画質調整）を有効 / 無効にします。

設定値

<u>ダイレクト</u>	映像の信号処理を無効にする。
信号処理	映像の信号処理を有効にする。 「解像度」、「アスペクト」、「画質調整」の設定が適用されます。



- 「ダイレクト」に設定時は、映像信号出力の遅延を低減するため、各種の映像処理回路をバイパスして映像信号が伝送されます。

解像度

「ビデオモード」を「信号処理」に設定時、出力する HDMI 映像信号の解像度を選択します。

設定値

変換しない	解像度を変換しない。
<u>自動判別</u>	出力先のテレビの解像度に自動的に合わせる。
480p、720p、 1080i、1080p、4K	指定した解像度に変換する。 (テレビが対応している解像度のみ選択可)



- テレビが対応していない解像度で出力するには、アドバンスドセットアップメニューの「MONITOR CHECK」で「SKIP」を選んでから（145 ページ）、解像度を設定してください。（映像がテレビ画面に正しく表示されなくなる場合があります。）

アスペクト

「ビデオモード」を「信号処理」に設定時、出力する HDMI 映像信号のアスペクト比（縦横比）を選択します。

設定値

<u>変換しない</u>	アスペクト比を変換しない。
16:9 ノーマル	4 : 3 の映像の左右に黒い帯をつけて、16 : 9 のテレビに合わせる。



- 解像度が 480i、480p の映像信号を 720p、1080i、1080p または 2160p（4K）に変換時のみ有効です。

画質調整

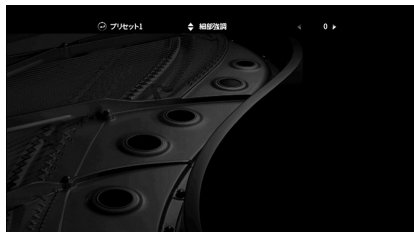
「ビデオモード」を「信号処理」に設定時、画質を調整します。調整した画質はプリセット番号（1～6）に登録されます。



- 画質調整は入力されている映像信号の解像度が 1080p 以下の場合のみ機能します。

■ 手順

- カーソルキーでプリセット番号を選び、ENTER キーを押す。
- カーソルキーで設定項目を選ぶ。



- カーソルキーで設定値を選ぶ。
- 終了するには、SETUP キーを押す。

細部強調

画像細部の強調効果を調整します。

設定値

0 ～ 50

エッジ強調

画像のエッジの強調効果を調整します。

設定値

0 ～ 50

ブライトネス

画像の明るさを調整します。

設定値

-100 ～ 0 ～ +100

コントラスト

画像のコントラスト（明暗差）を調整します。

設定値

-100 ～ 0 ～ +100

色の濃さ

画像の色の濃さを調整します。

設定値

-100 ～ 0 ～ +100

■ HDMI コントロール

HDMI に関する設定を変更します。

HDMI コントロール

HDMI コントロール（164 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	HDMI コントロールを無効にする。
オン	HDMI コントロールを有効にする。 「TV 音声入力」、「ARC」、「スタンバイ連動」の設定が適用されます。



- 「HDMI コントロール」を「オン」に設定しただけでは、HDMI コントロールは機能しません。
HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を本機に接続後、連動設定が必要になります（164 ページ）。

TV 音声入力

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

設定値

AUDIO1 ～ 3

初期値

AUDIO1



- ARC 使用時は、ここで選択した入力テレビ音声入力用として使用されます。

ARC

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、ARC（166 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	ARC を無効にする。
オン	ARC を有効にする。



- 通常は「オン」（初期値）から変更する必要はありません。テレビ音声の再生時にノイズが発生する場合のみ、「オフ」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。

スタンバイ連動

「HDMI コントロール」を「オン」に設定時、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。

設定値

オフ	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
オン	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
自動	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

■ HDMI 音声出力

「HDMI コントロール」（164 ページ）を有効・無効にします。



- 「HDMI OUT1」は、「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ設定できます。

HDMI OUT1、HDMI OUT2、HDMI ZONE OUT

音声を HDMI OUT 1 端子、HDMI OUT 2 端子または HDMI ZONE OUT 端子に接続したテレビから出力するかどうかを設定します。

設定値

オフ	テレビから出力しない。
オン	テレビから出力する。



- 本機の電源が入っているときは、HDMI OUT1～2端子からの出力音声は2チャンネル信号になります。

■ HDMI ZONE OUT 割り当て

HDMI OUT3（ZONE OUT）端子の割り当てを選択します。

設定値

ゾーン 2、ゾーン 4



- 各ゾーンに出力できる音声信号については「マルチゾーン出力」（164 ページ）をご覧ください。

■ HDCP バージョン

4K 映像を視聴するために、HDMI 入力端子の HDCP バージョンを設定します。

設定値	
AV1-7	
設定値	
自動	コンテンツに応じて HDCP のバージョンを自動設定する。
1.4	HDCP をバージョン 1.4 に固定する。

■ HDMI スタンバイスルー

本機がスタンバイ時、HDMI 端子から入力された音声 / 映像をテレビに出力するかどうかを設定します。「オン」または「自動」に設定すると、本機がスタンバイ時でも入力選択キーで AV1-7 を選べます。（入力選択時に本体前面のスタンバイ表示が点滅します。）

設定値	
オフ	テレビに出力しない。 （「HDMI コントロール」が「オフ」の場合のみ選択可）
オン	テレビに出力する。 （「オフ」に設定時より電力を消費します。）
自動	テレビに出力する。 （入力信号が無い状態が続くと、本機が自動的に省電力モードに切り替わります。）

ネットワーク設定

ネットワークに関する設定を変更します。

■ 情報

本機のネットワーク情報を表示します。

項目	
IP アドレス	本機の IP アドレス
サブネットマスク	サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレス
DNS サーバー (P)	プライマリー DNS サーバーの IP アドレス
DNS サーバー (S)	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレス
MAC アドレス (イーサネット)	MAC アドレス
MAC アドレス (Wi-Fi)	
ネットワーク名	ネットワーク名（ネットワーク上で使用する本機の名称）
MusicCast ネットワーク	MusicCast ネットワークへの登録状態
有線 / 無線	有線または無線の接続状態
SSID	（無線接続 [Wi-Fi] を使用時） 無線ネットワークの SSID



■ ネットワーク接続

ネットワークへの接続方法を設定します。

設定値

有線	市販のネットワークケーブルを使って（47 ページ）、本機をネットワークに接続する場合に選択する。
無線（Wi-Fi）	無線ルーター（アクセスポイント）を経由して、本機をネットワークに接続する場合に選択する。詳しくは「無線ネットワークに接続する」（61 ページ）をご覧ください。

■ IP アドレス

ネットワーク情報（IP アドレスなど）を設定します。

DHCP

DHCP サーバーを使用するかどうかを設定します。

設定値

オフ	DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する。詳しくは「ネットワーク情報の手動設定」（133 ページ）をご覧ください。
オン	DHCP サーバーを使用して、本機のネットワーク情報（IP アドレスなど）を自動的に取得する。取得したネットワーク情報は、設定メニューの「ネットワーク設定」（132 ページ）で確認できます。

■ ネットワーク情報の手動設定

- 1 「DHCP」で「オフ」を選ぶ。
- 2 カーソルで「IP アドレス」を選び、ENTER を押す。
- 3 カーソルキーで設定する項目を選び、ENTER キーを押す。

IP アドレス	IP アドレスを設定する。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定する。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（P）	プライマリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。
DNS サーバー（S）	セカンダリー DNS サーバーの IP アドレスを設定する。

- 4 カーソルキーで変更したい位置を選び、数値を変更する。

- 5 ENTER キーで設定値を確定する。
- 6 別の項目を設定するには、手順 3 ～ 5 を繰り返す。
- 7 SETUP キーを押して終了する。

■ ネットワークスタンバイ

ネットワーク機器から本機の電源を入れる機能（ネットワークスタンバイ）を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	ネットワークスタンバイを無効にする。
オン	ネットワークスタンバイを有効にする。 （「オフ」に設定時より電力を消費します。）
自動	ネットワークスタンバイを有効にする。 （「ネットワーク接続」を「有線」に設定時、本機がネットワークから切断されると自動的に省電力モードに切り替わります。）



本製品は、先進的な省電力設計によりネットワークスタンバイ時の消費電力 2W 以下を実現しています。

■ MAC アドレスフィルター

MAC アドレスを指定して本機にアクセスできるネットワーク機器を制限します。

フィルター

MAC アドレスフィルターを有効 / 無効にします。

設定値

オフ	MAC アドレスフィルターを無効にする。
オン	MAC アドレスフィルターを有効にする。 「MAC アドレス 1-10」で指定した MAC アドレスを持つネットワーク機器だけが本機にアクセスできるようになります。



- AirPlay（92 ページ）や DMC（134 ページ）からの操作は制限されません。

MAC アドレス 1-10

「フィルター」を「オン」に設定時、本機へのアクセスを可能にするネットワーク機器の MAC アドレス（最大 10 個）を指定します。

■ 手順

- 1 カーソルキーで設定したい MAC アドレス番号を選び、ENTER キーを押す。
- 2 カーソルキーで変更したい位置を選び、数値を変更する。
- 3 ENTER キーを押して設定値を確定する。
- 4 別の MAC アドレスを設定するには、手順 1～3 を繰り返す。
- 5 SETUP キーを押して終了する。

■ DMC からの操作

Windows Media Player12 などから本機を操作するか設定します。デジタルメディアコントローラー（DMC）とは、ネットワーク上で他の機器を制御できる機器のことです。この機能を有効にすると、本機と同じネットワーク上にある DMC から直接本機の再生を操作できます。

設定値

無効	DMC からの操作を無効にする。
有効	DMC からの操作を有効にする。

■ AirPlay 音量連動

AirPlay 入力選択時に、本機と iTunes/iPhone の音量を連動させるか設定します。「オフ」以外に設定すると、iTunes/iPhone で本機の音量を調節できます。

設定値

オフ	iTunes/iPhone からの音量操作を無効にする。
制限あり	Mute および -80dB ～ -20dB の範囲で iTunes/iPhone からの音量操作を有効にする。
制限なし	Mute および -80dB ～ +16.5dB の範囲で iTunes/iPhone からの音量操作を有効にする。

■ ネットワーク名

ネットワーク上で使用する本機の名称を変更します。

■ 手順

- 1 ENTER キーを押す。
- 2 カーソルキーと ENTER キーで名称を変更する。



- ・入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。
- ・初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

- 3 カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。

■ MusicCast Link 電源連動

本機と MusicCast 対応機器の電源連動を有効 / 無効にします。有効にすると、MusicCast 使用時に親機（本機）の電源を入れると、子機（別の MusicCast 対応機器）の電源も入ります。

設定値

オフ	本機と MusicCast 対応機器の電源連動を無効にする。
オン	本機と MusicCast 対応機器の電源連動を有効にする。

Bluetooth 設定

Bluetooth 機能に関する設定を変更します。



Bluetooth

Bluetooth 機能（79 ページ）を有効 / 無効にします。

設定値	
オフ	Bluetooth 機能を無効にする。
オン	Bluetooth 機能を有効にする。

音声受信

Bluetooth 音声受信機能（Bluetooth 機器の音声を本機で受信時）に関する設定を変更します。

デバイス切断

Bluetooth デバイス（スマートフォンなど）と本機との Bluetooth 接続を切断します。

手順

- 「デバイス切断」を選択し、ENTER を押すと Bluetooth 接続が切断されます。



- Bluetooth 機器が未接続の場合、この機能は使用できません。

Bluetooth スタンバイ

Bluetooth 機器から本機の電源を入れる機能（Bluetooth スタンバイ）を有効 / 無効にします。有効にすると、Bluetooth 機器で接続操作を行ったときに自動的に本機の電源が入ります。

設定値

オフ	Bluetooth スタンバイを無効にする。
オン	Bluetooth スタンバイを有効にする。 （「オフ」に設定時より電力を消費します。）



- 「ネットワークスタンバイ」（133 ページ）が「オフ」の場合は設定できません。

マルチゾーン設定

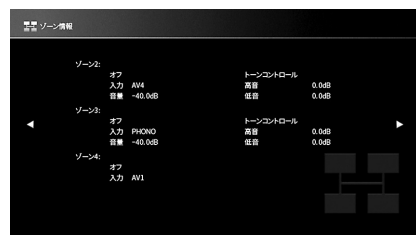
マルチゾーンに関する設定を変更します。

■ 情報

ゾーン 2 に関する情報を表示します。

項目

オン / オフ	ゾーン 2 の電源。
入力	ゾーン 2 で再生中の入力
音量	ゾーン 2 の音量
トーンコントロール	ゾーン 2 のトーンコントロール（高音、低音の音量）



■ ゾーン 2 設定、ゾーン 3 設定

ゾーン 2/ ゾーン 3 に関する設定を変更します。

音量

ゾーン 2/ ゾーン 3 出力の音量調節を有効 / 無効にします。
音量調節機能を持つ外部アンプを使用する場合は、「固定」に設定してください。

設定値

固定	ゾーン 2/ ゾーン 3 出力の音量調節を無効にする。
可変	ゾーン 2/ ゾーン 3 出力の音量調節を有効にする。



• 「パワーアンプ割り当て」(116 ページ) の設定値によっては、設定できません。

音量の上限

ゾーン 2/ ゾーン 3 の音量操作時に調節可能な音量の上限値を設定します。

設定値

-60.0dB ~ +15.0dB (5.0dB 単位)、+16.5dB [20.5 ~ 95.5 (5.0 単位)、97.0]



• 「音量」が「可変」の場合のみ設定できます。

音量の初期値

ゾーン 2/ ゾーン 3 の電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

オフ	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
オン	ミュート、または指定した音量 (-80.0dB ~ +16.5dB、0.5dB 単位) [0.5 ~ 97.0 (0.5 単位)] に固定する。(「音量の上限」より低い値に設定してください。)



• 「音量」が「可変」の場合のみ設定できます。

音声の遅れ

ゾーン 2/ ゾーン 3 の音声出力されるタイミングを映像にあわせて調整します。

設定値

0ms ~ 100ms (1ms 単位)

モノラル再生

ゾーン 2/ ゾーン 3 に出力する音声信号をモノラル信号に変換するかどうかを設定します。

設定値

オフ	モノラル信号に変換しない。
オン	モノラル信号に変換する。

エンハンサー

ゾーン 2/ ゾーン 3 出力のミュージックエンハンサー (75 ページ) を有効 / 無効にします。

設定値

オフ	ミュージックエンハンサーを無効にする。
オン	ミュージックエンハンサーを有効にする。

トーンコントロール

ゾーン 2/ ゾーン 3 に出力する音声の高音域と低音域のバランスを調整します。

設定値

自動	メインゾーンの音量に同期しながら高音域と低音域のバランスを自動的に調整する。
手動	高音域と低音域のバランスを手動で調整する (-6.0 ~ +6.0dB、0.5dB 単位)。
バイパス	高音域と低音域のバランスを調整しない。

エクストラベース

ゾーン 2/ ゾーン 3 出力のエクストラベースを有効 / 無効にします。有効にすると、スピーカーの大きさに関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

設定値

オフ	エクストラベースを無効にする。
オン	エクストラベースを有効にする。

左右バランス

ゾーン 2/ ゾーン 3 スピーカー (左 / 右) の音量バランスを調整します。

設定値

-20 ~ 0 ~ +20 (値が小さいほど左側、値が大きいほど右側の音量が大きくなります。)

■ ゾーン名変更

前面ディスプレイやテレビ画面に表示される、ゾーン名称を変更します。

■ 手順

- 1 カーソルキーで名称を変更したいゾーンを選び、ENTER キーを押す。
- 2 カーソルキーと ENTER キーで名称を変更する。



- 入力した内容をすべて消去するには、「クリア」を選びます。
- 初期値に戻すには、「リセット」を選びます。

- 3 カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。

■ パーティーモード設定

パーティーモード (99 ページ) の対象ゾーンを選択します。

選択項目

対象：ゾーン 2、対象：ゾーン 3、対象：ゾーン 4

設定値

無効	選択したゾーンをパーティーモードの対象にしない。 パーティーモード中でも該当ゾーンの音声は再生されます。
有効	選択したゾーンをパーティーモードの対象にする。 パーティーモード中はメインゾーンと同じ音声が発音され、再生されます。



- パーティーモードを使用しているときは、有効 / 無効の設定を変更できません。

システム設定

各種機能を設定します。

■ 情報

本機のシステム情報を表示します。

項目

リモート ID	本体側のリモコン ID 設定
TV フォーマット	本機のビデオ信号方式
スピーカー インピーダンス	本機のスピーカーインピーダンス設定
システム ID	システム認識番号
ファームウェア バージョン	本機にインストールされているファームウェアのバージョン

■ 言語設定

テレビ画面の表示言語を設定します。



設定値

英語、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、イタリア語、中国語



- 前面ディスプレイは常に英語で表示されます。

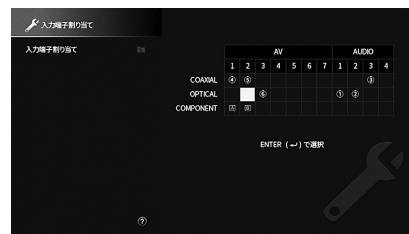
■ 入力端子割り当て

COMPONENT VIDEO（コンポーネント）、COAXIAL（同軸）、OPTICAL（光）端子を別の入力に割り当てます。

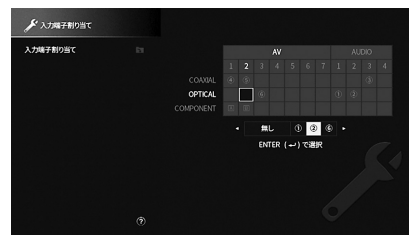
■ 手順

設定例：OPTICAL（②）端子を入力「AV2」に割り当てる場合

- 1 カーソルキーで「AV2」と「OPTICAL」の交差する箇所を選び、ENTER キーを押す。



- 2 カーソルキーで「②」を選び、ENTER キーを押す。



- 3 終了するには、SETUP キーを押す。



- COAXIAL（同軸）端子と OPTICAL（光）端子を同じ入力に割り当てることはできません。

■ 入力スキップ

INPUT キーを操作したときにスキップする入力を設定します。使用しない入力をスキップすることで、目的の入力を素早く選べます。



- ・「オン」に設定した入力は、AV CONTROLLER では選択できなくなります。

選択項目

AV1-7、AUX、AUDIO1 ～ 4*、PHONO、TUNER、NET、Bluetooth、USB

*AUDIO4：RX-A3080 のみ

設定値

オフ	スキップ設定しない。
オン	スキップ設定する。

■ 入力名変更（自動）

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を、接続した外部機器に応じて、本機が自動的に名称を生成します。

選択項目

AV1-7、AUDIO1 ～ 3

■ 手順

- 1 カーソルキーで名称を変更する入力を選ぶ。
- 2 カーソルキーで「自動」を選ぶ。
- 3 別の入力の名称を変更するには、手順 1 ～ 2 を繰り返す。
- 4 SETUP キーを押す。



- ・ 外部機器の接続を外しても入力名は保持されます。初期値に戻すには、一度「手動」に切り替えてから「自動」に戻してください。
- ・ AUDIO 1-3 は入力端子の割り当てがデジタル入力の場合のみ「自動」が選択できます。

■ 入力名変更（手動）

ディスプレイに表示する入力の名称を、手動で設定します。

選択項目

AV1-7、AUX、AUDIO1 ～ 4*、PHONO、TUNER、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

*AUDIO4：RX-A3080 のみ

■ 手順

- 1 カーソルキーで名称を変更する入力を選ぶ。



- ・ 入力に「自動」が設定されている場合は、カーソルキーで「手動」に変更します。

- 2 ENTER キーを押す。
- 3 カーソルキーや ENTER キーを使って名称を編集する。



- ・ 入力した内容を取り消すには、「クリア」を選択します。
- ・ 「リセット」を選択した場合は、入力の名称の初期値が表示されます。

- 4 カーソルキーで「保存」を選び、ENTER キーを押す。
- 5 別の入力の名称を変更するには、手順 1 ～ 4 を繰り返す。
- 6 SETUP キーを押す。

■ 自動再生

インターネットのストリーミングサービスなどのコンテンツに対して、自動再生を設定します。

選択項目

(ネットワークサービス)、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

設定値

オフ	自動再生しない。
オン	常に最後に再生していたコンテンツの自動再生を開始する。
自動	電源をスタンバイにしたときに再生中だった場合のみ、そのコンテンツの自動再生を開始する。



- ・「オン」、「自動」を選択できない入力があります。
- ・入力やコンテンツによっては、自動再生しない場合があります。

■ DSP スキップ

PROGRAM キーを操作した時にスキップする音場プログラムを設定します。使用しない音場プログラムをスキップすることで、目的の音場プログラムを素早く選べます。

設定値

オフ	音場プログラムをスキップしない。
オン	音場プログラムをスキップする。



- ・音場プログラムごとに個別に設定できます。

■ リモコンキー

リモコンキーの機能を設定します。

PROGRAM キー

リモコンの PROGRAM キーの機能を設定します。PROGRAM キーを、音場プログラムの選択以外に利用できます。

設定値

割り当て 1	音場プログラムやステレオ再生を選択する。
割り当て 2	音場プログラムのムービー / ミュージックのみを選択する。 PROGRAM キーの上キーを押すとムービーの中で切り替わり、下キーを押すとミュージックの中で切り替わります。
割り当て 3	ネットワーク入力を切り替える。
割り当て 4	ブラウズ画面のリストのページを切り替える。
割り当て 5	サブウーファースの音量を微調整する。
割り当て 6	中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整する。
割り当て 7	リピート / シャッフルを設定する。 PROGRAM キーの上キーを押すとリピート、下キーを押すとシャッフルの設定を切り替えます。
割り当て 8	本体前面ディスプレイ / テレビ画面に情報を表示する。 PROGRAM キーの上キーを押すと本体前面ディスプレイに情報を表示、下キーを押すとテレビ画面に情報を表示します。



- ・ここで設定を変更しても、本体前面の PROGRAM キーの機能は変更されません。

カラーキー

リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの機能を設定します。

設定値

初期値	HDMI で接続された AV 機器の機能にしたがう。 設定メニューの「HDMI コントロール」が「オン」に設定されている場合に有効です。
TV コントロール	カラーキーに TV コントロールの機能を割り当てる。 RED: 終了（テレビ画面のメニューを閉じる） GREEN: 情報（解像度などテレビに関する情報を表示する） YELLOW: 放送（テレビ放送のタイプを切り替える） BLUE: 入力（テレビの入力を切り替える） 設定メニューの「HDMI コントロール」が「オン」に設定されている場合に有効です。



- HDMI コントロール対応のテレビや AV 機器を本機に接続した場合、本機との連動設定が必要です。詳しくは「HDMI コントロール」(131 ページ) をご覧ください。
- HDMI コントロールや連動機能を設定しても、正しく機能しない場合があります。

■ 表示設定

前面ディスプレイおよびテレビ画面表示に関する設定を変更します。

ディマー（前面ディスプレイ）

前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定値

-4 ～ 0（値が大きいほど明るい）



- 「エコモード」(142 ページ) を「オン」に設定時は、前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。

音量

音量表示の単位を設定します。

設定値

dB	dB（デシベル）単位で表示する。
0-97	数値（0 ～ 97）で表示する。

ショートメッセージ

入力選択や音量調節など、本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージを表示するかどうかを設定します。

設定値

オン	テレビ画面にショートメッセージを表示する。
オフ	テレビ画面にショートメッセージを表示しない。

壁紙設定

テレビ画面表示の背景画像を選択します。

設定値

ピアノ	背景をピアノ画像に設定する。
グレー	背景をグレー（灰色）に設定する。

■ トリガー出力 1、トリガー出力 2

TRIGGER OUT1 ～ 2 端子に接続した機器の制御に関する設定をします。

トリガーモード

トリガー機能により本機と外部機器を連動させる動作を設定します。

設定値

パワー	「対象ゾーン」で設定したゾーンの電源操作に連動して、電気信号を出力 / 停止する。
ソース	「対象ゾーン」で設定したゾーンの入力選択に連動して、電気信号を出力 / 停止する。 入力ごとに電気信号の出力 / 停止を設定できます。詳しくは「ソース」(141 ページ) をご覧ください。
手動	電気信号を手動で出力 / 停止する。 詳しくは「手動」(142 ページ) をご覧ください。

ソース

「トリガーモード」を「ソース」に設定時、入力ごとに電気信号の出力 / 停止を設定します。

選択項目

AV1 ～ 7、AUX、AUDIO1 ～ 4*、PHONO、TUNER、Spotify、radiko.jp、Deezer、AirPlay、MusicCast Link、SERVER、NET RADIO、Bluetooth、USB

*AUDIO4：RX-A3080 のみ

設定値

ロー	該当する入力を選んだときに電気信号の出力を停止する。
ハイ	該当する入力を選んだときに電気信号を出力する。

手動

「トリガーモード」を「手動」に設定時、電気信号を手動で出力 / 停止します。
トリガー機能が正しく動作するか確認する際にご利用ください。

選択項目

ロー	電気信号の出力を停止する。
ハイ	12V の電気信号を出力する。

対象ゾーン

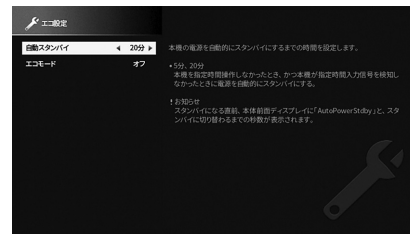
「トリガーモード」を「パワー」または「ソース」に設定時、トリガー機能により動作を連動させるゾーンを設定します。

設定値

メイン	メインゾーンの動作に連動して電気信号を出力する。
ゾーン 2	ゾーン 2 の動作に連動して電気信号を出力する。
ゾーン 3	ゾーン 3 の動作に連動して電気信号を出力する。
ゾーン 4	ゾーン 4 の動作に連動して電気信号を出力する。
全ゾーン	すべてのゾーンの動作に連動して電気信号を出力する。

■ エコ設定

電源 / 消費電力に関する設定を変更します。



自動スタンバイ

本機を指定時間操作しなかったときや入力信号が検出されなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。

設定値

オフ	電源を自動的にスタンバイにしない。
5 分、20 分	本機を指定時間操作しなかったとき、かつ本機が指定時間入力信号を検知しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。
2 時間、4 時間、8 時間、12 時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。



- 自動的にスタンバイになる直前に、前面パネルに「AutoPowerStdbby」と表示され、スタンバイに切り替わるまでの秒数が表示されます。

エコモード

エコモードを有効 / 無効にします。

有効にすると、本機の消費電力を低減できます。設定変更後は、ENTER キーを押して本機を再起動してください。

設定値

オフ	エコモードを無効にする。
オン	エコモードを有効にする。



- 「エコモード」を「オン」に設定時は、前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。
- 大きな音量で再生する場合は、「エコモード」を「オフ」に設定してください。

■ 設定保護

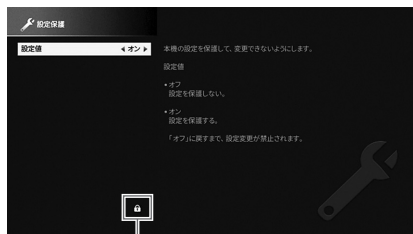
設定を保護して、変更できないようにします。

設定値

オフ	設定を保護しない。
オン	設定を保護する。「オフ」に戻すまで、設定変更が禁止されます。



- 「設定保護」を「オン」に設定時は、メニュー画面に設定保護 (🔒) アイコンが表示されます。



アイコン

■ ファームウェアアップデート

本機のファームウェアを更新します。

ファームウェアアップデート

本機のファームウェアをネットワーク経由で更新します。また、現在のファームウェアバージョンやシステム ID を確認できます。

項目

ファームウェアバージョン	本機にインストールされているファームウェアのバージョン
システム ID	システム認識番号



- ファームウェアのアップデートには、約 20 分以上かかることがあります（インターネット接続速度によって異なります）。
- インターネット接続速度が遅い場合、または本機がワイヤレスネットワークに接続されている場合、ワイヤレス接続の状態によってはネットワーク経由のアップデートができないことがあります。
この場合は、ファームウェアを再度更新する前にしばらく待つか、USB メモリデバイスを使用してファームウェアを更新してください。USB メモリーの使いかたについて詳しくは、「ファームウェアの更新 (FIRM.UPDATE)」(147 ページ) をご覧ください。

USB アップデート

アドバンスドセットアップメニューから USB メモリデバイスを使用してファームウェアのアップデートを実行します。



- USB メモリーを使用してファームウェアを更新する方法については、「システム設定を変更する (アドバンスドセットアップメニュー)」の「ファームウェアの更新 (FIRM.UPDATE)」を参照してください (147 ページ)。

アドバンスト設定を変更する (アドバンストセットアップメニュー)

前面ディスプレイを見ながら、本機のシステム設定を変更します。

アドバンストセットアップメニューの基本操作

本体前面ディスプレイを使ったアドバンストセットアップメニューの基本的な操作方法を説明します。

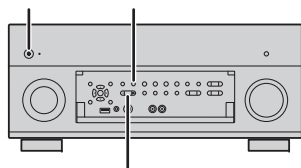
1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。



・ゾーン2/ゾーン3/ゾーン4が有効になっている場合は、無効にしてください(98ページ)。

2 前面の STRAIGHT キーを押しながら MAIN ZONE 〇 (電源) キーを押す。

MAIN ZONE 〇 (電源) キー STRAIGHT キー



PROGRAM キー

3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。

4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。

5 MAIN ZONE 〇 (電源) キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。

設定変更が反映されます。

アドバンストセットアップメニューでできること

項目	説明	ページ
SPEAKER IMP.	本機のスピーカーインピーダンス設定を変更します。	144
REMOTE SENSOR	本体 (リモコン信号受光部) の信号受信を有効 / 無効にします。	145
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	145
TV FORMAT	ビデオ信号方式を切り替えます。	145
MONITOR CHECK	HDMI 映像出力の制限を解除します。	145
4K MODE	HDMI 4K 信号のフォーマットを設定します。	146
DTS MODE	DTS フォーマットの通知設定を変更します。	146
BACKUP/RESTORE	本機の各種設定を保存します、また保存した設定を復元します。	146
INITIALIZE	各種設定を初期化します。	147
FIRM. UPDATE	ファームウェアを更新します。	147
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	147



・各項目の初期値には下線が付いています。

スピーカーインピーダンス設定の変更 (SPEAKER IMP.)

SPEAKER IMP.
8ΩMIN

接続するスピーカーのインピーダンスにあわせて、本機のスピーカーインピーダンス設定を変更します。

設定値

6ΩMIN	いずれかのチャンネルに 6Ω のスピーカーを接続する場合に選択する。 この場合、フロントスピーカーは 4Ω のスピーカーも使用できます。
<u>8ΩMIN</u>	8Ω 以上のスピーカーを接続する場合に選択する。

リモコン信号の受信設定 (REMOTE SENSOR)

REMOTE SENSOR
ON

本体 (リモコン信号受光部) の信号受信を有効 / 無効にします。信号受信が無効の場合、リモコンで本機を操作することはできません (通常は有効にしておいてください)。

設定値

ON	リモコン信号受信を有効にする。
OFF	リモコン信号受信を無効にする。

リモコン ID の変更 (REMOTE ID)

REMOTE ID
ID1

リモコン側のリモコン ID (初期値: ID1) と一致するよう、本体側のリモコン ID を変更します。複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないように設定します。

設定値
ID1、ID2

■ リモコン側のリモコン ID 設定

- 1 ID1 に設定するには、カーソルキー ◀ を押しながら SCENE1 キーを 5 秒間押し続ける。
ID2 に設定するには、カーソルキー ◀ を押しながら SCENE2 キーを 5 秒間押し続ける。

ビデオ信号方式の変更 (TV FORMAT)

TV FORMAT
NTSC

お使いのテレビに合わせて、本機のビデオ信号方式を切り替えます。

設定値
NTSC、PAL

HDMI 映像出力の制限解除 (MONITOR CHECK)

MONITOR CHECK
YES

本機は、HDMI OUT 端子に接続したテレビが対応している解像度を自動的に判別します (モニターチェック)。本機の判別に関わらず「解像度」(129 ページ) で出力する解像度を指定したい場合や、テレビの解像度を本機が判別できない場合は、モニターチェックを無効にしてください。

設定値

YES	モニターチェックを有効にする。 (テレビが対応している解像度の映像のみ出力)
SKIP	モニターチェックを無効にする。 (テレビの対応に関わらず映像を出力)



- ・「SKIP」に設定後、本機の映像がテレビ画面に正しく表示されずに本機を操作できない場合は、「YES」に戻してください。

HDMI 4K 信号のフォーマット設定 (4K MODE)

4K MODE
MODE 1

HDMI 4K (60Hz/50Hz) 対応のテレビおよび再生機器を接続したときに、本機が入出力する信号のフォーマットを設定します。

設定値

MODE 1	以下の表に記載の 4K 信号を入出力します。接続機器や HDMI ケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は「MODE 2」に設定してください。
MODE 2	以下の表に記載の 4K 信号を入出力します。

フォーマット

		MODE 1			MODE 2		
		8bit	10bit	12bit	8bit	10bit	12bit
4K/60、50Hz	RGB 4:4:4	✓	—	—	—	—	—
	YCbCr 4:4:4	✓	—	—	—	—	—
	YCbCr 4:2:2	—	✓	—	—	—	—
	YCbCr 4:2:0	—	✓	—	✓	—	—
4K/30、25、24Hz	RGB 4:4:4	—	✓	—	✓	—	—
	YCbCr 4:4:4	—	✓	—	✓	—	—
	YCbCr 4:2:2	—	✓	—	—	✓	—



- 「MODE 1」に設定した場合は、Premium HDMI ケーブルまたはイーサネット対応 Premium HDMI ケーブルをご使用ください。

DTS フォーマットの通知設定 (DTS MODE)

DTS MODE
MODE 1

DTS フォーマットの通知設定を変更します。

この設定は、本機が対応している DTS フォーマットに関する情報を、本機に接続したビデオ機器 (BD/DVD プレーヤーなど) に通知する際に使用されます。

設定値

MODE 1	DTS:X の標準モードです。 通常は「MODE 1」に設定してください。
MODE 2	ビデオ機器 (BD/DVD プレーヤー) で DTS-HD や DTS:X コンテンツを再生する際、DTS 信号が正しく出力されない場合に選択するモードです。

設定の保存 / 復元 (BACKUP/RESTORE)

BACKUP/RESTORE
BACKUP

本機の各種設定を保存します、また保存した設定を復元します。

選択項目

BACKUP	本機の各種設定を USB メモリーに保存する。
RESTORE	保存されている設定を復元する (設定が保存されている場合のみ有効)。

■ 保存 / 復元の手順

- 1 USB メモリーを本体前面の USB 端子に接続する。
- 2 本体前面の STRAIGHT キーを押して「BACKUP」または「RESTORE」を選び、INFO キーを押す。
- 3 確認メッセージが表示されたら、再度 INFO キーを押す。



- 操作をキャンセルするには STRAIGHT キーを押します。

- 4 本体前面ディスプレイに「Please Power Off!」と表示されたら、**⏻**（電源）キーで本機の電源を入れ直す。

「Faild」と表示された場合は、次をご確認の上、再度実行してください。

「BACKUP」の場合：

- 上書き保存はできません。繰り返し保存する場合は、設定ファイルを別のフォルダなどに移動してください。
- 設定ファイルは USB メモリーのルートに、「MC_backup_(モデル名).dat」というファイル名で保存されます。

「RESTORE」の場合：

- 設定ファイルが USB メモリーのルートに保存されているか、ご確認ください。



- 「RESTORE」（設定の読み込み）は設定が保存されている場合のみ有効です。
- 「BACKUP」 / 「RESTORE」中は本機の電源を操作しないでください。正しく設定が反映されないことがあります。
- ユーザー情報（アカウント、パスワードなど）は保存されません。

設定の初期化（INITIALIZE）



選択した項目にしたがって設定を初期化します。

選択項目

VIDEO	映像に関する設定を初期化する。
ALL	すべての設定を初期化する。
CANCEL	初期化しない。

ファームウェアの更新（FIRM. UPDATE）



機能の追加や不具合の改善に応じて、ファームウェアが更新されることがあります。ファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。本機がインターネットに接続されている場合は、ネットワーク経由で更新することも可能です。

詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報をご確認ください。

■ ファームウェアの更新手順

ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前に、ファームウェア更新時に提供される情報を必ずご確認ください。

- 1 本体前面の **STRAIGHT** キーで「USB」または「NETWORK」を選ぶ。

- 2 **INFO** キーで実行する。

選択項目

USB	USB メモリーを使ってファームウェアを更新する。
NETWORK	ネットワーク経由でファームウェアを更新する。



- ネットワークから最新のファームウェアが検出されると、**ON SCREEN** キーを押したときにメッセージが表示されます。この場合は、「ネットワーク経由で本機のファームウェアを更新する」（148 ページ）の手順でもファームウェアを更新できます。

ファームウェアバージョンの確認（VERSION）



本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

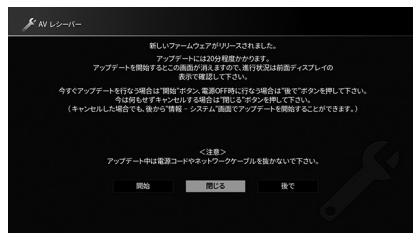


- 設定メニューの「システム設定」（138 ページ）でもファームウェアのバージョンを確認できます。
- 表示されるまで時間がかかることがあります。

カーソルキー
ENTER

ファームウェアの更新について

機能の追加や不具合の改善に応じて、本機用の新しいファームウェアが提供されることがあります。本機がインターネットに接続されている場合は、新しいファームウェアが提供されて更新の準備が整うと、SETUP キーを押したあとに次のメッセージが表示されます。



ファームウェアの更新方法については、「ネットワーク経由でファームウェアを更新する」(148 ページ) をご覧ください。

注意

- ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやネットワークケーブルを抜いたりしないでください。万一、中断したときは本機が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。



- 本機がインターネットに接続されている場合は、新しいファームウェアに更新する準備が完了すると、本体前面ディスプレイのファームウェア更新表示が点灯します。更新保留状態ですらに新しいバージョンのファームウェアが取得された場合は、この表示が一時的に消灯する場合があります。
- ファームウェア更新の所要時間は約 20 分です。
- インターネット回線の速度が十分に得られない場合や、無線ネットワークに接続している場合など、ネットワーク状況が悪いとファームウェア更新の通知が来ない場合があります。そのような場合は、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください。USB メモリーを使ったファームウェアの更新については、「ファームウェアの更新 (FIRM.UPDATE)」(147 ページ) をご覧ください。
- ファームウェアに関する詳細は、弊社ウェブサイトをご覧ください。

ネットワーク経由でファームウェアを更新する

SETUP キーを押したあとに表示されるメッセージ画面を見ながら、すぐにファームウェアを更新します。

- 画面の説明を読む。
- カーソルキーで「開始」を選び、ENTER キーを押す。
画面表示がオフになり、ファームウェアのアップデートがスタートします。
- 本体前面ディスプレイに「UPDATE SUCCESS PLEASE POWER OFF!」と表示されたら、本体の (電源) キーを押す。

これでファームウェアの更新は完了です。



- ファームウェアを更新せずにメッセージ画面を閉じるには、手順 2 で「閉じる」を選び、ENTER キーを押します。
- 電源を切る時にファームウェアを更新するには、手順 2 で「後で」を選び、ENTER キーを押すことで、ファームウェア更新を予約します。電源を切る時には、ファームウェア更新の予約があると更新実施確認画面が表示されます。ENTER キーまたは本体前面の INFO キーを押して更新を開始すると、更新の完了で自動的に電源が切れます。
- 電源を切る時にファームウェアを更新する場合は、次の点に注意してください。
 - 更新実施確認画面が表示されてから 2 分間経過すると、更新せずに電源が切れます。
 - RETURN キーを押すと更新はキャンセルされ、すぐに電源が切れます。
 - AV CONTROLLER や MusicCast CONTROLLER により本機の電源を切ると、更新せずに電源が切れます。

付録

こんな場合の解決方法

別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった ...

スピーカーを交換した場合やスピーカーシステムを変更した場合は、「YPAO」を実行してスピーカー設定を再調整してください (50 ページ)。手動でスピーカー設定を調整する場合は、設定メニューの「スピーカー設定」をご利用ください (116 ページ)。

小さな子供がいるので音量が大きくならないようにしたい ...

誤って本体やリモコンを操作して突然音量が大きくなると、事故や故障につながる恐れがあります。このような場合は、設定メニューの「音量の上限」で、調節可能な音量の上限値をあらかじめ設定してください (125 ページ)。ゾーン 2/ ゾーン 3 でも同様に設定できます (136 ページ)。

電源を入れた直後に音量が大きいとびっくりする ...

初期状態では、電源をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときにそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、設定メニューの「音量の初期値」で、電源を入れたときの音量を設定してください (125 ページ)。ゾーン 2/ ゾーン 3 でも同様に設定できます (136 ページ)。

特定の入力の音量が他の入力に比べて大きすぎる ...

入力ごとの音量差を補正するには、オプションメニューの「入力レベル補正」をご利用ください (107 ページ)。

HDMI ケーブルで接続しているのに HDMI コントロールが機能しない ...

HDMI コントロールを使うには、HDMI コントロール対応機器どうしの連動設定が必要になります (164 ページ)。HDMI コントロール対応機器 (テレビ、BD/DVD プレーヤーなど) を本機に接続後、各機器の HDMI コントロール設定を有効にしてから、連動設定を行ってください。この設定は HDMI コントロール対応機器を追加するたびに必要です。なお、HDMI コントロールを使ってテレビと再生機器間で操作できる機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

操作時にテレビ画面に表示されるメッセージを消したい ...

初期状態では、入力選択や音量調節など本機を操作した際にテレビ画面にショートメッセージが表示されます。映画やスポーツを観ているときなど、映像と重なってしまい見づらい場合は、設定メニューの「ショートメッセージ」(141 ページ) でメッセージが表示されないように設定できます。

設定変更を禁止したい ...

スピーカー設定など、本機の各種設定の変更を禁止するには、設定メニューの「設定保護」をご利用ください (143 ページ)。

本機のリモコンを操作すると、別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう ...

複数のヤマハ製機器お使いの場合、本機のリモコンを操作すると別の機器が同時に動いたり、ほかのリモコンを操作すると本機が動いたりすることがあります。このような場合は、それぞれのリモコンで各機器を操作するために、リモコン ID が重ならないように設定してください (145 ページ)。

本機の電源がスタンバイのときも、テレビでビデオ機器の映像 / 音声を楽しみたい ...

本機の電源がスタンバイのときに本機に接続されたビデオ機器 (HDMI 接続の機器のみ) の映像 / 音声をテレビで楽しむには、設定メニューの「スタンバイスルー」を「オン」または「自動」に設定してください (132 ページ)。本機のリモコンで、入力を切り替えることもできます。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

最初にご確認ください ...

- ① 本機、テレビ、再生機器（BD/DVD プレーヤーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- ② 本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD プレーヤーなど）の電源が入っている。
- ③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源 / システム / リモコン

症状	原因	対策
電源が入らない	保護回路が 3 回続けて作動した。 (この状態で電源を入れようとすると、本体前面のスタンバイ表示が点滅します。)	製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理で相談センターに修理をご依頼ください。
電源が切れない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の MAIN ZONE 〇（電源）キーを 10 秒以上押して本機を再起動してください。 (それでも解決しない場合は、電源コードのプラグをコンセントから抜き、接続し直してください。)
電源がすぐに切れてしまう	スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れた。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（28 ページ）。
電源が自動的にスタンバイに切り替わる	スリープタイマーが作動した。	もう一度電源を入れて、再生を始めてください。
	操作がない状態で一定時間が経過したため、自動スタンバイ機能が作動した。	自動スタンバイ機能を無効にするには、設定メニューの「自動スタンバイ」を「オフ」に設定してください（142 ページ）。
	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（28 ページ）。
本機が操作を受け付けない	音量が大きすぎるため、保護回路が作動した。	音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください（142 ページ）。
	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の MAIN ZONE 〇（電源）キーを 10 秒以上押して本機を再起動してください。 (それでも解決しない場合は、電源コードのプラグをコンセントから抜き、接続し直してください。)

症状	原因	対策
リモコンで本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（7 ページ）。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明または本体の向きを変えてください。
	操作対象が外部機器になっている。	RECEIVER キーで操作対象を本機に切り替えてから（オレンジ色に点灯）、操作してください。
	本体とリモコンの ID が一致していない。	本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください（145 ページ）。
	本体（リモコン信号受光部）の信号受信が無効になっている。	アドバンスドセットアップメニューの「REMOTE SENSOR」を「ON」に設定して、信号受信を有効にしてください（145 ページ）。

音声

症状	原因	対策
音が出ない	別の入力を選択されている。	入力選択キーで正しい入力を選んでください。
	本機で再生できない信号が入力されている。	一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。入力信号の音声フォーマットは、設定メニューの「音声設定」で確認できます（121 ページ）。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音量が上がらない	音量の上限値が低く設定されている。	設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください（125 ページ）。
	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。	該当機器すべての電源を入れてください。
特定のスピーカーから音が出ない	再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。	設定メニューの「音声設定」で、入力信号のチャンネル数を確認できます（121 ページ）。
	該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。	設定メニューの「テストトーン」を「オン」に設定して、スピーカー出力を確認してください（120 ページ）。
	該当スピーカーの音声出力が無効になっている。	「YPAO」を実行するか（50 ページ）、設定メニューの「構成」で該当スピーカーのサイズまたは有無を設定してください（117 ページ）。
	該当スピーカーの音量が極端に小さい。	「YPAO」を実行するか（50 ページ）、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください（119 ページ）。
	本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
	該当スピーカーが故障している。	正常に機能している別のスピーカーと交換することで確認できます。それでも音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。

症状	原因	対策
サブウーファーから音が出ない	再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。	設定メニューの「テストトーン」を「オン」に設定して、サブウーファー出力を確認してください (120 ページ)。
	サブウーファーの出力が無効になっている。	「YPAO」を実行するか (50 ページ)、設定メニューの「サブウーファー 1」または「サブウーファー 2」を「使用する」に設定してください (119 ページ)。
	サブウーファーの音量が極端に小さい。	サブウーファーの音量を調節してください。
	サブウーファーのオートスタンバイ (自動的に電源を切る機能) が作動した。	サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。
HDMI で接続した再生機器の音が出ない	テレビ側で、テレビのスピーカーから音声出力するように設定されている。(HDMI コントロール使用時)	テレビ音声为本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
	テレビが著作権保護 (HDCP) に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。
再生機器の音声为本機から出ない (HDMI コントロール使用時)	テレビ側で、テレビのスピーカーから音声出力するように設定されている。	テレビ音声为本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
	入力としてテレビの音声を選択されている。	入力選択キーで正しい入力を選んでください。
テレビの音声为本機から出ない (HDMI コントロール使用時)	テレビ側で、テレビのスピーカーから音声出力するように設定されている。	テレビ音声为本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
	ARC に対応していないテレビを HDMI ケーブルのみで本機と接続している。	音声ケーブル (光デジタルまたはステレオピンケーブル) を使って、テレビと本機を接続してください (41 ページ)。
	(音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合) 「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。	設定メニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください (131 ページ)。
	(ARC を使ってテレビ音声を入力したい場合) 本機またはテレビの ARC が無効になっている。	設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください (131 ページ)。また、テレビ側で ARC を有効にしてください。
ゾーン 2 のテレビから音が出ない (HDMI OUT3 端子に接続時)	HDMI OUT3 (ZONE OUT) 端子の音声出力が無効になっている。	設定メニューの「音声出力」を「オン」に設定してください (131 ページ)。
マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない	再生機器側で、常に 2 チャンネル (PCM など) で出力するように設定されている。	設定メニューの「音声設定」で、入力信号の音声フォーマットを確認できます (121 ページ)。必要に応じて、再生機器側の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	本機と該当機器の距離を離してください。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音がひずむ	音量が大きすぎる。	音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください (142 ページ)。
	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。	該当機器すべての電源を入れてください。
音が途切れる	別の部屋で本機やテレビの操作を行った。 (ゾーン 2 またはゾーン 4 を使用している場合、いずれかのゾーンで本機やテレビを操作すると、本機の内部回路が切り替わるたびに、HDMI 出力が途切れることがあります。)	詳しくは「HDMI 対応機器で映像 / 音声を再生する」(96 ページ)をご覧ください。

映像

症状	原因	対策
映像が出ない	本機で別の入力を選択されている。	入力選択キーで正しい入力（ビデオ機器）を選んでください。
	テレビで別の入力を選択されている。	テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
	テレビが非対応の映像信号を、本機が出力している。	アドバンスドセットアップメニューの「MONITOR CHECK」を「YES」に設定してください（145 ページ）。
	本機、テレビ、ビデオ機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
HDMI で接続したビデオ機器の映像が出ない	本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。	入力中の映像信号（解像度）は、設定メニューの「ビデオ /HDMI 信号」で確認できます（129 ページ）。本機が対応している映像信号については「本機が対応している HDMI 信号」（166 ページ）をご覧ください。
	テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。 HDCP 2.2 対応機器が必要なコンテンツを再生する場合、テレビと再生機器の両方が HDCP 2.2 に対応している必要があります。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超過している。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。
本機のメニューがテレビに表示されない	テレビで別の入力を選択されている。	テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替えてください。
映像が途切れる	（メインゾーンで 2 台のテレビを使用している場合） HDMI OUT1 ～ 2 端子の両方から映像を出力している状態で、片方のテレビの電源が切れている。	「OUT1」または「OUT2」を選び、使用中のテレビにのみ映像を出力してください（68 ページ）
	（ゾーン 2 またはゾーン 4 を使用している場合） 別の部屋で本機やテレビの操作を行った。 （いずれかのゾーンで本機やテレビを操作すると、本機の内部回路が切り替わる時に、HDMI 出力が途切れることがあります。）	詳しくは「HDMI 対応機器で映像 / 音声を再生する」（96 ページ）をご覧ください。

FM/AM ラジオ

症状	原因	対策
FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	オプションメニューの「FM モード」を「モノラル」に設定して、モノラル受信に切り替えてください（109 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。	環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減できることがあります。
自動選局ができない	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	手動で選局してください（76 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
	AM ラジオの電波が弱い。	AM アンテナの方向を変えてください。
		手動で選局してください（76 ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA（AM）端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。

Bluetooth

症状	原因	対策
Bluetooth 機器と接続できない	本機の Bluetooth 機能が無効になっている。	Bluetooth 機能を有効にしてください（135 ページ）。
	本機が別の Bluetooth 機器と接続されている。	現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器と接続してください（79 ページ）。
	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
	2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。	本機とそれらの機器を遠ざけてください。
	お使いの Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない。	A2DP プロファイル対応の Bluetooth 機器をお使いください。
	Bluetooth 機器に登録されている接続情報が何らかの原因で正しく機能していない。	Bluetooth 機器の接続情報を削除してから、本機と Bluetooth 機器の接続操作を行ってください（79 ページ）。
音が出なかったり途切れたりする	音量が極端に小さい。	Bluetooth 機器の音量をあげてください。
	Bluetooth 接続が終了している。	本機と Bluetooth 機器の接続操作を再度実行してください（79 ページ）。
	本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。	本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
	2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。	本機とそれらの機器を遠ざけてください。

USB/ ネットワーク

症状	原因	対策
USB 機器が認識されない	USB 機器が USB 端子に正しく接続されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。
	FAT16/32 フォーマット以外の USB 機器を使用している。	FAT16/32 フォーマットの USB 機器を使用してください。
USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない	暗号化機能により USB 機器内のデータが保護されている。	暗号化機能のない USB 機器を使用してください。
USB 機器のファイルを連続して再生できない	選択したフォルダーに、本機で再生できないファイルが含まれている。	再生できないファイル（画像、隠しファイルなど）が続いた場合は、再生が自動的に停止します。再生するフォルダーには、本機で再生できないファイルを入れないでください。
ネットワーク機能を使用できない	ネットワーク情報（IP アドレス）が正しく取得されていない。	ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の設定メニューで「DHCP」を「オン」に設定してください（133 ページ）。DHCP サーバーを使用せずに、ネットワーク情報を手動で設定する場合は、本機の IP アドレスが他のネットワーク機器と重複しないようにしてください（133 ページ）。
無線ルーター（アクセスポイント）経由でインターネットに接続できない	無線ルーター（アクセスポイント）の電源が切れている。	無線ルーター（アクセスポイント）の電源を入れてください。
	本機と無線ルーター（アクセスポイント）の距離が離れすぎている。	本機と無線ルーター（アクセスポイント）を近づけてください。
	本機と無線ルーター（アクセスポイント）の間に障害物がある。	本機または無線ルーター（アクセスポイント）を移動し、機器間に障害物がなくなるように設置してください。
	無線ルーター（アクセスポイント）が 14 チャンネルを使用する設定になっている。	1 ～ 13 チャンネルのいずれかを使用するよう設定を変更してください。
無線ネットワークが見つからない	電子レンジや別の無線機器からの電磁波により、無線通信が妨害されている。	それらの機器の電源を切るか、本機や無線ルーターから遠ざけてください。
	無線ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	無線ルーター（アクセスポイント）のファイアウォール設定をご確認ください。
パソコンが検出されない	パソコンのメディア共有設定が正しくない。	本機がパソコンのフォルダーにアクセスできるように、パソコンのメディア共有設定を変更してください（83 ページ）。
	セキュリティソフトなどの設定により、パソコンへのアクセスが制限されている。	パソコンまたはルーターのセキュリティソフトの設定をご確認ください。
	本機とパソコンが同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。
パソコンのファイルが表示（再生）されない	本機またはサーバーが非対応のファイル形式を使用している。	本機およびサーバーが対応しているファイル形式を使用してください。本機が対応している音楽ファイルについては「対応ファイル形式」（162 ページ）をご覧ください。
パソコンのファイルを連続して再生できない	選択したフォルダーに、本機で再生できないファイルが含まれている。	再生できないファイル（画像、隠しファイルなど）が続いた場合は、再生が自動的に停止します。再生するフォルダーには、本機で再生できないファイルを入れないでください。

症状	原因	対策
インターネットラジオを再生できない	選択したラジオ局のサービスが現在停止している。	ラジオ局側のネットワークエラーにより受信できない場合や、サービスを休止している場合があります。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
	選択したインターネットラジオ局が無音を放送している。	時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合は受信できていても音はでません。しばらく経ってから再生するか、別のラジオ局を選んでください。
	ルーターなどネットワーク機器のファイアウォール設定により、ネットワークへのアクセスが制限されている。	ファイアウォールの設定をご確認ください。なお、インターネットラジオは各ラジオ局指定のポート経由でのみ再生できます。ポート番号はラジオ局により異なります。
AirPlay 使用時に、iPod で本機が検出されない	マルチ SSID 対応ルーターを使用している。	ルーターのネットワーク分離機能により、本機へのアクセスができなくなっている可能性があります。iPod を接続する際は、本機へのアクセスが可能な SSID をお使いください（プライマリ SSID への接続をお試しください）。
モバイル機器の専用アプリケーションで本機が検出されない	本機とモバイル機器が同じネットワークに接続されていない。	ネットワーク接続やルーターの設定を確認し、同じネットワークに接続してください。
モバイル機器の専用アプリケーションが本機と接続できない	MAC アドレスフィルターが有効になっている。	設定メニューの「MAC アドレスフィルター」で、MAC アドレスフィルターを無効にするか、使用するモバイル機器の MAC アドレスを指定してください（133 ページ）。
MusicCast 対応機器から音が出ない	MusicCast 対応機器の電源が入っていない。	MusicCast 対応機器の電源を入れてください。
	MusicCast 対応機器が MusicCast ネットワークに接続されていない。	「MusicCast CONTROLLER」を使って、接続してください。
「MusicCast CONTROLLER」で接続の設定ができない	モバイル機器が無線ルーター（アクセスポイント）に接続されていない。	モバイル機器を無線ルーター（アクセスポイント）に接続してから、「MusicCast CONTROLLER」で設定してください。
	MusicCast 対応機器の電源が入っていない。	モバイル機器のモバイルデータ通信を無効にしてください。
「MusicCast CONTROLLER」で MusicCast 対応機器が認識されない	モバイル機器が無線ルーター（アクセスポイント）に接続されていない。	MusicCast 対応機器の電源を入れてください。
	MusicCast 対応機器の電源が入っていない。	モバイル機器を無線ルーター（アクセスポイント）に接続してから、「MusicCast CONTROLLER」で設定してください。
	MusicCast 対応機器の電源が入っていない。	MusicCast 対応機器の電源を入れてください。
ネットワーク経由でファームウェアを更新できない	ネットワークの接続状態がよくない。	MusicCast 対応機器のネットワークスタンバイ機能を有効にしてください。
		しばらく経ってから再度実行するか、USB メモリーを使ってファームウェアを更新してください（147 ページ）。

前面ディスプレイのエラー表示

メッセージ (アルファベット順)	内容	対策
Access denied	パソコン（サーバー）がアクセスを拒否している。	本機がパソコン（サーバー）のフォルダーにアクセスできるように、メディアの共有設定を変更してください（83 ページ）。
Access error	USB 機器にアクセスできない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
	ネットワーク経路に問題が発生している。	ルーターおよびモデムの電源が入っていることを確認してください。
		本機とルーター（またはハブ）が正しく接続されているか確認してください（47 ページ）。
Check SP Wires	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（28 ページ）。
Internal error	本機の内部でエラーが発生している。	ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
No content	選択したフォルダーに本機が再生可能なファイルが含まれていない。	本機が再生可能なファイルが含まれている、別のフォルダーを選択してください。
No device	USB 機器が認識されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Please wait	本機がネットワーク接続に必要な準備をしている。	メッセージが消えるまでお待ちください。3 分経っても消えない場合は、本機の電源を入れ直してください。
RemID Mismatch	本体とリモコンのリモコン ID が一致していない。	本体またはリモコンのリモコン ID を変更してください（145 ページ）。
Remote Off	本体（リモコン信号受光部）の信号受信が無効になっているため、リモコンで操作できない。	本体前面のキーを使って操作してください。リモコンで操作するには、アドバンスドセットアップメニューの「REMOTE SENSOR」を「ON」に設定してください（145 ページ）。
Unable to play	USB 機器の曲を再生できない。	再生可能なファイルが確認してください。ほかの機器でも再生できない場合は、曲データが破損している可能性があります。
	パソコン（サーバー）の曲を再生できない。	本機で再生可能なファイルが確認してください。本機が対応している音楽ファイルについては「対応ファイル形式」（162 ページ）をご覧ください。本機が対応しているファイルなのに再生できない場合は、ネットワークに大きな負荷がかかっている可能性があります。
Update failed.	ファームウェアの更新に失敗している。	再度ファームウェアを更新してください（147 ページ）。
USB Overloaded	USB 機器に過電流が流れている。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Version error	ファームウェアの更新に失敗している。	再度ファームウェアを更新してください（147 ページ）。

音声に関する用語

■ 音声デコードフォーマット

サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz/24bit などのように表現されます。

- ・サンプリング周波数
1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいくほど再生可能な音域が広がります。
- ・量子化ビット数
音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいくほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

ドルビーイネーブルドスピーカー（Dolby Enabled Speaker）

天井にスピーカーを設置できない場合に、天井の反射音を利用して上方からのサラウンド感を創り出すドルビー社が開発したスピーカーです。独自のドライバーや信号処理システムを従来のスピーカーに組み込んだり、独立型のスピーカーとして設置したりすることで、従来のスピーカーの長所は生かしつつ、Dolby Atmos コンテンツの再生時に非常にリアルなサラウンド感を創り出すことを可能にしています。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS/地上波デジタル放送で採用されています。

Dolby Atmos

最初に映画館から導入された音響技術で、オブジェクト化された信号を正確かつ自由に定位または移動させて、3次元的な音響空間を簡単に創り出すことができます。そしてホームシアターにも導入され、画期的なシネマサウンドを家庭でも楽しめるようになりました。視聴者の上から聞こえる音を活用しているのが大きな特徴です。

Dolby Atmos ストリーム

Dolby Atmos コンテンツは、Dolby Atmos ストリームを含む Dolby Digital Plus、または Dolby TrueHD フォーマットが収録されたブルーレイディスク、ダウンロードファイル、ストリーミングなどにより、Dolby Atmos 対応 AV レシーバー向けに提供されます。Dolby Atmos ストリームには音の位置に関する情報（メタデータ）が含まれており、Dolby Atmos 対応 AV レシーバーで再生する場合は、その情報に基づいてさまざまなホームシアター環境に最適な音響空間を創り出します。

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

Dolby Digital Plus

ドルビーラボラトリーズにより開発された、7.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

Dolby Surround

2～7.1 チャンネルのコンテンツを、使用されるスピーカーシステムに合わせて拡張することができる次世代のサラウンド技術です。インシーリング・スピーカー（埋め込みスピーカー）やドルビーイネーブルドスピーカーなど、Dolby Atmos の再生に適したシステムはもちろん、従来のスピーカーレイアウトでも Dolby Surround を楽しむことができます。

Dolby TrueHD

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリット音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで採用されている、デジタル信号を記録する方式の一つです。2.8224MHz や 5.6448MHz などのビットレートで記録され、CD よりも高音質な再生ができます。収録可能な周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。

DTS ダイアログコントロール

中央に定位する音（セリフなど）の音量を高める機能です。雑音の多い環境で視聴する場合などに、セリフなどの音を聴き取りやすくします。また、聴力障害を持つ方にとっても便利な機能です。なお、コンテンツによっては DTS ダイアログコントロールを使用できない場合があります。ファームウェアの更新により、新たな機能が追加されたり、機能が拡張されたりすることがあります。

DTS デジタルサラウンド

DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

DTS 96/24

高品質 96kHz/24bit 5.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。音楽 DVD などで採用されています。

DTS-ES

DTS-ES 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。サラウンドバックチャンネルの信号をサラウンドチャンネル信号に合成して収録するマトリックス方式と、独立した信号を収録するディスクリット方式があります。

DTS Express

DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS 社により開発された高品質 96kHz/24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

DTS-HD Master Audio

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS Neo:6

2 チャンネルで記録された信号のソースを、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネル分離感を実現します。

DTS:X

DTS:X は、DTS 社により開発された次世代オブジェクトベースのサラウンド技術です。チャンネルの枠を越えて音のオブジェクトが視聴者を包み込む音場空間内を自由に動き、より正確な音場表現を実現します。この音場表現が、これまでにない音の豊かさやリアリティ、没入感を生み出します。テレビ内蔵のスピーカー、ホームシアターのスピーカー、さらには映画館に設置された多数のスピーカーに至るまで、多様なスピーカーの配置と視聴スペースに合わせて音声を自動調整し、最高の音響空間をつくり出すことができます。さらに詳しい情報については、<http://www.dts.com/dtsx> をご覧ください。

FLAC（Free Lossless Audio Codec）

音声圧縮方式の一つで、ロスレス（可逆型）圧縮方式を採用しています。圧縮率では非可逆圧縮方式フォーマットには劣るものの、音質の劣化がないため、高品質の音声を楽しめます。

MP3

MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の一つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮することができます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

Neural:X

Neural:X は、DTS 社による最新のダウンミックス / アップミックス技術であり、空間の再配置技術です。DTS:X に組み込まれており、Neural:X エンコードされた信号、通常の信号のどちらもアップミックスできます。DTS:X 対応した AV レシーバーでは、Neural:X が最大で 11.x チャンネルの信号をつくり出します。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとして BD（ブルーレイディスク）などさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

WAV

Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は PCM データ（非圧縮）が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）

Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/20 に圧縮できると言われています。

■ その他

バイアンプ接続

スピーカーのウーファーとツイーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して駆動することにより、相互影響を排除した、よりクリアな音声を楽しめます。

リップシンク（Lipsync）

音声と映像の出力タイミングのずれを補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声に対して映像が遅れてしまう症状を補します。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20 ～ 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用のチャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

HDMI/ 映像に関する用語

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号および Pr/Cr 信号の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。

コンボジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

HDCP

HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）は、HDMI などのデジタルインターフェースを介したコンテンツの不正なコピーを防止する著作権保護技術の 1 つです。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。より詳しい情報は、"<http://www.hdmi.org>" を参照ください。

x.v.Color

HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の 1 つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ネットワークに関する用語

SSID (Service Set Identifier)

無線ネットワークのアクセスポイントを特定するための名前です。

Wi-Fi

無線電波による電子機器間でのデータ通信やインターネット接続を可能にする技術です。ケーブル接続の煩雑さが無いのが利点です。Wi-Fi Alliance の互換性テストをクリアした製品のみ「Wi-Fi Certified」ロゴが付与されます。

WPS (Wi-Fi Protected Setup)

無線ネットワークを簡単に設定するための、Wi-Fi Alliance によって策定された規格です。

ヤマハテクノロジー

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場再生を仮想的に再現する技術です。すべての音場プログラムはヘッドホン用に効果調整されており、自然で立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

SURROUND:AI

DSP の内部に搭載した AI が、「セリフ」「BGM」「環境音」「効果音」などの音の要素に注目してシーンを分析し、瞬時に最適なサラウンド効果を創り出します。

シネマ DSP (デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

本来映画館用に設計されたシステムをご家庭で再生すると、部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。シネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

シネマ DSP HD³

高さ方向の情報も含めた 3 次元の実測音場データを応用し、CINEMA DSP 3D に比べて圧倒的な音場再現性を持ち、より自然で緻密な 3D 音場を再現します。

バーチャルサラウンドバックスピーカー (VSBS)

サラウンドスピーカーを使用し、仮想的にサラウンドバックスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドバックスピーカーを設置しない場合でも、シネマ DSP の後方奥行き感ある視聴空間をお楽しみいただけます。

バーチャルシネマ DSP

フロントスピーカー 2 本のみでも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを設置していなくとも、豊かな音場プログラム再生をお楽しみいただけます。

バーチャルシネマフロント

サラウンドスピーカーを前方に配置したときに、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを前方に配置しても、自然なサラウンド再生をお楽しみいただけます。

バーチャルプレゼンススピーカー (VPS)

フロントスピーカー、センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーを使用し、仮想的にプレゼンススピーカーの音場を再現する技術です。プレゼンススピーカーを設置しない場合でも、シネマ DSP の豊かな 3 次元音場空間をお楽しみいただけます。

ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット (MP3、AAC など) で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮オーディオをより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

本機が対応している機器 / ファイル形式

対応機器

■ Bluetooth 機器

- 本機は A2DP プロファイルおよび AVRCP プロファイルに対応しています。
- Bluetooth 機器によっては、本機と接続できない場合や一部の機能に対応していない場合があります。

■ USB 機器

- FAT16 または FAT32 でフォーマットされた USB メモリーに対応しています。
その他の USB 機器は接続しないでください。
- 暗号化機能がある USB 機器は使用できません。
- USB 機器のメーカーや種類により、USB 機器が本機に認識されない場合や一部の機能が使えない場合があります。

■ AirPlay

- AirPlay は iOS 4.3.3 以降を搭載した iPhone、iPad、iPod touch、OS X Mountain Lion 以降を搭載した Mac、iTunes 10.2.2 以降を搭載した Mac と PC において動作します。
- Made for.
iPhone 7 Plus, iPhone 7, iPhone SE, iPhone 6s Plus, iPhone 6s, iPhone 6 Plus,
iPhone 6, iPhone 5s, iPhone 5c, iPhone 5, iPhone 4s
iPad Pro (10.5"), iPad Pro (12.9") 2nd Generation, iPad Pro (12.9") 1st Generation,
iPad Pro (9.7"), iPad mini 4, iPad Air 2, iPad mini 3, iPad Air, iPad mini 2, iPad mini,
iPad (5th generation),
iPad (4th generation), iPad (3rd generation), iPad 2
iPod touch (6th generation), iPod touch (5th generation)
(2018 年 5 月現在)

対応ファイル形式

■ USB/PC (NAS)

ファイル	サンプリング周波数 (kHz)	量子化ビット数 (bit)	ビットレート (kbps)	チャンネル数	ギャップレス 再生対応
WAV *	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192/352.8/384	16/24/32	—	2	✓
MP3	32/44.1/48	—	8 ~ 320	2	—
WMA	32/44.1/48	—	8 ~ 320	2	—
MPEG-4 AAC	32/44.1/48	—	8 ~ 320	2	—
FLAC	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192/352.8/384	16/24	—	2	✓
ALAC	32/44.1/48/88.2/96	16/24	—	2	✓
AIFF	32/44.1/48/88.2/96/ 176.4/192/352.8/384	16/24/32	—	2	✓
DSD	2.8MHz/5.6MHz/ 11.2MHz	1	—	2	—

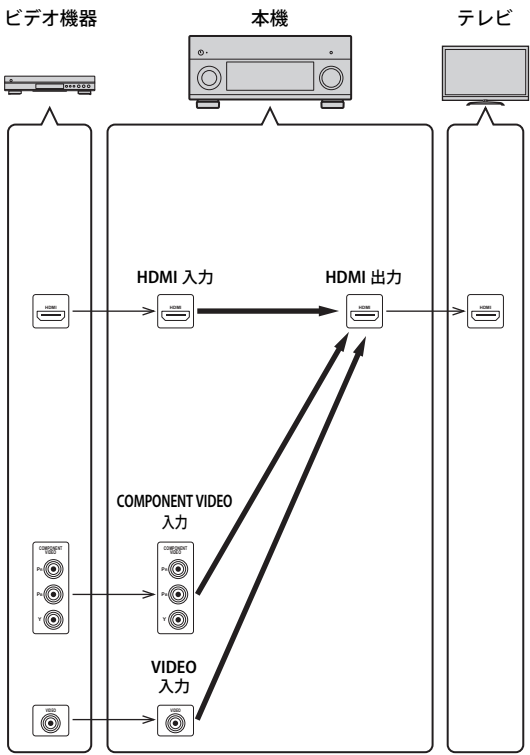
* リニア PCM フォーマットのみ。32bit-float ファイルは再生できません。



- メディアサーバー（パソコン / NAS）にインストールされているサーバーソフトにより、再生可能フォーマットが異なります。詳しくはサーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。
- DRM（デジタル著作権管理）により保護されたファイルは再生できません。
- サンプリング周波数が 352.8 kHz の場合、再生時は 176.4 kHz にダウンサンプリングされます。また、サンプリング周波数が 384kHz のとき、再生時は 192kHz にダウンサンプリングされます。
これらの音声は他の MusicCast 対応機器では再生できません。
- (RX-A3080 のみ)
ビュアダイレクトが有効なときは、352.8 および 384 kHz の再生はダウンサンプリングされません。

映像信号の流れ

ビデオ機器から本機に入力された映像信号は、以下のようにテレビに出力されます。



映像信号変換表



・設定メニューの「ビデオモード」(129 ページ) で、出力する HDMI 映像信号の解像度やアスペクト比を設定できます。

		HDMI 出力						
		解像度	480i	480p	720p	1080i	1080p	4K
HDMI 入力	480i	○	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)
	480p		○	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)
	720p			○	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)
	1080i			○ (*)	○	○ (*)	○ (*)	○ (*)
	1080p/50, 60Hz			○ (*)	○ (*)	○	○	
	1080p/24Hz					○	○	
	4K							○
COMPONENT VIDEO/ 入力	480i	○	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)
	480p		○	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)
	720p			○	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)
	1080i			○ (*)	○	○ (*)	○ (*)	○ (*)
VIDEO 入力	480i	○	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)	○ (*)

○：出力可

* 「HDMI ZONE OUT 割り当て」でゾーン 2 が割り当てられているとき、解像度変換は 1080p から 4K 変換のみ動作します。その他の解像度はパススルーとなります。

マルチゾーン出力

入力 \ 出力	本機の内蔵アンプを使用 (38 ページ)		外部アンプを使用 (95 ページ)			
	EXTRA SP1 ~ 2 端子		ZONE OUT 端子		HDMI OUT3(ZONE OUT) 端子	
	ゾーン 2	ゾーン 3	ゾーン 2	ゾーン 3	ゾーン 2 (*1)	ゾーン 4 (*2)
デジタル音声 (HDMI)	○ *3		○ *3		○ *4	○ *5、*8
デジタル音声 (COAXIAL/OPTICAL)	○ *6	○ *6	○ *6	○ *6	○ *6	
アナログ音声 (AUDIO)	○	○	○	○	○	
USB (*7)	○	○	○	○	○	
NET (SERVER/ NET RADIO/AirPlay/ radiko.jp/Spotify/ Deezer) (*7)	○	○	○	○	○	
TUNER	○	○	○	○	○	

○：出力可

*1 設定メニューの「HDMI ZONE OUT 割り当て」(131 ページ)を「ゾーン 2」(音声出力：オン)に設定時

*2 設定メニューの「HDMI ZONE OUT 割り当て」(131 ページ)を「ゾーン 4」(音声出力：オン)に設定時

*3 PCM 信号 (2 チャンネル) 入力時 (メインゾーンと同じ入力を選択時はステレオ音声で出力 [ダウンミックス])

設定メニューの「HDMI ZONE OUT 割り当て」(131 ページ)を「ゾーン 2」に設定時

*4 PCM 信号 (2 チャンネル) 入力時 (メインゾーンと同じ入力を選択時はステレオ音声で出力 [ダウンミックス])

*5 HDMI 音声パススルー (メインゾーンと同じ入力を選択時はステレオ音声で出力 [ダウンミックス])

*6 PCM 信号 (2 チャンネル) 入力時

*7 ゾーン 2/ ゾーン 3 で DSD 音声を再生するには、ゾーン 2/ ゾーン 3 の入力として「Main Zone Sync」を選ぶか、パーティーモード (99 ページ) をご利用ください。

*8 メインゾーンとゾーン 4 が同じインプットの場合、Main Zone で受信できる音声フォーマットが Zone4 に接続した機器によって制限されます。

HDMI について

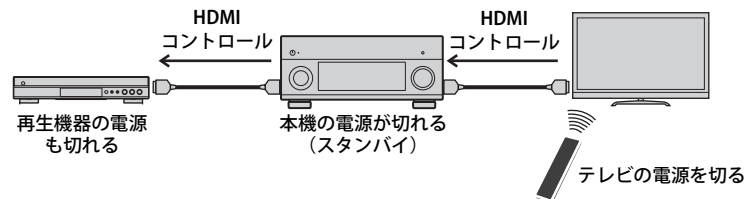
HDMI コントロール

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます (HDMI コントロール)。また HDMI ケーブルで接続した再生機器 (HDMI コントロール対応の BD/DVD プレーヤーなど) も操作できます。接続方法については、「テレビや再生機器を接続する」(40 ページ) および「ビデオ機器を接続する (BD/DVD プレーヤーなど)」(43 ページ) をご覧ください。

テレビのリモコン操作による連動機能

- ・電源スタンバイ
- ・音量調節および消音
- ・テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- ・テレビで再生機器を選択時に、本機の入力を再生機器に切り替え (映像をテレビに出力)
- ・音声出力機器の切り替え (本機またはテレビ)

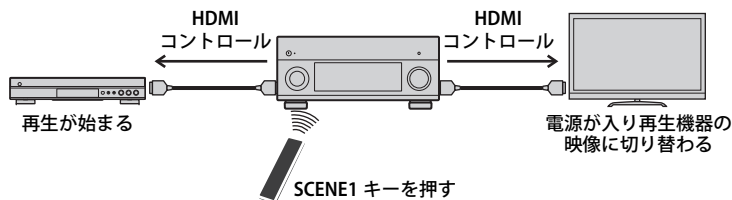
(動作イメージ)



本機のリモコン操作による連動機能

- ・シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入 (69 ページ)
- ・テレビの入力を本機の映像に切り替えて設定メニューを表示 (SET UP キー操作時)
- ・再生機器 (再生機能およびメニュー) を操作

(動作イメージ)



HDMI コントロールを使うには、テレビ、再生機器を接続後に以下の連動設定が必要です。
テレビの設定や操作については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

- HDMI コントロール対応の機器を新しく追加するたびに、以下の設定が必要になります。
- !
- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超えて接続されていると正しく機能しないことがあります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
 - 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
 - HDMI コントロール対応機器すべての動作を保証するものではありません。
 - HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

- 1 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。
- 2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD プレーヤーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。
本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、設定メニューの「HDMI コントロール」（131 ページ）を「オン」（初期値）に設定してから、関連項目（TV 音声入力、ARC、スタンバイ連動）を設定します。
- 3 テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。
- 4 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。
- 5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。
- 6 以下の点を確認する。
本機：再生機器からの HDMI 入力（「AV1 ～ 7」のいずれか）に切り替わっている。
ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。
テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。
- 7 テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。

オーディオリターンチャンネル (ARC)

本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

HDMI コントロール (164 ページ) の設定をしてから、以下を確認してください。

- 1 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。
- 2 本機の入力が自動的に「AUDIO1」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されることを確認する。

テレビの音声が出力されない場合は、以下を確認してください。

- 設定メニューの「ARC」(131 ページ) が「オン」になっている。
- HDMI ケーブルがテレビの ARC 対応 HDMI 端子に接続されている。

テレビの HDMI 端子が ARC に対応していない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。



- ARC 使用時に音声が途切れる場合は、設定メニューの「ARC」(131 ページ) を「オフ」に設定し、音声ケーブル (光デジタルまたはステレオピンケーブル) で本機とテレビを接続してください (41 ページ)。
- ARC 対応の HDMI ケーブルをお使いください。



- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AUDIO1」が設定されています。AUDIO1 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」(131 ページ) でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能 (69 ページ) を使う場合は、SCENE7 キーの入力設定もあわせて変更してください。

本機が対応している HDMI 信号

- 一部の再生機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像 / 音声を出力できません。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。
HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

主な仕様

入力端子

- アナログ音声
 - [RX-A3080]
 - ステレオ（アンバランス）×9（AV1～4、AUDIO1～3、PHONO、AUX）
 - ステレオ（バランス）×1（AUDIO4）（1:GHD、2:HOT、3:COLD）
 - [RX-A2080]
 - ステレオ（アンバランス）×9（AV1～4、AUDIO1～3、PHONO、AUX）
- デジタル音声
 - 光×3（AV3、AUDIO1～2）
（対応 fs：32kHz～96kHz）
 - 同軸×3（AV1～2、AUDIO3）
（対応 fs：32kHz～192kHz）
- 映像
 - コンボジットビデオ×4（AV1～4）
 - コンポーネントビデオ×2（AV1～2）
- HDMI 入力
 - HDMI×7（AV1～7）
- その他
 - USB×1（USB2.0）
 - NETWORK×1（100Base-TX/10Base-T）

出力端子

- アナログ音声
 - スピーカー出力×11（9チャンネル）（フロント左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバック左/右、エクストラスピーカー1左/右*1、エクストラスピーカー2左/右*2）
 - *1 割り当て変更可能 [F.PRESENCE、ZONE2、ZONE3、BI-AMP（フロント左/右）]
 - *2 割り当て変更可能 [R.PRESENCE、ZONE2、ZONE3、F.PRESENCE]
 - サブウーファー出力×2（SUBWOOFER1～2、ステレオ/フロント&リア/モノラル×2）
 - ヘッドホン出力×1（PHONES）
 - [RX-A3080]
 - PRE OUT×11チャンネル（フロント左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバック左/右、フロントプレゼンス左/右*3、リアプレゼンス左/右*4）
 - *3 ZONE2 との切り替え
 - *4 ZONE3 との切り替え
 - [RX-A2080]
 - PRE OUT×7チャンネル（フロント左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバック左/右）
 - ZONE OUT×2（ZONE2/ZONE3）
- HDMI 出力
 - HDMI OUT×3（HDMI OUT1～3*5）
 - *5 HDMI OUT3 は ZONE OUT 専用

その他の端子

- YPAO MIC×1
- REMOTE IN×1
- REMOTE OUT×1
- TRIGGER OUT×2
- RS-232C×1

HDMI

- HDMI 機能
 - 4K UltraHD Video（include 4K/60、50Hz 10/12bit）
 - 3D Video
 - オーディオリターンチャンネル（ARC）
 - HDMI コントロール（CEC）
 - Auto Lip Sync
 - 21:9 Aspect Ratio
 - Deep Color
 - x.v.Color
 - BT.2020 Colorimetry
 - HDR（High Dynamic Range）
 - HD オーディオ再生
 - HDMI スタンバイモードでの HDMI 入力選択
- 映像フォーマット
 - VGA
 - 480i/60Hz
 - 576i/50Hz
 - 480p/60Hz
 - 576p/50Hz
 - 720p/60Hz、50Hz
 - 1080i/60Hz、50Hz
 - 1080p/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
 - 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 音声フォーマット
 - Dolby Atmos
 - DTS:X
 - Dolby TrueHD
 - Dolby Digital Plus
 - Dolby Digital
 - DTS-HD Master Audio
 - DTS-HD High Resolution
 - DTS Express
 - DTS
 - DSD 2.8MHz 2～6チャンネル
 - PCM 2～8チャンネル（Max 192kHz/24bit）
 - AAC

- ・著作権保護：HDCP 準拠
(HDMI [AV 1 ～ 7]：HDCP 2.2 準拠)

チューナー

- ・アナログチューナー
FM/AM×1 (TUNER)

USB

- ・USB マスストレージクラス
- ・最大供給電流：1.0A

Bluetooth

- ・受信機能
ソース機器（例：スマートフォン、タブレット）から
AV レシーバー
- ・シンク機器からの再生 / 停止操作に対応
- ・規格.....Bluetooth Ver. 4.2
- ・対応プロファイル
受信機能.....A2DP、AVRCP
- ・対応コーデック
受信機能.....SBC、AAC
- ・対応コンテンツ保護.....SCMS-T 方式
- ・無線出力.....Bluetooth Class 2
- ・最大通信距離.....10m

MusicCast

- ・MusicCast アプリケーションによる制御 (iOS、Android)
- ・MusicCast Link クライアント
.....メインゾーン、ゾーン 2、ゾーン 3
- ・MusicCast Link マスター（入力ソース）.....
NET/USB/Bluetooth、アナログ外部入力、デジタル外部入力、ゾーン 2
- ・ネットワーク接続性.....Extend Mode、Connect

ネットワーク

- ・PC クライアント機能
- ・AirPlay 対応
- ・インターネットラジオ
- ・radiko.jp プレミアム
- ・Spotify
- ・Deezer
- ・Wi-Fi 機能
 - WPS (Wi-Fi Protected Setup) プッシュボタン式/PIN コード式
 - 無線接続による iOS デバイスとの共有
 - モバイル機器のダイレクト接続
 - 対応セキュリティ：WEP、WPA2-PSK (AES)、Mixed Mode
 - 無線周波数：2.4GHz/5GHz
 - 対応規格：IEEE 802.11 a/b/g/n/ac*
* 20MHz 帯域のみ

対応デコードフォーマット

- ・デコードフォーマット
 - Dolby Atmos
 - Dolby True HD、Dolby Digital Plus
 - Dolby Digital
 - DTS:X
 - DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express
 - DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1
 - DTS Digital Surround
 - AAC
- ・ポストデコードフォーマット
 - Dolby Surround
 - Neural:X
 - DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

オーディオ部

- ・定格出力 (2ch 同時駆動)
[RX-A3080]
(20Hz ～ 20kHz、0.06%THD、6Ω)
フロント左 / 右.....165W+165W
センター.....165W
サラウンド左 / 右.....165W+165W
サラウンドバック左 / 右.....165W+165W
フロントプレゼンス左 / 右.....165W+165W
(20Hz ～ 20kHz、0.06%THD、8Ω)
フロント左 / 右.....150W+150W
センター.....150W
サラウンド左 / 右.....150W+150W
サラウンドバック左 / 右.....150W+150W
フロントプレゼンス左 / 右.....150W+150W
(1kHz、0.9%THD、8Ω)
フロント左 / 右.....165W+165W
センター.....165W
サラウンド左 / 右.....165W+165W
サラウンドバック左 / 右.....165W+165W
フロントプレゼンス左 / 右.....165W+165W
[RX-A2080]
(20Hz ～ 20kHz、0.06%THD、6Ω)
フロント左 / 右.....150W+150W
センター.....150W
サラウンド左 / 右.....150W+150W
サラウンドバック左 / 右.....150W+150W
フロントプレゼンス左 / 右.....150W+150W
(20Hz ～ 20kHz、0.06%THD、8Ω)
フロント左 / 右.....140W+140W
センター.....140W
サラウンド左 / 右.....140W+140W
サラウンドバック左 / 右.....140W+140W
フロントプレゼンス左 / 右.....140W+140W
(1kHz、0.9%THD、8Ω)
フロント左 / 右.....155W+155W
センター.....155W
サラウンド左 / 右.....155W+155W
サラウンドバック左 / 右.....155W+155W
フロントプレゼンス左 / 右.....155W+155W

・定格出力（非同時駆動）

[RX-A3080]

(1kHz、0.9%THD、6Ω)

フロント左 / 右	200W/ch
センター	200W/ch
サラウンド左 / 右	200W/ch
サラウンドバック左 / 右	200W/ch
フロントプレゼンス左 / 右	200W/ch

(1kHz、0.9%THD、8Ω)

フロント左 / 右	185W/ch
センター	185W/ch
サラウンド左 / 右	185W/ch
サラウンドバック左 / 右	185W/ch
フロントプレゼンス左 / 右	185W/ch

[RX-A2080]

(1kHz、0.9%THD、6Ω)

フロント左 / 右	190W/ch
センター	190W/ch
サラウンド左 / 右	190W/ch
サラウンドバック左 / 右	190W/ch
フロントプレゼンス左 / 右	190W/ch

(1kHz、0.9%THD、8Ω)

フロント左 / 右	175W/ch
センター	175W/ch
サラウンド左 / 右	175W/ch
サラウンドバック左 / 右	175W/ch
フロントプレゼンス左 / 右	175W/ch

・実用最大出力（非同時駆動）

[RX-A3080]

(JEITA、1kHz、10%THD、6Ω)

フロント左 / 右	230W/ch
センター	230W/ch
サラウンド左 / 右	230W/ch
サラウンドバック左 / 右	230W/ch
フロントプレゼンス左 / 右	230W/ch

(JEITA、1kHz、10%THD、8Ω)

フロント左 / 右	230W/ch
センター	230W/ch
サラウンド左 / 右	230W/ch
サラウンドバック左 / 右	230W/ch
フロントプレゼンス左 / 右	230W/ch

[RX-A2080]

(JEITA、1kHz、10%THD、6Ω)

フロント左 / 右	220W/ch
センター	220W/ch
サラウンド左 / 右	220W/ch
サラウンドバック左 / 右	220W/ch
フロントプレゼンス左 / 右	220W/ch

(JEITA、1kHz、10%THD、8Ω)

フロント左 / 右	220W/ch
センター	220W/ch
サラウンド左 / 右	220W/ch
サラウンドバック左 / 右	230W/ch
フロントプレゼンス左 / 右	220W/ch

・ダイナミックパワー

[RX-A3080]

フロント左 / 右 (8/6/4/2Ω)175/220/295/410W

[RX-A2080]

フロント左 / 右 (8/6/4/2Ω)165/210/285/405W

・ダンピングファクタ

フロント左 / 右、1kHz、8Ω150 以上

・入力感度 / 入力インピーダンス

PHONO (1kHz、100W/8Ω)3.5mV/47kΩ

AUDIO2 ほか (1kHz、100W/8Ω)200mV/47kΩ

・最大許容入力

PHONO (1kHz、0.5%THD)45mV

AUDIO2 ほか (1kHz、0.5%THD)2.4V

・定格出力電圧 / 出力インピーダンス

PRE OUT

SUBWOOFER (50Hz)1.0V/470Ω

SUBWOOFER 以外 (1kHz)1.0V/470Ω

ZONE OUT1.0V/470Ω

・最大出力レベル

PRE OUT、ZONE OUT2.0V

・ヘッドホンインピーダンス16Ω 以上

・周波数特性

AUDIO2 ほか (Pure Direct、10Hz ~ 100kHz)+0/-3dB

・RIAA 偏差

PHONO (20Hz ~ 20kHz)0±0.5dB

・全高調波歪率

[RX-A3080]

PHONO → PRE OUT (1kHz、1V)0.04% 以下

AUDIO2 ほか→スピーカーアウト (20Hz ~ 20kHz、75W/8Ω)

.....0.04% 以下

[RX-A2080]

PHONO → PRE OUT (1kHz、1V)0.04% 以下

AUDIO2 ほか→スピーカーアウト (20Hz ~ 20kHz、70W/8Ω)

.....0.04% 以下

・S/N 比 (IHF ネットワーク)

(Pure Direct、入力 1kΩ ショート、スピーカーアウト)

PHONO95dB 以上

AUDIO2 ほか110dB 以上

・残留ノイズ (IHF ネットワーク)

スピーカーアウト150μV 以下

・チャンネルセパレーション

(入力 1kΩ ショート、1kHz/10kHz)

PHONO75dB/60dB 以上

AUDIO2 ほか75dB/60dB 以上

・音量可変範囲

メインゾーンMUTE、-80dB ~ +16.5dB (0.5dB 単位)

ゾーン 2/ ゾーン 3

.....MUTE、-80dB ~ +16.5dB (0.5dB 単位)

・トーンコントロール特性

メインゾーン

Bass (可変幅)	±6.0dB/50Hz (0.5dB 単位)
Bass (ターンオーバー周波数)	350Hz
Treble (可変幅)	±6.0dB/20kHz (0.5dB 単位)
Treble (ターンオーバー周波数)	3.5kHz

ゾーン 2/ ゾーン 3

Bass (可変幅)	±6.0dB/50Hz (0.5dB 単位)
Bass (ターンオーバー周波数)	350Hz
Treble (可変幅)	±6.0dB/20kHz (0.5dB 単位)
Treble (ターンオーバー周波数)	3.5kHz

・フィルター特性

(fc = 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz)

H.P.F. (フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック : 小)	12dB/oct.
L.P.F. (サブウーファー)	24dB/oct.

ビデオ部

- ・ビデオ信号方式NTSC/PAL/SECAM
- ・信号レベル
 - コンポジットビデオ 1Vp-p/75Ω
 - コンポーネントビデオ
 - Y 1Vp-p/75Ω
 - Pb/Pr 0.7Vp-p/75Ω
- ・ビデオ最大許容入力 1.5Vp-p 以上

FM チューナー部

- ・受信周波数範囲76.0MHz ~ 94.9MHz
(FM 補完放送対応)
- ・50dB SN 感度 (IHF、1kHz、100% MOD.)
 - モノ 3.0μV (20.8dBf)
- ・S/N 比 (IHF)
 - モノ / ステレオ 69dB/68dB
- ・歪率 (1kHz)
 - モノ / ステレオ 0.5%/0.6%
- ・アンテナ入力75Ω、アンバランス

AM チューナー部

- ・受信周波数範囲 531kHz ~ 1611kHz

総合

- ・電源電圧AC 100V 50/60Hz
- ・消費電力490W
- ・待機時消費電力
 - HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ /
ネットワークスタンバイオフ 0.1W
 - HDMI コントロールオン / スタンバイスルーオン (無信号時) /
ネットワークスタンバイオフ 1.4W
 - HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ /
ネットワークスタンバイオン /Bluetooth スタンバイオフ
 - 有線 1.4W
 - 無線 (Wi-Fi) 1.7W
 - HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ /
ネットワークスタンバイオン (有線) /Bluetooth スタンバイオン 1.5W
 - HDMI コントロールオン / スタンバイスルーオン (無信号時) /
ネットワークスタンバイオン /Bluetooth スタンバイオン 2.5W
- ・寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)435×192×474mm
(脚部、突起部を含む)
- ・参考寸法 (幅 × 高さ × 奥行き) (無線アンテナ直立時)
 - 435×269×474mm
(脚部、突起部を含む)
- ・質量
 - [RX-A3080] 19.6kg
 - [RX-A2080] 17.0kg

* この取扱説明書では、印刷時点の最新仕様で説明をしております。
最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてご覧いただけますようお願いいたします。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通)  **0570-011-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通)  **0570-012-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪府浪速区難波中1丁目13-17
ナンバ辻本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズが変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Manual Development Department
© 2018 Yamaha Corporation

2018 年 6 月発行 AM-A0
Printed in Malaysia

VAA0000